
シラバス

2024年度



聖マリアンナ医科大学看護専門学校

「シラバス」は、本校カリキュラムを構成する全ての科目の、学習目的・学習目標・講義題目・学習内容・評価方法などが記載された学習指導計画書です。

各科目の講義開講前に「シラバス」を確認することで、各科目で何を学び、学習の成果がどのように評価されるのかを把握することができます。

さらには、この「シラバス」を日々の学習活動（予習や復習等）に活用して頂き、より主体的で効率的な学習につなげて頂くことを願います。

学 籍 番 号	
氏 名	

シ ラ バ ス

聖マリアンナ医科大学 看護専門学校

目 次

基 礎 分 野

宗 教 哲 学	1
音 楽	4
人間関係論	5
論 理 学	7
生 物 学	10
社 会 学	12
英 語	13
看護と人間工学	15
生涯発達学	16
現代家族論	18
生涯教育学	20
情 報 科 学	21
異文化コミュニケーション論	23
文化人類学	24

専門基礎分野

形態機能学Ⅰ－① 解剖学	27
形態機能学Ⅰ－② 解剖学	28
形態機能学Ⅱ－① 生理学	29
形態機能学Ⅱ－② 生理学	31
看護形態機能学	33
生化学	35
栄養学	37
病気の発生とメカニズム（病理学）	39
微生物と病気（微生物学）	41
薬理作用と健康（薬理学）	43
現代医療論	44
疾病診断総論	46
疾病治療総論	47
疾病治療論Ⅰ	49
疾病治療論Ⅱ	60
疾病治療論Ⅲ	64
疾病治療論Ⅳ	67
疾病治療論Ⅴ	75

臨床心理学	78
予 防 医 学	80
社会福祉論	82
リハビリテーション論	83
医療関係法規	84

専 門 分 野

基礎看護学	87
地域・在宅看護論	115
成人看護学	131
老年看護学	149
小児看護学	161
母性看護学	171
精神看護学	181
看護の統合と実践	191

2024 年度 看護技術マトリクス

基 礎 分 野

基礎分野では、専門基礎分野・専門分野の基礎知識として役立てるとともに、キリスト教的人類愛を基盤とした豊かな人間性を養います。

科 目 名：宗教哲学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： キリスト教の立場から人間文化としての宗教を学び、建学の精神を理解する。			
学習目標： 1. 医療者が直面する具体的な事例に即して、生物学的な「生命」、一人ひとりのかけがえのない「人生」、家庭「生活」、そしてそれらを取り巻く社会「生活」が、どのような意味で互いに深く結ばれており、なぜ切り離すことができないのかを説明することができるようになる。 2. 医療者が直面する具体的な事例に即して、どのようにすれば生命を粗末にせずにすむか、生命を尊重するにはどのような配慮が必要かを説明することができるようになる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	オリエンテーション	宗教哲学」の目的・内容・講義への取り組み方・成績評価等について理解する。	講義
2	いのちの未来	いのちの未来に対して課せられている私たちの責任を見つめる。	講義
3	食べることと生きること	食事の摂り方をきっかけにして、いのちを大切にするための感性を磨く。	講義
4	聖書の生命観	いのちについて、人間について、聖書がどのように語っているかを概観する。	講義
5	旧約聖書から学ぶ人間の尊厳	旧約聖書の「創造物語」から人間の存在意義と相互の関わり的重要性について学ぶ。	講義
6	新約聖書から学ぶ人間の尊厳	たとえ話「善いサマリア人」を通して隣人愛に基づく人間の尊厳を理解する。	講義
7	いのちを迎え入れるための配慮	いのちの始まりは一瞬ではない。いのちを迎え入れるために配慮すべきことを学ぶ。	講義
8	子どもを守る取り組み	子どもを守る欧米の様々な取り組みを知り、日本の課題を見つめる。	講義
9	ともに暮らす家を大切に	人間活動が他者と全生物に与える影響を見つめ総合的なエコロジーについて学ぶ。	講義
10	care 中心の医療を目指す	cure 中心の医療が抱えている諸問題と care 中心の医療が目指す内容を理解する。	講義
11	自分らしい最期を迎えるため	最期まで自分らしく生きることの重要性を理解する。	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
12	死を迎え入れるための配慮	QOD（終末の質）を向上させるために配慮すべきことを学ぶ。	講義
13	死	諸宗教の教えや実践が示す「死」の捉え方を知る。	講義
14	カトリック教会の死生観	カトリック教会が死をどのように捉え、死に関わろうとしているかを学ぶ。	講義
15	「宗教哲学」まとめ	「いのちを大切にす道を選ぶ」ことにこだわる必要性を考える。	講義

評価方法：

授業態度、提出物の論理性、提出状況等を総合的に評価する。

評価基準：

60 点以上で単位修得

参考文献：

井上洋治『キリスト教がよくわかる本』PHP 研究所、1991 年
医療法人聖粒会慈恵病院『「こうのとりのゆりかご」は問いかける』熊本日日新聞社、2013 年
E・キューブラー・ロス『続 死ぬ瞬間』読売新聞東京本社、2007 年
E・キューブラー・ロス『「死ぬ瞬間」と死後の生』中央公論新社、2016 年
カトリック中央協議会出版部（編）『すべてのいのちを守るため』カトリック中央協議会、2020 年
教皇庁教理省『生命のはじまりに関する教書』カトリック中央協議会、1996 年
教皇フランシスコ『回勅 ラウダート・シ』カトリック中央協議会、2016 年
教皇フランシスコ『使徒的勸告 ラウダーテ・デウム』カトリック中央協議会、2023 年
教皇ヨハネ・パウロ二世『回勅 いのちの福音』カトリック中央協議会、1996 年
小松奈美子『医療倫理の扉』北樹出版、2005 年
鮫島浩二『わたしがあなたを選びました』主婦の友社、2013 年
島蘭進『いのちを“つくって”もいいですか』NHK 出版、2016 年
徳永進、細谷亮太ほか『看取るあなたへ』河出書房新社、2017 年
中村桂子・山岸敦『「生きている」を見つめる医療』講談社現代新書、2007 年
長島正・長島世津子『最後の授業－愛とケアの人間学』丸善プラネット、2011 年
西田英史『ではまた明日』草思社、1998 年
西智弘『だから、もう眠らせてほしい』晶文社、2020 年
日本カトリック司教団『生命、神のたまもの』カトリック中央協議会、1996 年
日本カトリック司教団『いのちへのまなざし（増補新版）』カトリック中央協議会、2017 年
日本カトリック司教協議会「今こそ原発の廃止を」編纂委員会
『今こそ原発の廃止を』カトリック中央協議会、2016 年
日本カトリック司教協議会社会司教委員会（編）
『なぜ教会は社会問題にかかわるのか Q&A』カトリック中央協議会、2012 年

参考文献：

棚島次郎『先端医療と向き合う』平凡社、2020 年
蓮田太二・柏木恭典『名前のない母子をみつめて』北大路書房、2016 年
蓮田太二『ゆりかごにそっと』方丈社、2018 年
フランシスコ会聖書研究所訳注『聖書』サンパウロ、2015 年
宮本顕二・宮本礼子『欧米に寝たきり老人はいない』中央公論社、2015 年
本橋成一『うちは精肉店』農山漁村文化協会、2013 年
柳澤桂子『われわれはなぜ死ぬのか』草思社、2005 年
山下弘子『雨上がりに咲く向日葵のように』宝島社、2014 年
葉祥明『ひかりの世界』佼成出版社、2011 年

留意事項：

1. 講義中、分からないことや確認したいことがあれば、遠慮せずに挙手してください。
教員が言い間違えることもあるので、質問や確認を歓迎します。ディスカッション指定の時間以外における学生同士の話し合いを禁じます。
2. 講義最後に予習用「事前学習資料」を配布します。「学習ガイダンス」に記されている次回の「講義題目」と「内容」を確認し、その「事前学習資料」を次回講義までに読み、あなた自身の気づきを記したメモを次回講義に持ってきてください。
3. 講義後半に Reaction Paper 用の原稿用紙を配布します。「①事前学習資料全体を読んであなたが気づいたこと、②講義全体を学んであなたが気づいたこと、③それらの気づきから見えてきたあなた自身の今の課題」について 300 字以上の Reaction Paper を作成し、提出してください。
4. Reaction Paper には、専門知識がない中学生が読んでも理解できる文章を書くように心がけてください。主題ごとに段落分けをしていなかったり、論理的でなかったり、適切な句読点がなかったり、誤字脱字があれば減点します。
5. 講義中、『新約聖書』を読みます。『新約聖書』または『聖書』をご用意ください。どこの出版社のものでもかまいません。お家にあるならば、それを使ってください。

科 目 名：音楽		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 音楽は人の心に様々なことを感じさせたり、思い起こさせたりする。また何かを作り出す喜び、苦しみも与えると言われているので、人をさらに深く理解するために音楽を学ぶ。			
学習目標： 講義・音楽鑑賞・合唱を通し、音楽が人に与える影響を考えることができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	音楽とは	耳をすませば リトミック ハーモニーを楽しむ	講義
2	人と音楽とのかかわり	昔から愛されている唱歌を探る なつかしい歌の鑑賞	講義
3	音楽療法について	音楽療法の概要 臨床への活用	講義
4	合唱	聖歌	講義
5	合唱	聖歌	講義
6	合唱	聖歌	講義
7	合唱	聖歌	講義
	終了試験（1 時間）	実技・レポート	試験
評価方法： 1. 二重奏 2. レポート			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： カトリック聖歌集、印刷教材			

科目名：人間関係論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（14 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 人間関係の基盤となる自分自身を認識し、自己・他者との人間関係・集団の中での人間関係に 焦点を当て、関係を促進するために必要とされる能力を身につける。			
学習目標： 1. 人間の多様性について理解を深める。 2. コミュニケーションスキルを体験し、自己活用について考える。 3. 自分をどこまで知っているか、相手をどこまで受容できるか、演習を通して理解する。 4. 対人スキル、カウンセリング・マインドを理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	人間関係論概論	授業オリエンテーション	講義
2	「ポジティブとネガティブ、 そして自分らしさ」	自分を知ることの目的	講義
3		グループでのリフレーミング演習	演習
4	「私の気持ち、あなたの気持ち、 どっちが大事？」	人間関係の基本	講義
5		アサーショントレーニング演習	演習
6	「看護すること、されること」	関係性の提供、依存と自立、大人として 扱うこと	講義
7		事例を読んでの グループディスカッション	演習
8	「関係性を作ること」	関係をどうやって作っていくのか	講義
9		ロールプレイと グループディスカッション	演習
10	「仕事をする事」	マネジメントすること、権限や 構造の認識、報告連絡相談	講義
11		事例を読んでの グループディスカッション	演習
12	「チームワークについて」	集団心理、ピアサポート、 ワークグループ	講義
13		事例を読んでの グループディスカッション	演習
14	まとめ	質疑応答と補足	演習

評価方法： 終了試験（筆記試験）および講義ごとの提出物により評価を行う。
評価基準： 60 点以上を合格とする。
参考文献： 講義資料は授業の際に配布します。

科 目 名：論理学	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年	開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師		
学習目的：すじみちを立てて物事を考えることを学ぶ。		
授業概要： この科目では、私たちが日常的に用いる日本語を用いた文章執筆をもって、「他者に伝わる文章の在り方」を検討し、論理的な物事の考え方を修得する。つまり一般的に用いられる思考の形式・法則性を図示化する「論理学」ではなく、他者の理解を促すことを目的とした「論理的に文章を執筆する」ことに焦点を絞った「論理学」を本科目では学修する。 日常生活の中で私たちは文章を読むことを通して物事を理解することが多い、例えば今、目にしているこのシラバスの「授業概要」を読み、「論理学」という科目の授業がどのような内容であるのかを理解しようと試みているに違いない。十分に伝わるように文章を構成しているつもりであるが、私の力量だけでなく、本シラバスを読む学生の力量以外の要素によっても時に理解を阻むことがある。それをできる限り排除するために、執筆者がおこなうあらゆる工夫が「他者に伝わる文章の執筆」である。以下の「講義題目および内容」に記した①文章の種類によって異なる表出・構成方法、②文章執筆時の基本的なルール／マナー、③他者の意見への「批判的な検討」の必要性、④引用の方法、要約を含む、⑤参考文献リストの記載法について学修することを通して、上記への理解を育み、論理的な考え方を獲得していくこととしたい。		
学習目標： 他者に伝わる論理的な文章を作成することができるようになる。また論理的な文章とするために推敲することができるようになる。 1. 日本語の特徴を理解できる。 2. 相手の意見を聞き、自分の意見を主張できる。		
回数	講義題目および内容	方 法
1 回目	オリエンテーション 本科目「論理学」の進め方について、本シラバスに基づいて授業概要、学習目標、講義題目及び内容、評価方法そして評価基準の解説をする。その後、これまでの文章の執筆にかかわる経験、ワークシート内の課題に基づく文章の執筆をおこない、文章を通して自己を表出することの意義や客観的に物事を論じることの楽しさと重要性を知る。	講義
2 回目	文章の種類と表出のちがい／文章の構成方法 日常生活を送る中で、文章は様々な目的に応じて執筆がおこなわれる。その際、状況に応じた文章の執筆が求められるが、どのように書くことを意識しなければならないのか。別の言い方をすれば、どのようなことにポイントを置いて書けば、目的に即した文章となるのか。今回の講義では、文章の種類に応じた執筆上のポイントがどこにあるかについて検討する。	講義

回数	講義題目および内容	方 法
3 回目	文章執筆時の基本的なルール/マナー 読み手を意識して文章を執筆する際に、書き手が守らなければならない共通事項（ルール/マナー）が存在する。まず文章執筆時のルール/マナーの洗い出しをおこない、受講者間の共通理解を育む。次にそれらが不適切もしくは不十分な例文を読み、修正することができるようにするこれらを経て、自ら作成した文章の修正をおこない、より良く文章を作成するための基本的なルール/マナーの修得を図る。	講義
4 回目	他者の意見への「批判的な検討」の必要性 文章の執筆の際には自己の主張のみ、もしくは他者の考えの提示だけでは不十分である。前者は「独り善がり」の文章として見られ、後者は「主張のない」文章として扱われるためである。そのため文章の執筆にあたっては自己の主張の正当性を他者の意見を用いて提示することで、「根拠」のある文章となる。今回の講義では、執筆する文章を「独り善がり」なものとしなないための工夫を検討する。その際に他者の意見と事実を区別して用いることを確認し、他者の意見についての批判的検討をおこなうことで、文章中に提示される主張の価値を高めることを検討していく。	講義
5 回目	引用の方法、要約を含む 前回の講義で学修した執筆する文章中に他者の意見を検討し、用いる際には、自己の主張と混在しないようにすることが執筆者の必須要件である。本講義では、その方法を学修する。引用の方法は大別すれば、直接引用と間接引用に分けられるが、引用者による要約を用いる後者の間接引用では、引用する文章の執筆者の意図を切り離して用いられるケースが少なくない。元の文章、オリジナルの文章の意図を汲むことを意識するべく「正しく」要約することを検討する。	講義
6 回目	参考文献リストの記載法 本文中の引用の表記と併せて、当該ページの最下部もしくは文章の最後に引用に対応する参考文献リストの作成が不可欠である。むしろ引用とその情報が記されることで、自らの文章の根拠が明確になると言っても過言ではない。本講義では本文中の引用に関わる情報をもとに、執筆された文章の読み手に提供すべきリストの作成方法について、医療・看護系論文の記載法に即した参考文献リストの作成法を確認する。	講義
7 回目	まとめ他者に伝わる文章の工夫 これまでの学修を想起し、伝わる文章を執筆する際にどのような「工夫」をすることが必要なのかを検討する。その際、実際に一定量の文章の執筆をおこない、その中に自らの工夫を組み入れる。さらに時間があれば、自分以外の者が作成した文章について、より良くするための推敲をおこない、取り入れるべき課題についてのヒントを得ることも検討する。	講義
	終了試験（1 時間）	試験

評価方法： 課題作文および、授業時間中の学習活動等による。
評価基準：60 点以上で単位修得 ・ 授業時間中のワークシート 40% ・ 終了試験（レポート） 60%
授業担当者からの一言： ・ 本科目の終了試験はレポートを執筆して提出していただくことを想定しています。その際に家族でも同級生でも読んでもらって改善点に耳を傾けましょう。他者の目が入ると文章の質はアップします。 ・ 当たり前に行けることが前提となっている日本語の文章ですが、「きちんと」書こうとすると、そう簡単なことではありません。一定レベルのレベルに到達できていないと判断する場合には、及第とならない場合もあります。真摯に自分の文章と向き合い、「正しく」伝える技術を修得しましょう。このスキルはあなたの一生に役立ちます。

科 目 名：生物学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 生物・生命現象の一般原理や基礎を理解し、生物としての人間を知る。			
学習目標： 1. 生物の機能・構造上の基本単位である細胞の化学成分や細胞膜の構造と機能について理解する。 2. 細胞内部の種々の構造とその機能、および細菌とウイルスの相違点について理解する。 3. 遺伝子としての DNA の構造と、生物が子孫に遺伝情報を伝えるしくみおよびその法則性について理解する。 4. 遺伝情報が形質として発現する過程について理解する。 5. 遺伝情報の発現調節と細胞分化の関係を理解する。 6. 多細胞生物における細胞増殖のしくみについて理解する。 7. 生物が繁殖する為のしくみと、1 個の受精卵から種々の細胞や組織が分化する過程の概要を理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	細胞の構造と機能①	1. 生命体を構成する物質 2. 生体膜の構造と機能	講義
2	細胞の構造と機能②	3. 細胞小器官の基本構造 4. 多細胞生物の体制 5. 細胞間結合	講義
3	遺伝子の構造と機能	1. DNA の構造 2. 転写 3. 翻訳	講義
4	細胞増殖	1. DNA の複製 2. 染色体の構造 3. 体細胞分裂	講義
5	生殖と発生①	1. 無性生殖と有性生殖 2. 減数分裂 3. 配偶子形成	講義
6	生殖と発生②	4. 受精 5. 発生	講義
7	遺伝のしくみ	1. メンデルの遺伝の法則 2. 人の遺伝病	講義
	終了試験（1 時間）		試験

評価方法： 筆記テストおよび授業態度により総合的に評価する。
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト： 系統看護学講座 基礎分野 生物学

科 目 名：社会学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 社会構造や人間の社会的な行動を理解し、社会の変動を考察する。			
学習目標： 1．人間は、社会の中で他者との相互作用を通して自己概念が形成されていくことを理解する。 2．生涯を通して個人が多様な集団に所属し、社会に影響していくことを理解する。 3．社会学研究の実践を通して、社会のシステムや社会関係の形成について学ぶ。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	社会学概論	各講義題目に関連する事象（資料）を 基に、次の視点で学びを深める。 1．自己の意見の明確化 2．問題点の考察 3．問題点に対する提案	講義
2	個人と社会		講義
3	集団と社会		講義
4	家族社会学		講義
5	地域社会学		講義
6	労働社会学		講義
7	社会調査		講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 1．授業参加態度 2．試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト：印刷教材			

科 目 名：英語		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： グローバル化する医療現場で必要となる英語力を身につけるとともに、医療・看護に関する海外文献を読解する基礎的能力を養う。			
学習目標： 1. 医療現場でよく使われる言い回し、表現法を覚えて、外国人患者の対応時などに適切に英語でコミュニケーションをとれるようになる。 2. 医療・看護用語の学習を行い、海外文献を読解して概要を理解することができるようになる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	外国人患者との基礎会話 診療科の名称	患者を励ますための英語表現 診療科・専門医の名称	講義
2	初診の手続き 体の名称	初診の手続きを行う際の英語表現 体の名称を表す語句	講義
3	気分を尋ねる 臓器の名称	患者の問診に関する英語表現 臓器の名称を表す語句	講義
4	問診票の記入 疾患名①	問診票への記入に関する英語表現 内科・消化器科・循環器系の病名	講義
5	病院内の案内 疾患名②	行き先の案内に関する英語表現 精神科・小児科・外科・整形外科・耳鼻科の病名	講義
6	症状に関する表現①	病状の問診に関する英語表現 頭部に起こる症状	講義
7	症状に関する表現②	痛みの場所の問診に関する英語表現 肩から下に起こる症状	講義
8	症状に関する表現③	症状の持続時間の問診に関する英語表現 体全体に起こる症状	講義
9	検査・処置の手順の説明	検査・処置に関する用語と 手順の説明に関する英語表現	講義
10	入院患者との会話	入院患者との会話に関する英語表現	講義
11	手術前後の説明	手術前後の説明に関する英語表現	講義
12	薬の説明	薬の説明に関する英語表現 内用薬・外用薬の種類と名称	講義
13	看護師の異文化理解	文化の違いを配慮した コミュニケーションに関する英語表現	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
14	退院後の説明	退院後の注意に関する英語表現 医療英語の略語表現	講義
15	まとめ 終了試験	全体の復習・終了試験	試験
評価方法： 試験、平常点			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 井上真紀、佐藤利哉（著） 『Lifesaver, New Edition—Basic English in Medical Situations』2019 年 ナショナルジオグラフィック・センゲージラーニング			

科 目 名：看護と人間工学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 人間が動作する場合における安全・安楽を追求する。人間の種々の特性（解剖学的・物理的・生理学的等）を理解し、効率的な動作・作業、人間に適した環境・システムについて学んでいく			
学習目標： 1. 人間工学の基礎および看護に関連する基本的な物理現象を理解する 2. 看護業務における安全管理および合理的な介助技術の方法について理解する			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	人間工学とは	1. 授業概要、人間工学とは 2. 人と人、人とモノとのかかわり	講義
2	人間の特性と機械	1. 五感、身体の動き 2. センサーと情報、人－機械系	講義
3	ボディメカニクス①	1. 安全・安楽な移動、移乗 2. 重力と運動の法則	講義
4	ボディメカニクス②	1. 圧力、摩擦力 2. ベクトル、テコ、力のモーメント	講義
5	姿勢と動作	1. 人間の動きの中での姿勢のあり方 2. 重心と支持基底面	講義
6	看護業務リスク	1. ヒューマンエラーとヒヤリハット 2. リスクマネージメント	講義
7	安全性の確保	1. 人間の信頼性、 システムの信頼性と安全性 2. バリアフリー、 ユニバーサルデザイン	講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法：終了試験またはレポート			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 「イラストで学ぶ看護人間工学」（小川鑛一著、東京電機大学出版局） その他、授業の中で提示する			
留意事項： 教科書等の忘れ物に注意し、課題があれば提出期限を厳守すること			

科 目 名：生涯発達学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 生命の誕生から死に至るまでの人間の発達について学ぶ。また、これまでの研究によって得られた知見をもとに現代社会における「発達」について考える。			
学習目標： 1. 人間の発達をさまざまな視点から捉えることができる。 2. 発達に関する諸理論について理解できる。 3. 人間の生涯にわたる身体発達と精神発達の様相が理解できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	1. 発達とは何か	1) 発達を捉える視点 2) 発達の理論 3) 発達段階・発達課題	
2	2. 胎児・乳児期の発達 3. 幼児期の認知機能と母子関係 4. 幼児期の対人関係と社会性	1) 胎児が生まれてくるまでの過程 2) 乳児の能力 1) 基本的生活習慣の獲得 2) 幼児期の認知機能、養育者との関係の発達 1) 幼児期の対人関係 2) 幼児期に直面しやすい臨床的な問題	
3	5. 学童期の認知機能と社会性 6. 学童期の学校適応と動機付け	1) 学童期の認知機能・社会性の発達 1) 学童期の学校への適応の問題や学習意欲	
4	7. 思春期の発達 8. 青年期の発達	1) 思春期における親との対人関係 2) 思春期に特有な問題 1) 青年期におけるアイデンティティ・キャリア発達	
5	9. 成人期のキャリア発達 10. 成人期の家庭生活	1) 成人期における仕事とは 1) 成人期にまつわる家庭生活上の発達課題	
6	11. 中年期の危機 12. 中年期から老年期の発達	1) 中年期の危機・アイデンティティ 1) 中年期の夫婦関係 2) 「老いる」ということ	

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
7	13. 老年期の発達	1) 老年期の発達について 2) 老年期の生きがい、認知症など	
	終了試験（1時間）		
評価方法： 終了試験またはレポート			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 授業の中で提示する。			
留意事項： 生涯にわたる人間の発達を、身体的・精神的・社会的な側面から学習します。生後直後の発達から高齢期の変化までを学び、看護に必要な実践的知識としてほしい。			

科 目 名：現代家族論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 現代家族の多様な様態や直面する諸問題について学ぶ。			
学習目標： 1. 家族に関する基礎的知識を理解する。 2. 多様な家族のあり方が存在することや現代家族における問題点を知る。 3. 家族の危機とそこから波及する影響について理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	1. 家族とは 2. 家族の歴史的変化	1) 家族の定義 2) 家族にかかわる用語 3) 家族の類型・分類 1) 家族観の変遷	講義
2	3. 家族の変動 4. 家族の内部構造	1) 家族形態の変化 2) 家族機能の変化 1) 家族の役割構造 2) 家族の勢力構造 3) 家族の感情構造	講義
3	5. 家族の形成 6. 家族機能と社会的支援	1) 結婚の意味と機能 1) 子どもの養育と社会化 2) 老親の扶養	講義
4	7. 家族関係	1) 夫婦関係 2) 親子関係 3) 高齢期の家族関係	講義
5	8. 家族の危機とライフコース	1) 家族危機の概念 2) 家族危機の評価 3) 家族危機理論	講義
6			
7	9. これからの家族	1) 家族の個人化と社会的包摂	講義
	終了試験（1 時間）		
評価方法： 終了試験またはレポート			
評価基準： 60 点以上で単位修得			

テキスト・参考文献：

授業の中で提示する。

留意事項：

少子高齢化が進展する中で、家族は大きく変化し、多くの課題に直面している。そこで、現代家族の様々なあり方について学ぶとともに、自らの育った家族が多少な家族の中の一形態であることを認識してほしい。

科 目 名：生涯教育学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 生涯に渡って学習を行う人間の発達段階に応じた教育について、基本的な理解を得る。 現代社会における生涯教育についての現状と課題を捉えた教育指導について学ぶ。			
学習目標： 1．発達段階に合わせた教育（指導技術）を学ぶ。 2．学ぶことの意味や意義について考え、看護場面に応用する力を養う。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	生涯教育とは	必要性・意義について考える	講義
2	学齢期の教育	学齢期の中でのそれぞれの課題 ・教育の方法について考える	
3	成人期の教育	学ぶことの意味について考える	
4	高齢者への教育	学びの楽しさから考える	
5	現代社会の課題	今日における諸問題や課題について 意識し、考える	
6	看護師への教育①	看護師への教育の必要性について 考える	
7	看護師への教育②	看護場面における教育の応用に ついて考える	
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法：筆記試験			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト：配布資料			
参考文献： （1）川嶋みどり 『看護の力』 岩波書店 （2）国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター 『生涯学習支援論』 ぎょうせい （3）鈴木 眞理 『学ばないこと・学ぶことーとまれ・生涯学習の・ススメ』 学文社 （4）中井俊樹・小林忠資編著 『看護のための教育学』 医学書院 （5）三輪 建二 『おとなの学びとは何かー学び合いの共生社会』 鳳書房			
事前学習：参考文献の（1）から（3）の書籍は読んで自分なりの意見を持ち受講すること			

科 目 名：情報科学	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）	
履修学年：2 学年	開講時期：後期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 本講義では、医療分野においても日常業務の一部となった ICT（情報通信技術）の基本的な活用方法を学ぶ。ICT は容易な情報収集と発信を可能としたが、同時に個人の権利（個人情報、知的財産権など）を侵害するリスクも増大させた。すでにこのようなリスクに対応した医療ネットワークが構築、実用されており、医療者はこの仕組みを理解した上で適切に情報を活用することが求められる。本講義では、このような情報化社会に適応した立ち居振る舞いができる看護師の養成を目的とする。			
学習目標： 1. コンピューター、特に文書作成や表計算アプリの基本操作を修得し、データを整理、加工して図表にまとめられる。 2. 医療分野で汎用される統計資料を理解する能力を身につけ、客観的事実をもとにした判断力を養う基盤とする。 3. 階層化されている医療ネットワーク・セキュリティーの仕組みを理解し、個人情報、知的財産権等に配慮した ICT の活用ができる。 4. ICT を活用した、診療や看護の現状と使用する上での課題を知る。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	情報科学の意義、データの形、知的財産権（主に著作権）	看護における統計的手法の有用性や学習すべき基礎項目をおさえる。	講義
2	度数と基本統計量 1（代表値） コンピューターの歴史としくみ	量的データの度数分布（階級）と平均値、中央値、最頻値について	講義
3	基本統計 2（散布度）	正規分布と標準偏差、箱ひげ図と四分位、範囲（レンジ）	講義
4	コンピューターの基本操作	情報科学演習 1 の解説	講義
5	情報科学演習 1	文書作成アプリを用いた看護研究論文レポート作成	演習
6	相関と回帰 インターネットの仕組み	2 項目の数量データの関連を表す相関係数（積率相関係数、順位相関係数）、ICT のリスクとセキュリティー	講義
7	集合と確率 個人情報保護法の要点	和集合と積集合における加法定理、乗法定理や二項目分布	講義
8	表計算アプリの基本操作	情報科学演習 2 の解説	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
9	情報科学演習 2	表計算アプリを用いたデータの入力、加工、図表作成	演習
10	母集団と標本 医療ネットワークのセキュリティ	無作為抽出と標本値からの推測 情報セキュリティレベルに対応した医療ネットワークの階層について	講義
11	統計的推測の基礎、 表計算アプリの活用	統計的推測における有意差について 情報科学演習 3 の解説	講義
12	情報科学演習 3	表計算アプリを用いた統計的推測	演習
13	統計的推測 1	オッズ比、2 群間割合の差の検定 (クロス集計表の検定)	講義
	統計的推測 2 統計的推測の誤り	2 群間平均値の差の検定 2 種類の過誤	講義
14	ICT を活用した医療、 看護の実際とその課題	1. ICT を活用した医療、看護の実際 2. 医療に ICT を活用する上での 注意点と課題	講義
15	まとめ 終了試験		
評価方法： 試験、演習レポート、出席受講態度			
評価基準： 試験（8 割）、演習レポート（2 割）、出席受講態度（減点評価） 各演習レポートでは別途ルーブリックを明示します。			
テキスト・参考文献： 基礎分野「統計学」医学書院			
留意事項： 講義資料配布や課題提出に学内のネットワークの「Classroom」を利用しますので 受講開始前に参加してください。参加に必要なクラスコードは別途お知らせいたします。			
学習サポートの方法： 講義の質問に関しては、講義時間及び終了時、それ以外は学内教員を通して確認すること。			

科 目 名：異文化コミュニケーション論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 中国語と韓国語の初歩を学び、中国、韓国の生活や文化にも眼をむけることで異文化への理解を深める			
学習目標： 中国語・韓国語の基本的な文法・会話・生活文化・歴史について知ることができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	中国語の導入	中国語とは	講義
2	異文化理解 1	中国の文化的価値観や歴史を理解する	講義
3	異文化理解 2	中国の生活背景や習慣を理解する	講義
4	異文化コミュニケーション基礎 1	中国語を用いた挨拶	演習
5	異文化コミュニケーション基礎 2	中国語を用いた自己紹介の定型表現	演習
6	異文化コミュニケーション基礎 3	中国語を用いた非言語的コミュニケーションを理解する	演習
7	中国語のまとめ	学習内容の復習	講義
8	韓国語の導入	韓国語とは	講義
9	異文化理解 3	韓国の文化的価値観や歴史を理解する	講義
10	異文化理解 4	韓国の生活背景や習慣を理解する	講義
11	異文化コミュニケーション基礎 4	韓国語を用いた挨拶	演習
12	異文化コミュニケーション基礎 5	韓国語を用いた自己紹介の定型表現	演習
13	異文化コミュニケーション基礎 6	韓国語を用いた非言語的コミュニケーションを理解する	演習
14	韓国語のまとめ	学習内容の復習	講義
15	まとめ・終了試験（1 時間）		
評価方法：試験、出席、平常点を総合的に評価			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献：韓国語 印刷教材 中国語 医療系学生のための初級中国語			
留意事項：			
学習サポートの方法：			

科 目 名：文化人類学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： グローバル化が急速に進み、日本国内で生活しながらも世界の様々な文化を背景とする人々との接触が増え、世界で起こる出来事や気候変動など地球的課題を我々の日常生活から切り離して考えることは不可能となった。異文化認識の方法を学ぶとともに、自文化についても理解していくことが大切となる。 本授業のなかでは文化人類学の視点より、世界の民族紛争や地球的課題など時事問題についてもわかりやすく解説していく。パンデミック、ポストパンデミックの時代は、分断を乗り越え人間の地球的連帯が不可欠となろう。文化人類学という学問の窓を通して、地球市民意識を養い育んでいくことも大きな目的としたい。			
学習目標： 1．文化に対する基本的な見方を理解する。 2．自文化と異文化について理解する。 3．文化的性差、婚姻、家族について理解する。 4．文化人類学の視点から、グローバルな視野を広げ、育む。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	人間と文化	文化の定義・異文化理解とは何か	講義
2	文化人類学とは何か	その成立・研究対象・研究方法 ・研究目的について	講義
3	文化についての認識の仕方（1） 文化についての認識の仕方（2）	エスノセントリズム、 オリエンタリズムなど 文化の多様性、文化多元主義、 文化相対主義とその課題	講義
4	通過儀礼・儀礼の構造	ビデオ学習（通過儀礼）	講義
5	生殖と親子関係、婚姻、家族	生殖医療・技術の発展による家族の 形の変化	講義
6	宗教と世界観	世界宗教と文化人類学で扱われて きた宗教	講義
7	人間の死と文化	文化によるとらえ方の違いはあるか	
	終了試験（1 時間）		試験

評価方法： 1. 授業参加、学習態度を重視する。 授業終了前に授業の要約を書いてもらい、提出していただくことがある。 2. テスト（レポート形式） 与えられたテーマから選択し、決められたテスト時間内で論述する。
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト：系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院 参考文献：竹沢尚一郎『人類学的思考の歴史』京都・世界思想社 2007 江淵 一公『文化人類学－伝統の現代』放送大学教育振興会 2000 祖父江孝男『文化人類学のすすめ』講談社学術文庫 1997 同 『文化人類学入門』中央公論社＜中公新書＞（増補改訂版）1990 波平恵美子『病気と治療の文化人類学』海鳴社 1984 石田英一郎『文化人類学入門』講談社＜講談社現代文庫＞ 1976 Christie W.Kiefer『文化と看護のアクションリサーチ』医学書院 2010

専 門 基 礎 分 野

専門基礎分野では、
人間理解（身体的・心理的側面）を基盤に、
保健・医療・福祉の現場で臨床判断するための
基礎知識や、医療倫理・多職種連携や協働の
必要性を学び、看護実践者としての幅広い
視野を養うことを学習目的とします。

科 目 名：形態機能学Ⅰ－① 解剖学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的：人体の正常な構造を理解する。			
学習目標：人体の構造について、各構造の名称を挙げ、説明することができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	解剖学序論	1. 人体の構造と機能について 2. 構造から見た人体	講義
2	栄養の消化と吸収	1. 消化器系の構造（口、咽頭、食道） 2. 消化器系の構造（腹部消化管） 3. 膵臓、肝臓、胆嚢、腹膜の構造	講義
3			
4			
5			
6	血液の循環	1. 循環器系の構造 （体循環と肺循環、門脈系、リンパ系） 2. 末梢循環器系の構造	講義
7			
8			
9			
10	尿の生成	1. 腎臓の構造 2. 排尿路の構造	講義
11			
12	生殖	1. 男性生殖器の構造 2. 女性生殖器の構造	講義
13			
14	内分泌	1. 内分泌系の構造 （視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体）	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法：出席および授業態度、実習態度等を総合的に評価する。			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院			
留意事項：授業をよく聞いてノートをしっかり取るようにして欲しい。 分からないことはそのまま放置せずに質問に来ること。			

科 目 名：形態機能学Ⅰ－② 解剖学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的：人体の正常な構造を理解する。			
学習目標：人体の構造について、各構造の名称を挙げ、説明することができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	体の支持と運動	1．骨格とは	講義
2		2．骨の連結	
3		3．骨格筋 4．体幹、上肢、下肢、頭頸部の骨格と筋	
4	呼吸	1．呼吸器の構造	講義
5	情報の受容と処理	1．神経系の構造 （自律神経、末梢神経） 2．脊髄と脳の構造	講義
6			
7			
8			
9	外部の環境からの防御	1．眼の構造 2．耳の構造 3．鼻の構造 4．皮膚の構造	講義
10			
11	解剖学実習	1．解剖見学導入 2．解剖見学前講義 3．解剖見学	見学実習
12			
13			
14			
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法：出席および授業態度、実習態度等を総合的に評価する。			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院			
留意事項：形態機能学を履修する上で、解剖見学は必須の学習となる。解剖見学を行うことにより、形態機能学の理解が深化し、命の尊厳について考える機会となる。学習の機会を与えて下さったご献体者およびにご遺族に、感謝と畏敬の念を持ち、解剖見学をすること。また、参加時は理解を深められるように学習をして臨むこと。			

科 目 名：形態機能学Ⅱ－① 生理学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 医療に携わる者すべてにとって、必要不可欠な身体の構造と機能の講義を行う。看護は人を 見て身体の中で起きていることを知り、身体の異常に気がつく力、異常を知る力が必要になる。 異常に気がつくには正常な身体のしくみと働きを理解している必要がある。			
学習目標： 人体生理学の知識は、患者の状態を把握してその変化に対処する上で臨床上も不可欠で ある。正常な人体の構造と機能のうち、解剖生理の基礎知識、呼吸器の構造、呼吸運動とガス 交換（呼吸器系）、血液循環の仕組み(循環器系)、血液の機能と生体の防御機構(血液・免疫系)、 腎臓の構造と機能、排尿ならびに体液の調節機構(腎泌尿器系)について理解し、説明できる ことが目標である。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	人体の素材としての細胞・組織	1. 細胞の構造 2. 細胞膜の構造と機能 3. 体液とホメオスタシス	講義
2	呼吸と血液の循環	1. 内呼吸と外呼吸、呼吸運動	講義
3		2. 呼吸気量、ガス交換	
4		3. 肺の循環と血流、呼吸運動の調節 4. 呼吸器系の病態生理 (換気障害、拡散障害など)	
5	心臓と血液の循環	1. 循環器系の構成 (体循環と肺循環、門脈系、リンパ系)	講義
6		2. 心臓の拍出機能	
7		3. 血液の循環とその調節 (血圧、血流量、微小循環)	
8		4. リンパ管	
9		5. 血液の組成と機能	
10		6. 循環器系の病態生理 (浮腫、チアノーゼ、起立性低血圧、 うっ血性、心不全、急性心不全、 高血圧など)	

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
11	尿の生成と体液の調節	1. 腎臓の機能	講義
12		2. 尿生成のメカニズム	
13		3. クリアランスと糸球体濾過量	
14		4. 腎臓から分泌される 生理活性物質	
		5. 尿の貯蔵と排尿	
		6. 体液の調節 (水の出納、酸塩基平衡、脱水、 電解質異常など)	
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 終了試験を実施する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 その他、随時プリントを配布する。			
留意事項： 授業をよく聞いてノートをしっかりとるようにして欲しい。分からないことはそのまま放置せずに質問に来ること。			

科 目 名：形態機能学Ⅱ－② 生理学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 医療に携わる者すべてにとって、必要不可欠な身体の構造と機能の講義を行う。看護は人を 見て身体の中で起きていることを知り、身体の異常に気がつく力、異常を知る力が必要になる。 異常に気がつくには正常な身体のしくみと働きを理解している必要がある。			
学習目標： 人体生理学の知識は、患者の状態を把握してその変化に対処する上で臨床上も不可欠である。 正常な人体の構造と機能のうち、消化・吸収の構造と機能（消化器系）、ホルモンの種類および その作用・調節機構（内分泌系）、生殖・発生と老化のしくみ（生殖器系）、脳の高次機能、 伝導路としての脊髄の機能（神経系）、様々な感覚のしくみ（感覚系）について理解し、説明 できることが目標である。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	栄養の消化と吸収	1. 口、咽頭、食道の機能	講義
2		2. 腹部消化管の機能 （胃、小腸における消化、 栄養素の消化吸收、大腸の機能）	
3		3. 膵臓、肝臓、胆嚢、腹膜の機能 4. 消化器系の病態生理 （栄養障害、嘔気、嘔吐、下痢、 イレウス、黄疸など）	
4	体温とその調節	1. 熱の出納 2. 体温の分布と測定 3. 体温調節 4. 発熱 5. 高体温と低体温	講義
5	内臓機能の調節	1. 内分泌系の機能 （ホルモンの種類と作用機序など）	講義
6		2. 内分泌系の病態生理 （糖代謝、カルシウム代謝、 ストレスとホルモン、乳汁分泌、 高血圧をきたすホルモンなど）	
7			
8		3. 生殖機能	

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
9	情報の受容と処理	1. 自律神経の機能	講義
10		2. 脊髄の機能 (脊髄反射、屈曲反射、内臓反射、 脊髄神経の機能)	
11		3. 脳の機能 (脳幹、小脳、間脳、大脳、 脳室と髄液、脳脊髄液の循環、 脳神経の機能)	
12		4. 脳の高次機能 (脳波、睡眠、記憶など) 5. 筋の収縮 (骨格筋、不随意筋) 6. 脳神経の病態生理 (脳浮腫、けいれんなど)	
13	感覚器系	1. 感覚機能と上行伝導路 (種類、性質、受容器、伝道路)	講義
14		2. 視覚 (視野と視力、色覚、遠近調節、 明暗順応など) 3. 聴覚と平衡覚 4. 味覚と嗅覚 5. 皮膚の機能	
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 終了試験を実施する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 その他、随時プリントを配布する。			
留意事項： 授業をよく聞いてノートをしっかりとるようにして欲しい。分からないことはそのまま放置せずに質問に来ること。			

科 目 名：看護形態機能学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（実務経験あり）			
学習目的： 日常生活行動のアセスメント・療養生活による日常生活行動に変化のある人の援助に向けて、日常生活を営むための人間のからだの働きを学ぶ。			
学習目標： 1．日常生活を営むための人間のからだの働きに関連する、構造と機能の知識を統合する。 2．どのようなからだの構造と機能を使って日常生活行動を営んでいるのかを理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	1．看護形態機能学とは 2．「日常生活行動の理解」	看護形態機能学を学ぶ意義 “動く” に関連する解剖・生理の理解と生活行動	講義
2	「日常生活行動の理解」	“眠る・日にあたる” に関連する解剖・生理の理解と生活行動	講義
3	「日常生活行動の理解」	“息をする” に関連する解剖・生理の理解と生活行動	講義
4	「日常生活行動の理解」	“話す・聞く” に関連する解剖・生理の理解と生活行動	講義
5	「日常生活行動の理解」	“お風呂” に入るに関連する解剖・生理の理解と生活行動	講義
6	「日常生活行動の理解」	“食べる” に関連する解剖・生理の理解と生活行動	講義
7	「日常生活行動の理解」	“トイレに行く” に関連する解剖・生理の理解と生活行動	講義
	終了試験		試験
評価方法： 出席および授業態度、筆記試験。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 看護形態機能学第 3 版－生活行動からみるからだ－ 菱沼典子著 日本看護協会出版会			

留意事項：

日常生活行動に関連する解剖・生理学の知識を理解することは、看護者として日常生活行動を支援していく際のヘルスアセスメント・看護援助に必要な知識となる。

学習サポートの方法：

9:00～17:30 に教員を訪ねて下さい。

科目名：生化学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 生体を構成する物質（生体分子）とその化学反応である代謝について学び、生命を担うエネルギー獲得のしくみを理解する。			
学習目標： 1．身体をつくる生体分子の構造・性質・働き・代謝を理解する。 2．代謝によるエネルギー獲得のしくみを理解する。 3．代謝の異常から疾患にいたる仕組みを理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	生化学の基礎、学び方	生体分子ー構造式を理解するー： 親水性／疎水性	講義 テキスト第 1 章
2	生体高分子：構造・性質・働き	タンパク質 糖質、核酸	講義 テキスト第 7 章 第 3、10 章 C
3			講義 テキスト第 7 章 第 3、10 章 C
4	生体触媒	酵素 ビタミンと補酵素	講義 テキスト第 2 章
5			講義 テキスト第 2 章
6	糖質の代謝	糖質の消化と吸収 解糖系、クエン酸回路、酸化的リン酸化 糖新生 ペントースリン酸経路 グリコーゲン代謝 ヘキソース代謝	講義 テキスト第 4 章
7			講義 テキスト第 4 章
8			講義 テキスト第 4 章
9	脂質の代謝	脂肪の消化と吸収 リポタンパク質：脂質の血中輸送 脂肪酸のβ酸化 ケトン体代謝 脂肪酸・脂肪の生合成 コレステロールの生合成・利用 エイコサノイドの生合成・作用	講義 テキスト第 6 章 テキスト第 5 章
10			講義 テキスト第 6 章 テキスト第 5 章
11			講義 テキスト第 6 章 テキスト第 5 章

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
12	アミノ酸の代謝 ポルフィリンの代謝	タンパク質の消化・吸収 アミノ酸の異化代謝 尿素回路 含窒素分子の生合成 非必須アミノ酸の生合成 ポルフィリンの代謝	講義 テキスト第8章
13			講義 テキスト第8章 テキスト第9章
14	代謝の異常	糖尿病、痛風	講義 テキスト第6章 テキスト第10章
15	まとめ・終了試験		
評価方法： 講義内容の理解度を筆記テストにより評価する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 医学書院			
留意事項： ヒトの身体の構造と機能の理解を目指し、基礎医学の一翼を担う生化学の基礎を学ぶ。理解することが必須で、暗記では対応できない。易しい科目ではないので、心して臨むこと。 この科目では、まず、身体をつくる主要な生体分子の構造と機能を学び、次に、それら生体分子の細胞内での代謝（化学変化）を学ぶ。生体は、食事で摂取した栄養素を消化・吸収し、代謝によりエネルギーを得て、成長し、恒常性を維持しつつ命を繋ぐ。 生化学の学びは建築の工程に似る。まず、1 回目講義で高校化学の範囲から生化学の基礎となる事柄を学び、これが 2 回目以降の講義の足場となる。その後も、前の講義内容を足場として、知識を積み上げていくので、この科目では予習・復習が欠かせない。勤勉に励むこと。 講義のファイル（PowerPoint）は webclass に up するので、病欠などで受講できなかった内容は、次の講義までに自身で補い、理解しておかなければならない。身体をつくる多数の分子、システムを自ら関連付けて整理し、生体分子が担う生命の story を頭の中に構築すること。理解を伴わない暗記は、応用できないので役に立たない。自身のレベルアップに、限られた時間を使っているかを常に意識しつつ学ぶこと。			

科 目 名：栄養学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 人間にとっての栄養の意義を理解し、食事療法の基本について学ぶ。			
学習目標： 1. 栄養素の重要性や代謝について理解する。 2. 健康体作りのための食生活を理解する。 3. 臨床栄養について学び、患者への栄養管理や食事指導を理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	食事と看護 栄養の基礎知識	1. 栄養とは 2. 栄養学の歴史 3. 看護と栄養 4. 糖質 5. 脂質	講義
2	栄養の基礎知識	1. タンパク質 2. ビタミン 3. ミネラル 4. 食物繊維等	講義
3	栄養の基礎知識	1. 食物の消化と栄養素の吸収 2. エネルギー代謝	講義
4	疾病別食事療法	1. 病院食 2. 経腸栄養 3. 循環器疾患	講義
5	疾病別食事療法	1. 消化器疾患 2. 栄養・代謝疾患 3. 糖尿病交換表	講義
6	疾病別食事療法	1. 腎臓疾患 2. 血液疾患 3. 咀嚼・嚥下障害 4. 術前・術後 5. がん	講義
7	ライフステージと栄養 疾患別食事療法	1. 乳児期 2. 成人期 3. 妊娠期 4. 高齢期 5. 疾患と病院食	講義
	終了試験（1 時間）		試験

評価方法： 筆記試験
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト： 「糖尿病治療のための食品交換法」 文光堂 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院

科 目 名：病気の発生とメカニズム (病理学)		履修単位 1 単位	講義時間 (回数) 30 時間 (15 回)
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 疾病の原因・経過・特に疾病による形態的、機能的変化について理解する。			
学習目標： 1. 病気はどのように発生するのか、その原因は何か、を知る。 2. 代表的疾患・症状の発生とそのメカニズムを理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	I. 病理学概要	1. 病理学とは 2. 病気とは 3. 老化とは 4. 死と病理学 5. まとめ	講義
2	II. 細胞傷害・再生	1. 適応と傷害 2. 変性と細胞死 3. 酸化ストレス 4. 生体内色素 5. 鉄代謝と赤血球 6. 萎縮・肥大・化生 7. 細胞・組織の形成 8. 症例をとおして学ぶ 9. まとめ	講義
3	III. 炎症	1. 炎症 2. 炎症巣の構造 3. 炎症を制御する液性因子 4. 急性炎症 5. 急性炎症の種々相	講義
4		6. 慢性炎症 7. 慢性炎症の形態像 8. 症例をとおして学ぶ 9. まとめ	講義
5	IV. 免疫 －免疫系・アレルギー・移植－	1. 免疫の概要 2. 免疫とアレルギー	講義
6		3. 自己免疫疾患 4. 移植免疫 5. 免疫不全 6. 症例をとおして学ぶ 7. まとめ	講義
7	V. 循環障害	1. 浮腫 2. 充血とうっ血 3. 出血 4. 血栓・血栓症	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
8	V. 循環障害	5. 塞栓と梗塞 6. ショック 7. 症例を通して学ぶ 8. まとめ	講義
9	VI. 先天異常・遺伝性疾患	1. 先天異常とは 2. 遺伝 3. 先天異常 4. 症例を通して学ぶ 5. まとめ	講義
10	VII. 感染症	1. 感染症とは 2. 病原体と主な感染症	講義
11		3. 感染症の治療 4. 感染症の原状 5. 感染症予防と感染制御対策 6. 症例を通して学ぶ 7. まとめ	講義
12	VIII. 代謝異常	1. 脂質代謝異常 2. 糖質代謝異常 3. たんぱく質代謝異常 4. 核酸代謝異常 5. 生活習慣病	講義
13	IX. 腫瘍	1. 腫瘍とは 2. 腫瘍の名称 3. 腫瘍の形態的特徴 4. 腫瘍の分類 5. 腫瘍の種類	講義
14		6. 腫瘍の増殖 7. 腫瘍により引き起こされる病態 8. 悪性度と病期など 9. 腫瘍の原因 10. 腫瘍発生のメカニズム 11. 腫瘍と臨床病理学 12. 症例を通して学ぶ 13. まとめ	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： カラーで学べる病理学 ノーヴェルヒロカワ			

科 目 名：微生物と病気 (微生物学)		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師（看護実務経験者含む）			
学習目的： 微生物は、自然界の水や土壌またヒトを含む多くの動植物の身体にさえ生息している。しかし病原微生物となりうるのはその一部に過ぎない。ところが、病原微生物は常に姿を変えて、新たな感染症として医療現場に出現してくる。変化を続ける感染症と闘うために必要な知識と病原微生物とは何か学ぶ。			
学習目標： 1. 微生物の種類を識別する。 2. 病原微生物の名前から感染症名と微生物の特徴を説明する。 3. 感染症のタイプ（消化管感染症、呼吸器感染症など）ごとに病原微生物を分類してその特徴を説明する。 4. 様々な感染経路や感染様式の違いや特徴を説明する。 5. 感染予防と病院内での感染制御に必要な基礎技術を説明する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	微生物と微生物学	1. 微生物の種類 2. 微生物と人間 3. 微生物学の対象と目的 4. 微生物学の歩み	講義
2	感染と感染症	1. 微生物感染の機構 2. 感染の成り立ちから発症・治癒まで	講義
3	細菌の性質	1. 細菌とはどのような生物なのか 2. 細菌感染の機構	講義
4	真菌・原虫の性質	1. 真菌（酵母・糸状菌）とは どのような生物なのか 2. 原虫（原生動物）とは どのような生物なのか 3. 真菌・原虫感染の機構	講義
5	ウイルスの性質	1. ウイルスとはどのような 生物なのか 2. ウイルス感染の機構	講義
6	人獣共通・節足動物媒介性病原体	1. 人と動物が感染する病気とは 2. 吸血性昆虫（節足動物）が 運ぶ病原体	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
7	免疫不全の種類とそれに関わる病原体・感染症	1. 自己免疫のしくみ 2. 獲得免疫のしくみ 3. 粘膜免疫のしくみ 4. 感染源・感染経路からみた感染症	講義
8	敗血症の原因となる病原体	1. 局所感染から全身感染 2. 病原体が血液中に出現する感染症	講義
9	呼吸器感染症の病原体	1. 飛沫・飛沫核感染により発症する感染症	講義
10	中枢神経系感染症の病原体 ・消化器感染症の病原体	1. 脳脊髄の感染症 2. 経口感染により発生する感染症	講義
11	接触感染・創傷感染する病原体	1. 尿路感染 2. 性行為感染症 3. 皮膚組織の感染症 4. 嫌気性菌感染症	講義
12	バイオハザードの防止	1. バイオハザードと バイオセーフティ 2. 滅菌・消毒の意義と定義 3. 滅菌法 4. 消毒と消毒薬	講義
13	日和見感染症・院内感染症	1. 易感染性宿主と日和見感染症	講義
14	病院における感染症患者への対処 と感染予防策のガイドライン		講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 学習目的に示した内容に対して、終了試験により評価する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院 参考文献： 「細菌の逆襲」吉川昌之介（中公新書；1234） 「現代の感染症」相川正道・永倉貢一（岩波新書；513） 「ウイルス vs 人体」山本三毅夫・山本直樹（講談社現代新書；1370） 「感染症の時代」井上 栄（講談社現代新書；1523） 「エイズの生命科学」生田 哲（講談社現代新書；1290）			

科 目 名：薬理作用と健康 (薬理学)		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 薬物の特徴、薬理作用について理解し、医薬品の管理、取り扱いについて学ぶ。			
学習目標： 1．薬理学を学ぶ目的を知り、薬物の生体に及ぼす影響について理解する。 2．薬物を安全に取り扱う基本について理解する。 3．各系統別に用いられる治療薬の基本的薬理作用について理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	薬理学総論① (薬理学・臨床薬理学)	薬と薬理学、薬理学と薬物動態学	講義
2	薬理学総論② (薬理学・臨床薬理学)	薬物相互作用、薬物の安全性、有効性、個人差	講義
3	薬理学各論	1．抗感染症薬	講義
4		2．抗がん薬	
5		3．免疫治療薬	
6		4．抗アレルギー薬、抗炎症薬	
7		5．末梢神経作用薬	
8		6．中枢神経作用薬	
9		7．循環器系作用薬	
10		8．呼吸器、消化器、生殖器系作用薬	
11		9．物質代謝系作用薬	
12		10．消毒薬、外用薬、血液製剤・輸液	
13		11．薬物中毒、調剤と処方箋	
14		12．薬害、医薬品の開発	
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法：筆記試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院			

科 目 名：現代医療論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 診療・医療・医学・看護を学び始める者がこれらの歴史と概念を理解し、現在と未来の看護実践を考察する。			
学習目標： 1. 現代社会における医療の役割を理解する。 2. 健康と疾病の概念を理解し、健康の保持・増進、罹患疾病との付き合い方・対処を考える。 3. 医療人の育成など医療の供給と整備について考える。 4. 医療倫理など現代医療が抱える課題を挙げ、理解を深める。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	医学と医療	1. 診療・医療・医学・看護学とは 2. 診療・医療の実践	講義
2	診療・医療・医学のあゆみ	1. 診療・医療・医学のあゆみ 1) 原始から近代まで 2) 近代医学・医療の発展	講義
3	健康と疾病	1. 健康とは 2. 疾病とは 3. 生活と健康	講義
4	我が国の医療供給体制	1. 医療供給体制と整備 2. 医療者とは－現況と育成－ 3. 医療保障の現状と課題	講義
5	現代医療における諸問題	1. 医療の進歩と医療倫理 2. 医療における患者の権利	講義
6		3. 病状（真実）の告知	講義
7		4. 脳死と臓器移植 5. 死と生命保持, 安楽死, 死を共有する医療	講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法：終了試験 100 点満点			
評価基準： 終了試験及び授業への取り組みと参加態度を相対的に評価する。 第 5 回～7 回の講義では諸問題についての授業を受け、「医療者の一員となる学生としてどのように課題解決に向けて取り組もうと考えるか」についてミニレポートを作成し提出する。			

テキスト・参考文献：

系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論

系統看護学講座 別巻 総合医療論

物語で学ぶ緩和ケア へるす出版

留意事項：

この科目は、今後医療者となる看護学生が医療の現状と課題を具体的に理解することを求める内容となっている。臨床の場で様々な課題と向き合う前提として、課題に対する理解を深めるだけでなく、医療のさまざまな課題に対して自己の考えを深めてほしい。

科 目 名：疾病診断総論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な医学診断について学ぶ。			
学習目標： 1．診療における臨床検査の役割が理解できる。 2．臨床検査に関する基本的知識が理解できる。 3．診療における画像診断の役割が理解できる。 4．画像診断に関する基本的知識が理解できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	臨床検査	1．診療における臨床検査の役割 2．臨床検査各論 1) 尿検査 2) 血液検査 3) 血液化学検査 4) 免疫・血清検査ホルモン検査 5) 負荷検査 6) ホルモン検査 7) 生理機能検査 (心電図・呼吸機能・脳波)	講義
2			
3			
4			
5	画像診断 画像診断的介入的治療	1．診療における画像診断の役割 2．X 線診断 3．血管造影 4．MRI 5．超音波診断 6．核医学診断	講義
6			
7			
	終了試験		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
留意事項：			

科 目 名：疾病治療総論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な治療について学ぶ。			
学習目標： 1．放射線治療に関する基本的知識が理解できる。 2．麻酔に関する基本的知識が理解できる。 3．疼痛コントロールの基本的知識が理解できる。 4．手術侵襲と生体の反応に関する基本的知識が理解できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	放射線治療	1．放射線治療総論	講義
2		2．放射線治療の方法	講義
3	手術と麻酔法 手術療法と生体侵襲	1．手術法	講義
4		2．麻酔法とは 3．麻酔の種類 1) 全身麻酔 2) 局所麻酔	講義
5		4．体液管理と輸血療法 5．疼痛のコントロール	講義
6		6．手術による全身への侵襲と回復過程 7．手術侵襲に対する生体反応 1) ホメオスタシス 2) バイタルサインズ	講義
7		8．手術侵襲に対する生体反応の推移 9．サイトカインによる生体反応	講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法：筆記試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			
留意事項：			

疾病治療論Ⅰ～Ⅴ（5単位：90時間）内訳表

科目名	単位数・時間数	開講年次	診療科内訳
疾病治療論Ⅰ	1単位：30時間	1年次	運 動 器 6時間
			感覚器（耳鼻科） 2時間
			感 覚 器（眼科） 2時間
			感覚器（皮膚科） 2時間
			女性生殖器（婦人科） 2時間
			女性生殖器（乳腺） 2時間
			腎 臓 8時間
			泌尿器・男性生殖器 4時間
			まとめ・終了試験 2時間
疾病治療論Ⅱ	1単位：15時間	1年次	呼 吸 器 6時間
			循 環 器 8時間
			終 了 試 験 1時間
疾病治療論Ⅲ	1単位：15時間	2年次	血 液・造 血 器 6時間
			免 疫 8時間
			終 了 試 験 1時間
疾病治療論Ⅳ	1単位：15時間	2年次	消 化 器（内科） 4時間
			消 化 器（外科） 4時間
			内 分 泌 6時間
			終 了 試 験 1時間
疾病治療論Ⅴ	1単位：15時間	2年次	脳 神 経（内科） 10時間
			脳 神 経（外科） 4時間
			終 了 試 験 1時間

科 目 名：疾病治療論Ⅰ		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な系統別の疾患の病態と診断・治療について学ぶ。			
学習目標： 1．運動器系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 2．感覚器系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 3．呼吸器の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 4．女性生殖器・乳腺の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 5．泌尿器・男性生殖器系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 6．腎臓系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1～3	運動器	1．運動器の構造と機能 1) 骨、関節、筋群、腱、靱帯の構造と機能 2．骨粗鬆症と骨折 1) 骨粗鬆症のメカニズム 2) 骨折の診断と検査 (1) 骨折の病態と分類 ①原因 ②機転、形態、転位 ③骨治癒の病態生理 ・仮骨の発生と癒合 3) 骨折の症状 (1) 局所症状 (2) 全身症状 4) 骨折の治療 (1) 整復 (2) 固定（外固定と骨接合術） (3) 後治療 (4) 各種骨折と治療の特徴	講義
		3．脱臼 1) 脱臼の診断と検査 (1) 脱臼の病態と分類 ・脱臼の原因 (2) 各種脱臼の症状 (3) 脱臼の診断 ・X・P 検査 2) 脱臼の治療 3) 脱臼の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	運動器	4. 変形性関節症 1) 変形性股関節症 (1) 変形性股関節症の診断と検査 ①変形性股関節症の病態と分類 ・変形性股関節症の原因 ②変形性股関節症の症状 ③変形性股関節症の診断 ・X-P 検査 (2) 変形性股関節症の治療 ①保存療法 ・局所安静、筋力訓練、牽引 ②手術療法 (3) 変形性股関節症の治療により起こりやすい合併症とその治療 2) 変形性膝関節症 (1) 変形性膝関節症の診断と検査 ①変形性膝関節症の病態と分類 ・変形性膝関節症の原因 ②変形性膝関節症の症状 ③変形性膝関節症の診断 ・X-P 検査 (2) 変形性膝関節症の治療 ①保存療法 ・体重コントロール、大腿四頭筋の筋力強化 ・関節内薬剤注入療法 ②手術療法 (3) 変形性膝関節症の治療により起こりやすい合併症とその治療 3) その他の変形性関節症	講義
		5. 椎間板ヘルニア 1) 椎間板ヘルニアの診断と検査 (1) 椎間板ヘルニアの病態と分類 (2) 椎間板ヘルニアの症状 (3) 椎間板ヘルニアの診断 ・CT 検査 ・脊髄造影検査 2) 椎間板ヘルニアの治療 (1) 保存療法 (2) 手術療法 3) 椎間板ヘルニアの治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	運動器	6. 変形性脊椎症 1) 変形性脊椎症の診断と検査 (1) 変形性脊椎症の病態と分類 (2) 変形性脊椎症の症状 (3) 変形性脊椎症の診断 ・X-P 検査 ・CT 検査 2) 変形性脊椎症の治療 (1) 保存療法 ・コルセット装着 ・理学療法 (2) 手術療法 3) 変形性脊椎症の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		7. 脊髄損傷 1) 脊髄損傷の診断と検査 (1) 脊髄損傷の原因と病態 (2) 脊髄損傷の症状 ①損傷位置と症状 ・脊髄高位 ・麻痺の特徴 ・ホルネル徴候 ②脊髄ショック (3) 脊髄損傷の診断 ・X-P 検査・CT 検査・MRI 検査 2) 脊髄損傷の治療 (1) 損傷脊髄の安静 (2) 手術療法 3) 脊髄損傷の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
4	感覚器 (耳鼻科)	1. 耳鼻咽喉系の構造と機能 2. 難聴 1) 難聴の診断と検査 (1) 難聴の病態と原因 ・音響外傷 ・薬物によるもの ・老人性 ・突発性 (2) 難聴の症状 (原因毎の特徴) (3) 難聴の診断 ・聴力検査 2) 難聴の治療 (1) 薬物療法 (2) 補聴器の使用 (3) 星状神経節ブロック (4) 高圧酸素療法 3) 難聴の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	感覚器 (耳鼻科)	3. メニエール病 1) メニエール病の診断と検査 (1) メニエール病の病態 (2) メニエール病の症状 (3) メニエール病の診断 ・問診 2) メニエール病の治療 (1) 薬物療法 3) メニエール病の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		4. 中耳炎 1) 中耳炎の診断と検査 (1) 中耳炎の病態 ・急性化膿性中耳炎・滲出性中耳炎・慢性中耳炎 (2) 中耳炎の症状 (3) 中耳炎の診断 ・耳鏡検査 2) 中耳炎の治療 (1) 保存療法 (2) 鼓膜切開・鼓室形成・基本手術 3) 中耳炎の治療により起こりやすい合併症とその治療	
		5. 鼻出血 1) 鼻出血の診断と検査 (1) 鼻出血の病態 (2) 鼻出血の症状 (3) 鼻出血の診断 ・視診 2) 鼻出血の治療 (1) 止血 3) 鼻出血の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		6. 鼻アレルギー 1) 鼻アレルギーの診断と検査 (1) 鼻アレルギーの病態 (2) 鼻アレルギーの症状 (3) 鼻アレルギーの診断 ・視診 ・皮内反応 ・鼻粘膜誘発試験 ・RAST 法 2) 鼻アレルギーの治療 (1) 薬物療法 (2) 電気凝固術 (3) 手術療法 3) 鼻アレルギーの治療により起こりやすい合併症とその治療	

回数	講義題目	内 容	方 法
	感覚器 (耳鼻科)	7. 咽頭癌 1) 咽頭癌の診断と検査 (1) 咽頭癌の病態 (2) 咽頭癌の症状 (3) 咽頭癌の診断 ・視診 (ファイバースコープ) 2) 咽頭癌の治療 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法 3) 咽頭癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
5	感覚器 (眼科)	1. 眼の構造と機能 2. 白内障 1) 白内障の診断と検査 (1) 白内障の病態 ・老人性、先天性、外傷性、併発性、後発性、全身疾患に合併する白内障の特徴 (2) 白内障の症状 (3) 白内障の診断 ・細隙灯顕微鏡検査 2) 白内障の治療 (1) 薬物療法 (2) 手術療法 3) 白内障の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		3. 黄斑円孔 1) 黄斑円孔の診断と検査 (1) 黄斑円孔の病態 (2) 黄斑円孔の症状 (3) 黄斑円孔の診断 ・細隙灯顕微鏡検査 2) 黄斑円孔の治療 (1) 手術療法 3) 黄斑円孔の治療により起こりやすい合併症とその治療	
		4. 緑内障 1) 緑内障の診断と検査 (1) 緑内障の病態と原因 (2) 緑内障の症状 (3) 緑内障の診断 ・細隙灯顕微鏡検査 ・眼圧検査 2) 緑内障の治療 (1) 薬物療法 (2) 手術療法 3) 緑内障の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	感覚器 (眼科)	5. 網膜剥離 1) 網膜剥離の診断と検査 (1) 網膜剥離の病態と原因 (2) 網膜剥離の症状 (3) 網膜剥離の診断 ・ 細隙灯顕微鏡検査 ・ 眼圧検査 2) 網膜剥離の治療 (1) 薬物療法 (2) 手術療法 3) 網膜剥離の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
6	感覚器 (皮膚科)	1. 皮膚の構造と機能 2. 発疹の種類と形態 3. 皮膚病変の呼び方 4. アトピー性皮膚炎 1) アトピー性皮膚炎の診断と検査 (1) アトピー性皮膚炎の病態と診断基準 (2) アトピー性皮膚炎の症状 (3) アトピー性皮膚炎の診断 2) アトピー性皮膚炎の治療 (1) 薬物療法 3) アトピー性皮膚炎の治療により起こりやすい合併症とその治療 5. 疥癬 1) 疥癬の診断と検査 (1) 疥癬の病態 (2) 疥癬の症状 (3) 疥癬の診断 ・ 直接鏡検 2) 疥癬の治療 (1) 薬物療法 3) 疥癬の治療により起こりやすい合併症とその治療 6. 単純疱疹・帯状疱疹 1) 単純疱疹・帯状疱疹の診断と検査 (1) 単純疱疹・帯状疱疹の病態 (2) 単純疱疹・帯状疱疹の症状 (3) 単純疱疹・帯状疱疹の診断 2) 単純疱疹・帯状疱疹の治療 (1) 薬物療法 3) 単純疱疹・帯状疱疹の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	感覚器 (皮膚科)	7. 熱傷 1) 熱傷の診断と検査 (1) 熱傷の病態 ①熱傷面積の算定方法 ②熱傷深度の分類 (2) 熱傷の症状 (3) 熱傷の診断 2) 熱傷の治療 (1) 冷却 (2) 創部の被覆 (3) 輸液療法 (4) 浮腫部減張切開 3) 熱傷の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		8. 悪性黒色細胞腫 1) 悪性黒色細胞腫の診断と検査 (1) 悪性黒色細胞腫の病態と病型 (2) 悪性黒色細胞腫の症状 (3) 悪性黒色細胞腫の診断 2) 悪性黒色細胞腫の治療 (1) 化学療法 3) 悪性黒色細胞腫の治療により起こりやすい合併症とその治療	
7	女性生殖器 (婦人科)	1. 女性生殖器の構造と機能 2. 子宮筋腫 1) 子宮筋腫の診断と検査 (1) 子宮筋腫の病態と発生部位 (2) 子宮筋腫の症状 (3) 子宮筋腫の診断 ・内診・超音波検査・CT 検査 ・MRI 検査・子宮卵管造影検査 ・子宮鏡 2) 子宮筋腫の治療 (1) 手術療法 (2) 薬物療法	講義
		3. 子宮内膜症 1) 子宮内膜症の発生部位 2) 子宮内膜症の症状 3) 子宮内膜症の診断 ・超音波検査 ・CT 検査 ・MRI 検査 ・腹腔鏡検査 ・腫瘍マーカー 4) 子宮内膜症の治療 (1) 薬物療法 (2) 手術療法	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	女性生殖器 (婦人科)	4. 卵巣腫瘍 1) 卵巣の構造と機能 2) 卵巣の良性腫瘍とその診断・治療 3) 卵巣の悪性腫瘍とその診断・治療	講義
		5. 子宮頸癌 1) 子宮頸癌の診断と検査 (1) 子宮頸癌の病態と進行期の分類 (2) 子宮頸癌の症状 (3) 子宮頸癌の診断 ・内診 ・細胞診 ・CT 検査 ・MR-I 検査 ・腫瘍マーカー 2) 子宮頸癌の治療 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法 3) 子宮頸癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		6. 子宮体癌 1) 子宮体癌の診断と検査 (1) 子宮体癌の病態と進行期の分類 (2) 子宮体癌の症状 (3) 子宮体癌の診断 ・内診 ・細胞診 ・CT 検査 ・MRI 検査 ・腫瘍マーカー 2) 子宮体癌の治療 (1) 手術療法 (2) 化学療法 3) 子宮体癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
8	女性生殖器 (乳腺)	1. 乳房の構造と機能 2. 乳癌 1) 乳癌の診断と検査 (1) 乳癌の病態と危険因子 (2) 乳癌の症状 (3) 乳癌の診断 ・問診 ・視診細胞診 ・マンモグラフィー ・CT 検査 ・MRI 検査 ・超音波検査 ・生検 2) 乳癌の治療 (1) 手術療法 (2) ホルモン療法 (3) 化学療法 (4) 分子標的治療 3) 乳癌の治療により起こりやす合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
9～12	腎臓	1. 腎臓の構造と機能 2. 高血圧 1) 高血圧の診断と検査 (1) 高血圧症の病態 ①高血圧症の基準 ②高血圧症の影響 ③高血圧症の分類 (2) 高血圧症の診断 ①腹部 CT ②血糖検査 ③血清脂質値 2) 高血圧の治療 (1) 生活習慣の改善 (2) 薬物療法	講義
		3. 急性腎不全 1) 急性腎不全の診断と検査 (1) 急性腎不全の病理 ①診断分類と病期 ②急性腎不全の症状 ③急性腎不全の診断 ・血液検査 2) 急性腎不全の治療 (1) 食事療法 (2) 薬物療法 (3) 透析療法 3) 急性腎不全とその治療に伴う合併症	講義
		4. 慢性腎不全 1) 慢性腎不全の診断と検査 (1) 慢性腎不全の病態 ①診断分類と病期 (2) 慢性腎不全の症状 (3) 慢性腎不全の診断 ①血液検査 2) 慢性腎不全の治療 (1) 食事療法 (2) 薬物療法 (3) 透析療法 (4) 腎移植 3) 慢性腎不全とその治療に伴う合併症	講義
		5. ネフローゼ症候群 1) ネフローゼ症候群の診断と検査 (1) ネフローゼ症候群の診断分類と原因 (2) ネフローゼ症候群の症状 (3) ネフローゼ症候群の診断 ①血液検査 ②尿検査 ③腎生検	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	腎臓	2) ネフローゼ症候群の治療 (1) 食事療法 (2) 安静療法 (3) 薬物療法 3) ネフローゼ症候群とその治療に伴う合併症	講義
13~14	泌尿器・ 男性生殖器	1. 男性生殖器の構造と機能 2. 前立腺肥大症 1) 前立腺肥大症の診断と検査 (1) 前立腺肥大症の病態 (2) 前立腺肥大症の症状 (3) 前立腺肥大症の診断 ・触診（直腸診）・超音波検査 ・内視鏡検査 2) 前立腺肥大症の治療 (1) 薬物療法 (2) 手術療法 (3) 化学療法 (4) 分子標的治療 3) 前立腺肥大症の治療により起こりやすい合併症とその治療 3. 尿路結石症 1) 尿路結石症の診断と検査 (1) 尿路結石症の病態と原因 (2) 尿路結石症の症状 (3) 尿路結石症の診断 ・尿検査・X線検査・CT2 2) 尿路結石症の治療 (1) 保存療法 (2) 体外衝撃波碎石術 (3) 経皮的腎（尿管）碎石術・経尿道尿管碎石術 (4) 手術療法 3) 尿路結石の治療により起こりやすい合併症とその治療 4. 腎臓癌 1) 腎臓癌の診断と検査 (1) 腎臓癌の病態と原因 (2) 腎臓癌の症状 (3) 腎臓癌の診断 ・尿検査 ・超音波検査 ・CT検査 ・MRI検査 2) 腎臓癌の治療 (1) 手術療法 (2) 免疫療法 3) 腎臓癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法																								
13~14	泌尿器・男性生殖器	5. 膀胱腫瘍 1) 膀胱腫瘍の診断と検査 (1) 膀胱腫瘍の病態とグレード (2) 膀胱腫瘍の症状 (3) 膀胱腫瘍の診断 ・膀胱鏡・超音波検査・CT 検査 ・MRI 検査・経尿道的生検 2) 膀胱腫瘍の治療 (1) 手術療法 (2) 膀胱内注入療法 3) 膀胱腫瘍の治療により起こりやすい合併症とその治療 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法 6. 前立腺癌 1. 前立腺癌の診断と検査 1) 前立腺癌の病態 2) 前立腺癌の症状 3) 前立腺癌の診断 2. 前立腺癌の治療 1) 手術療法 2) 放射線治療 3) 化学療法 3. 前立腺癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義																								
15	まとめ・終了試験		試験																								
評価方法： 筆記試験																											
評価基準： 60 点以上で単位修得																											
テキスト： <table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座</td><td>成人看護学 [8]</td><td>腎・泌尿器</td><td>医学書院</td></tr> <tr> <td>系統看護学講座</td><td>成人看護学 [9]</td><td>女性生殖器</td><td>医学書院</td></tr> <tr> <td>系統看護学講座</td><td>成人看護学 [10]</td><td>運動器</td><td>医学書院</td></tr> <tr> <td>系統看護学講座</td><td>成人看護学 [14]</td><td>耳鼻咽喉</td><td>医学書院</td></tr> <tr> <td>系統看護学講座</td><td>成人看護学 [13]</td><td>眼</td><td>医学書院</td></tr> <tr> <td>系統看護学講座</td><td>成人看護学 [12]</td><td>皮膚</td><td>医学書院</td></tr> </table>				系統看護学講座	成人看護学 [8]	腎・泌尿器	医学書院	系統看護学講座	成人看護学 [9]	女性生殖器	医学書院	系統看護学講座	成人看護学 [10]	運動器	医学書院	系統看護学講座	成人看護学 [14]	耳鼻咽喉	医学書院	系統看護学講座	成人看護学 [13]	眼	医学書院	系統看護学講座	成人看護学 [12]	皮膚	医学書院
系統看護学講座	成人看護学 [8]	腎・泌尿器	医学書院																								
系統看護学講座	成人看護学 [9]	女性生殖器	医学書院																								
系統看護学講座	成人看護学 [10]	運動器	医学書院																								
系統看護学講座	成人看護学 [14]	耳鼻咽喉	医学書院																								
系統看護学講座	成人看護学 [13]	眼	医学書院																								
系統看護学講座	成人看護学 [12]	皮膚	医学書院																								

科 目 名：疾病治療論Ⅱ		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な系統別の疾患の病態と診断・治療について学ぶ。			
学習目標： 1. 呼吸器の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 2. 循環器の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1～3	呼吸器	1. 呼吸器の構造と機能 1) 肺 2) 気管・気管支・肺胞 3) 縦隔・胸膜・横隔膜 2. 肺炎 1) 肺炎の診断と検査 （1）肺炎の病態 ①肺炎の原因と分類 ②肺炎の症状 ③肺炎の診断 ・胸部 X 線 ・血液検査（白血球・CRP・血沈・血液ガス） 2) 肺炎の治療肺炎およびその治療により起こりやすい合併症	講義
		3. 気管支喘息 1) 気管支喘息の病態 （1）気管支喘息の病型 （2）気管支喘息の症状 （3）気管支喘息の診断 ①呼吸機能検査（ピークフロー） ②血液検査（血清総 IgE） ③喀痰検査（好中球）・皮膚テスト 2) 気管支喘息の治療 （1）慢性安定期の治療 （2）急性喘息発作時の治療 3) 気管支喘息および治療により起こりやすい合併症	講義
		4. 慢性閉塞性肺疾患（COPD） 1) 慢性閉塞性肺疾患の診断と検査 （1）慢性閉塞性肺疾患の定義 （2）慢性閉塞性肺疾患の原因と病態 （3）慢性閉塞性肺疾患の症状	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	呼吸器	(4) 慢性閉塞性肺疾患の診断 ①肺 CT ②呼吸機能検査（ピークフロー） 2) 慢性閉塞性肺疾患の治療と管理 (1) 薬物療法 (2) リハビリテーション (3) 生活習慣の改善 3) 慢性閉塞性肺疾患およびその治療により起こりやすい合併症	講義
		5. 気胸 1) 気胸の診断と検査 (1) 気胸の原因の分類 (2) 気胸の症状 (3) 気胸の診断 ①胸部 X-P ②胸部 CT 2) 気胸の治療 (1) 胸腔ドレナージ (2) 手術療法 3) 気胸およびその治療に起こりやすい合併症	講義
		6. 肺がん 1) 肺がんの診断と検査 (1) 肺がんの分類 (2) 肺がんの症状 (3) 肺がんの病期 (4) 肺がんの検査 ①喀痰細胞診 ②腫瘍生検 ③腫瘍マーカー（CEA/CA19-9/NSE ProGRP/CYFRA21-1） ④胸部 X—P ⑤胸部 CT ⑥胸部 MRI ⑦FDG-PET 2) 肺がんの治療と合併症 (1) 局所療法とその合併症 ①手術療法 ②放射線療法 (2) 先進療法とその合併症 ①化学療法 ②分子標的治療 ③免疫療法	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
4～7	循環器	1. 循環器の構造と機能 1) 心臓の構造 2) 心臓の電気活動 3) 心臓のポンプ機能 4) 血管の構造 5) 循環の調整 2. 心不全 1) 心不全の診断と検査 (1) 心不全の原因と病態(心不全が生じるメカニズムを含む) ①心不全の症状と臨床所見 ②心不全の診断 ・胸部 X—P (CTR) ・心臓超音波検査 ・血液ガス分析 ・血中 ANP 値、BNP 値 ・肺動脈楔入圧 ・心拍出量 2) 心不全の治療 (1) 薬物療法 (2) 心室再同期療法 (3) IABP、PCPS	講義
		3. 不整脈 1) 不整脈の診断と検査 (1) 不整脈の病態と心電図所見 ①期外収縮 ②発作性頻脈 ③心房細動 ④心房粗動 ⑤洞房ブロック ⑥房室ブロック ⑦心室内電動障害 ⑧WPW 症候群 ⑨洞機能不全症候群 2) 不整脈の治療 (1) 薬物療法 (2) 電氣的除細動 (3) カテーテルアブレーション	講義
		4. 狭心症 1) 狭心症の診断と検査 (1) 狭心症の概念と検査 ①狭心症の分類 ②狭心症の症状 ③狭心症の診断 ・標準 12 誘導心電図 ・運動負荷心電図 ・心筋血流シンチ ・ホルダー心電図 ・心エコー ・心臓カテーテル	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	循環器	2) 狭心症の治療 (1) 冠危険因子への対応 (生活習慣の改善) (2) 薬物療法 (3) 経皮的冠状動脈インターベンションと合併症 3) 狭心症とその治療により起こりやすい合併症	講義
		5. 心筋梗塞 1) 心筋梗塞の診断と検査 (1) 心筋梗塞の概念と検査 ①心筋梗塞の分類 ②心筋梗塞の症状 ③心筋梗塞の病態生理 ④心筋梗塞の診断 ・標準 12 誘導心電図 ・逸脱酵素およびタンパク質 ・トロポニン T 検査 ・核医学 ・心エコー ・カテーテル検査と冠状動脈造影検査 2) 心筋梗塞の合併症 3) 心筋梗塞の治療 (1) 初期治療 (2) 再灌流療法 (IVT、PTCR) (3) 冠状動脈バイパス術と合併症 (4) 合併症の治療 (5) リハビリテーション	講義
	終了試験 (1 時間)		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器 医学書院			

科 目 名：疾病治療論Ⅲ		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な系統別の疾患の病態と診断・治療について学ぶ。			
学習目標： 1．血液・造血器の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 2．免疫系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1～3	血液・造血器	1．血液の産生と血球の動き 2．貧血 1) 貧血の診断と検査 （1）貧血の病態、種類 （2）貧血の症状 （3）貧血の診断 ・血液検査 2) 貧血の治療 ・貧血の病態に応じた治療法 3) 貧血の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		3．白血病（急性、慢性、成人 T 細胞白血病を含む） 1) 白血病の診断と検査 （1）白血病の病態、種類 （2）白血病の症状 （3）白血病の診断 ・血液検査 ・骨髄穿刺 2) 白血病の治療 ・化学療法 ・骨髄移植 3) 白血病の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		4．骨髄異形成症候群 1) 骨髄異形成症候群の診断と検査 （1）骨髄異形成症候群の病態、種類 （2）骨髄異形成症候群の症状 （3）骨髄異形成症候群の診断 ・血液検査 ・骨髄穿刺 2) 骨髄異形成症候群の治療 3) 骨髄異形成症候群の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
4～7	免疫	1. 免疫系の構造と機能 1) 免疫とは 2) 免疫系の構造と機能 2. I・II・III・IV型アレルギー反応とメカニズム 1) I型アレルギー反応とメカニズム 2) II型アレルギー反応とメカニズム 3) III型アレルギー反応とメカニズム 4) IV型アレルギー反応とメカニズム	講義
		3. 全身性エリテマトーデス 1) 全身性エリテマトーデスの診断と検査 (1) 全身性エリテマトーデスの病態 (2) 全身性エリテマトーデスの症状 (全身、呼吸、腎、皮膚、粘膜、精神症状) (3) 全身性エリテマトーデスの診断 ・血液検査 ・尿検査 ・免疫学的検査 2) 全身性エリテマトーデスの治療 (全身性エリテマトーデスの病態に応じた治療法) 3) 全身性エリテマトーデスの治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		4. 関節リウマチ 1) 関節リウマチの診断と検査 (1) 関節リウマチの病態 (2) 関節リウマチの症状 ・関節症状と全身症状 (3) 関節リウマチの診断基準 2) 関節リウマチの治療 (1) 薬物療法 ・抗リウマチ薬 ・生物製剤 (2) 手術療法 (3) リハビリテーション 3) 関節リウマチの治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		5. AIDS 1) AIDS の診断と検査 (1) AIDS の病態 (2) AIDS の症状 (3) AIDS の診断 2) AIDS の治療 3) AIDS の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
4～7	免疫	6. 多発性筋炎・皮膚筋炎 1) 多発性筋炎・皮膚筋炎の診断と検査 (1) 多発性筋炎・皮膚筋炎の病態 (2) 多発性筋炎・皮膚筋炎の症状 (3) 多発性筋炎・皮膚筋炎の診断 ・血清酵素・ミオグロブリン ・心電図・心エコー・心筋シンチ ・X-P 検査・CT 検査 2) 多発性筋炎・皮膚筋炎の治療 (1) 薬物療法 (2) 手術療法 (3) 生活指導 (4) リハビリテーション 3) 多発性筋炎・皮膚筋炎の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
	終了試験 (1 時間)		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院			

科 目 名：疾病治療論Ⅳ		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な系統別の疾患の病態と診断・治療について学ぶ。			
学習目標： 1. 消化器系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 2. 内分泌系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1～2	消化器 （内科）	1. 消化器の構造と機能 ＊疾患ごとに、その臓器の構造と機能も含めて説明を行う。 2. 胃・十二指腸潰瘍 1) 胃・十二指腸潰瘍の構造と機能 2) 胃・十二指腸潰瘍の診断と検査 （1）胃・十二指腸潰瘍の病態と発生機序 （2）胃・十二指腸潰瘍の症状 （3）胃・十二指腸潰瘍の診断 ・X 線検査 ・内視鏡検査 3) 胃・十二指腸潰瘍の治療 （1）ヘリコバクターピロリ感染と除菌 （2）薬物療法 （3）手術療法 4) 胃・十二指腸潰瘍の治療に伴う合併症と治療	講義
		3. 潰瘍性大腸炎・クローン病 1) 潰瘍性大腸炎・クローン病の診断と検査 （1）潰瘍性大腸炎・クローン病の病態 （2）潰瘍性大腸炎・クローン病の鑑別点 （3）潰瘍性大腸炎・クローン病の症状 （4）潰瘍性大腸炎・クローン病の診断 ・血液検査・内視鏡検査 ・注腸検査 2) 潰瘍性大腸炎・クローン病の治療 （1）活動期の治療 （2）緩解期の治療 3) 潰瘍性大腸炎・クローン病とその治療に伴う合併症と治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	消化器 (内科)	4. 慢性肝炎・肝硬変 1) 肝臓の構造と機能 2) 慢性肝炎・肝硬変の診断と検査 (1) 慢性肝炎・肝硬変の病態・種類・分類 (2) 慢性肝炎・肝硬変の症状 (3) 慢性肝炎・肝硬変の診断 ・ ICG 検査・超音波検査 ・ 肝生検 3) 慢性肝炎・肝硬変の治療 ・ 薬物療法 ・ 食事療法 4) 慢性肝炎・肝硬変および治療により起こりやすい合併症と治療 5) 門脈圧亢進の診断と検査 (1) 門脈圧亢進の病態・種類・分類 (2) 門脈圧亢進の症状 (3) 門脈圧亢進の診断 ・ 内視鏡検査 ・ 血液検査 6) 門脈圧亢進の治療 ・ 内視鏡的静脈瘤結紮術、内視鏡的硬化療法 ・ 食事療法 ・ 腹水のコントロール 7) 門脈圧亢進およびその治療により起こりやすい合併症と治療 8) 肝性脳症の診断と検査 (1) 肝性脳症の病態・種類・分類 (2) 肝性脳症の症状 (3) 肝性脳症の診断 ・ 血中アンモニア 9) 肝性脳症の治療 ・ アミノ酸製剤の投与 ・ 非吸収性抗生物質の投与 10) 肝性脳症およびその治療により起こりやすい合併症と治療	講義
3～4	消化器 (外科)	1. 胃癌 1) 胃の構造と機能 2) 胃癌の診断と検査 (1) 胃癌の病態 ・ 種類 ・ 発生部位 ・ 分類 (2) 胃癌の症状 (3) 胃癌の診断 ・ X 線造影検査 ・ 内視鏡検査 ・ CEA、CA19-9 3) 胃癌の治療 ・ 胃切除の切除範囲と再建方法 4) 胃切除後に起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	消化器 (外科)	2. 食道癌 1) 食道の構造と機能 2) 食道癌の診断と検査 (1) 食道癌の病態 ・種類 ・発生部位 ・分類 (2) 食道癌の症状 (3) 食道癌の診断 ・X線造影検査 ・内視鏡検査 ・色素内視鏡検査 ・生検 3) 食道癌の治療 ・癌の進行度に応じた治療法 4) 食道切除後に起こりやすい合併症とその治療	講義
		3. イレウス 1) 腸の構造と機能 2) イレウスの診断と検査 (1) イレウスの病態・種類・分類 (2) イレウスの症状 (3) イレウスの診断 ・腹部単純X線検査 ・超音波検査 3) イレウスの治療 (1) 保存療法(イレウス管) (2) 手術療法 4) イレウスの治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		4. 大腸癌 1) 大腸の構造と機能 2) 大腸癌の診断と検査 (1) 大腸癌の病態 ・種類 ・発生部位 ・分類 (2) 大腸癌の症状 (3) 大腸癌の診断 ・便潜血検査 ・X線造影検査 ・内視鏡検査 ・腫瘍マーカー 3) 大腸癌の治療 ・切除範囲と再建方法 4) 大腸切除後に起こりやすい合併症とその治療	講義
		5. 肝臓癌 1) 肝臓癌の診断と検査 (1) 肝細胞癌の病態、分類 (2) 肝細胞癌の症状 2) 肝細胞癌の診断 ・超音波検査 ・CT検査 ・MRI検査 ・血管造影検査 ・血液検査	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	消化器 (外科)	3) 肝細胞癌の治療 ・肝切除術 ・肝動脈塞栓術 ・経皮的エタノール注入療法 4) 肝細胞癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		6. 胆石症・胆嚢炎 1) 胆嚢・胆管の構造と機能 2) 胆石症・胆嚢炎の診断と検査 (1) 胆石症・胆嚢炎の病態 ・原因 ・発生機序 (2) 胆石症・胆嚢炎の症状 (3) 胆石症・胆嚢炎の診断 ・血液検査 ・X線検査 ・超音波検査 ・CT検査 3) 胆石症・胆嚢炎の治療 ・PTCD (PTGBD) ・胆嚢切除術 (開腹・腹腔鏡手術) 4) 胆石症・胆嚢炎の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		7. 胆嚢・胆管癌 1) 胆嚢・胆管癌の診断と検査 (1) 胆嚢・胆管癌の病態 ・種類 ・発生部位 ・分類 (2) 胆嚢・胆管癌の症状 (3) 胆嚢・胆管癌の診断 2) 胆嚢・胆管癌の治療 ・切除範囲と再建法 3) 胆嚢・胆管切除術後に起こりやすい合併症とその治療	講義
		8. 急性膵炎 1) 膵臓の構造と機能 2) 急性膵炎の診断と検査 (1) 急性膵炎の病態 ・原因 ・発生機序 (2) 急性膵炎の症状 (3) 急性膵炎の診断 ・血液、尿検査 ・X線検査 ・超音波検査 ・CT検査 3) 急性膵炎の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	消化器 (外科)	9. 膵臓癌 1) 膵臓癌の病態 2) 膵臓癌の症状 3) 膵臓癌の診断 ・超音波検査 ・CT 検査 ・MRI 検査 ・腫瘍マーカー ・内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) 4) 膵臓癌の治療と予後	講義
5～7	内分泌	1. 代謝・内分泌器官の構造と機能 1) フィードバック機構 2) CRH・ACTH・コルチゾール系 3) TRH・TSH・甲状腺ホルモン系 2. 成長ホルモン産生腫瘍 (巨人症・先端巨大症) 1) 成長ホルモン産生腫瘍 (巨人症・先端巨大症) の診断と検査 (1) 成長ホルモン産生腫瘍の病態 (2) 成長ホルモン産生腫瘍の症状 (3) 成長ホルモン産生腫瘍の診断 ・血中ホルモン値 ・尿中ホルモン値 ・ソマトメジン C ・75gOGTT ・X 線検査 ・MRI 検査 ・ブロモクリチン負荷試験 2) 成長ホルモン産生腫瘍の治療 (1) 手術療法 3) 成長ホルモン産生腫瘍の治療により起こりやすい合併症と その治療 3. ATCH 産生腫瘍 (クッシング病) 1) ATCH 産生腫瘍 (クッシング病) の診断と検査 (1) ATCH 産生腫瘍の病態 (2) ATCH 産生腫瘍の症状 (3) ATCH 産生腫瘍の診断 ・血中 ACTH ・コルチゾール値 ・MRI 検査 2) ATCH 産生腫瘍の治療 (1) 手術療法 (2) 薬物療法 (3) 放射線療法 3) ATCH 産生腫瘍の治療により起こりやすい合併症と その治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	内分泌	4. 慢性甲状腺炎（橋本病） 1) 慢性甲状腺炎（橋本病）の診断と検査 (1) 慢性甲状腺炎の病態 (2) 慢性甲状腺炎の症状 (3) 慢性甲状腺炎の診断 ・血液検査（ZTT、TTT） ・γグロブリン・甲状腺自己抗体 2) 慢性甲状腺炎の治療 ・レボチロキシンナトリウム ・生活指導 3) 慢性甲状腺炎の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		5. バセドウ病 1) バセドウ病の診断と検査 (1) バセドウ病の病態 (2) バセドウ病の症状 (3) バセドウ病の診断 ・遊離ホルモン・TSH 受容体抗体 2) バセドウ病の治療 (1) 薬物療法 (2) 放射線治療 (3) 手術療法 (4) 生活指導 3) バセドウ病の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		6. 甲状腺腫瘍 1) 甲状腺腫瘍の診断と検査 (1) 甲状腺腫瘍の病態 (2) 甲状腺腫瘍の症状 (3) 甲状腺腫瘍の診断 ・超音波検査 ・穿刺吸引細胞診 ・血液検査（サイログロブリン） 2) 甲状腺腫瘍の治療 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) エタノール注入 3) 甲状腺腫瘍の治療により起こりやすい合併症とその治療	

回数	講義題目	内 容	方 法
	内分泌	7. 原発性アルドステロン病 1) 原発性アルドステロン病の診断と検査 (1) 原発性アルドステロン病の病態 (2) 原発性アルドステロン病の症状 (3) 原発性アルドステロン病の診断 ・血液検査・副腎シンチグラフィー 2) 原発性アルドステロン病の治療 (1) 手術療法 (2) 薬物療法 3) 原発性アルドステロン病の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		8. クッシング症候群 1) クッシング症候群の診断と検査 (1) クッシング症候群の病態 (2) クッシング症候群の症状 (3) クッシング症候群の診断 ・血液検査 ・CT 検査 ・副腎シンチグラフィー 2) クッシング症候群の治療 (1) 手術療法 (2) 薬物療法 3) クッシング症候群の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		9. 褐色細胞腫 1) 褐色細胞腫の診断と検査 (1) 褐色細胞腫の病態 (2) 褐色細胞腫の症状 (3) 褐色細胞腫の診断 ・血液検査・尿検査・CT 検査 ・MRI 検査・シンチグラフィー 2) 褐色細胞腫の治療 (1) 手術療法 3) 褐色細胞腫の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		10. 糖尿病 1) 膵臓の構造と機能 2) 糖尿病の診断と検査 (1) 糖尿病の病態と分類 (2) 糖尿病の症状 (3) 糖尿病の診断 ・空腹時血糖 ・75gOGTT ・HbA1c	

回数	講義題目	内 容	方 法
		3) 糖尿病の治療 (1) 食事療法 (2) 運動療法 (3) 薬物療法 4) 糖尿病の治療により起こりやすい合併症とその治療 (1) 薬物療法と低血糖 (2) 糖尿病性網膜症 (3) 糖尿病性腎症 (4) 糖尿病の救急治療	講義
	終了試験		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院			

科 目 名：疾病治療論Ⅴ		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な系統別の疾患の病態と診断・治療について学ぶ。			
学習目標： 1. 脳・神経系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1～5	脳神経 （内科）	1. 脳神経の構造と機能 1) 脳神経系の構造と機能 2) 脳と血管系の構造と機能 2. 脳梗塞 1) 脳梗塞の診断と検査 （1）脳梗塞の病態（脳血栓と脳梗塞） ・ 主要な梗塞部位と血管 （2）脳梗塞の症状 ①意識障害 ②高次脳機能障害 ・ 失語・構音障害・失行と失認 ③運動麻痺 ・ 運動失調・不随意運動・痙攣 ・ 筋委縮 ④感覚機能障害 ・ 視野障害 ⑤反射運動の障害 ・ 対光反射の障害・嚥下障害 ・ 排泄障害・呼吸障害 ⑥頭蓋内圧亢進 ⑦髄膜刺激症状 （3）脳梗塞の診断 ・ 神経学的診断・CT 検査・MRI 検査 2) 脳梗塞の治療 （1）超急性期の特徴と治療 （2）急性期の特徴と治療 （3）回復期の特徴と治療 （4）慢性期の特徴と治療 3) 脳梗塞の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
	脳神経 (内科)	3. 筋委縮性側索硬化症 1) 筋委縮性側索硬化症の診断と検査 (1) 筋委縮性側索硬化症の病態 (2) 筋委縮性側索硬化症の症状 (3) 筋委縮性側索硬化症の診断 ・神経学的診断 ・筋電図 ・MRI 検査 2) 筋委縮性側索硬化症の治療 3) 筋委縮性側索硬化症の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		4. パーキンソン病 1) パーキンソン病の診断と検査 (1) パーキンソン病の病態 (2) パーキンソン病の症状と原因疾患 (3) パーキンソン病の診断 2) パーキンソン病の治療 ・薬物療法 3) パーキンソン病の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		5. 脊髄小脳変性症 1) 脊髄小脳変性症の診断と検査 (1) 脊髄小脳変性症の病態 (2) 脊髄小脳変性症の症状 (3) 脊髄小脳変性症の診断 ・神経学的診断 2) 脊髄小脳変性症の治療 ・薬物療法 3) 脊髄小脳変性症の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		6. 多発性硬化症 1) 多発性硬化症の診断と検査 (1) 多発性硬化症の病態・種類・分類 (2) 多発性硬化症の症状 (3) 多発性硬化症の診断 ・MRI 検査 ・脳脊髄液検査 ・誘発電位検査 2) 多発性硬化症の治療 ・薬物療法 ・リハビリテーション 3) 多発性硬化症の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
6～7	脳神経 (外科)	1. クモ膜下出血 1) 脳血管系の構造と機能 2) クモ膜下出血の診断と検査 (1) クモ膜下出血の病態と原因 ・発生機序 (2) クモ膜下出血の症状 (3) クモ膜下出血の診断 ・CT 検査 ・髄液検査 ・脳血管撮影検査 3) クモ膜下出血の治療 ・手術療法 4) クモ膜下出血の術後に起こりやすい合併症とその治療	講義
		2. 脳腫瘍 (グリオーマ、下垂体腺腫、聴神経鞘腫について) 1) 脳腫瘍の診断と検査 (1) 脳腫瘍の病態 ・発生機序 (2) 脳腫瘍の症状 (3) 脳腫瘍の診断 ・CT 検査 ・髄液検査 等 2) 脳腫瘍の治療 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法 3) 脳腫瘍の術後に起こりやすい合併症とその治療	講義
	終了試験 (1 時間)		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院			

科 目 名：臨床心理学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 心理学は「こころ」のしくみや働きを科学的に研究する学問です。つまり、私たちの何気ない行動や思考の背景にあるメカニズムを明らかにしようとする学問です。 このような身近な学問ですが、目には見えない「こころ」の切り口は数多く、心理学の研究領域は広範囲にわたっています。そういった多くの心理学の中に、心のケアを研究する臨床心理学があります。本講義では、日常における身近な具体例などを提示しながら、基礎的な心理学、及び応用・実践的な心理学の知識を理解することを目的としています。			
学習目標： 基礎的、及び応用・実践的な心理学の知識を理解し、「こころ」について主体的に考えられるようになること。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	第 1 章 心理学とは	A. 心理学とはどのような学問か B. 対人援助と心理学 C. 心理学の歴史 D. 心理学の研究方法	講義
2	第 2 章 感覚と知覚	A. 外界を理解する心のはたらき B. 感覚のしくみとはたらき C. 知覚のしくみとはたらき	講義
3	第 3 章 記憶	A. 記憶のメカニズム B. 感覚・短期記憶と作業記憶 C. 長期記憶と忘却	講義
4	第 4 章 思考・言語・知能	A. 思考 B. 言語とコミュニケーション C. 知能	講義
5	第 5 章 学習	A. 学習とは B. 古典的条件づけ C. オペラント条件づけと学習の理論 D. 社会的学習と効果的な学習方法	講義
6	第 6 章 感情と動機づけ	A. 感情の諸相 B. 感情のメカニズム C. 動機づけ D. 動機づけの理論	講義
7	第 7 章 性格とパーソナリティ	A. 性格とは B. 性格の理論 C. 性格の測定	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
8	第 8 章 社会と集団	A. 社会的認知 B. 態度と説得的コミュニケーション C. 対人関係と対人魅力 D. 集団とリーダーシップ	講義
9	第 9 章 発達	A. 発達とは B. 乳幼児の発達 C. 児童・青年の発達 D. 成人・高齢者の発達	講義
10	第 10 章 心理臨床①	A. 心理臨床と臨床心理学 B. 心の適応と不適応(1) ストレスと適応、 心の問題と心理学の役割	講義
11	第 10 章および第 7 章 (C. 性格の測定) 心理臨床②	B. 心の適応と不適応(2) 心理アセスメント	講義
12	第 10 章 心理臨床③	C. 心理療法 ①精神分析的心理療法 ②行動療法・認知行動療法	講義
13	第 10 章 心理臨床④	C. 心理療法 ③来談者中心療法 ④その他の心理療法	講義
14	第 11 章 医療・看護と心理	A. 医療職と対人援助 B. 患者の心理 C. 医療・看護職の心理 D. 医療・看護職の心のケア	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 全体講義終了後に試験を行う。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 基礎分野「心理学」 医学書院			

科 目 名：予防医学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師、専任教員			
学習目的： 人間を取り巻く環境の現状を理解して、人間のあり方、健康増進のための保健活動について学ぶ。			
学習目標： 1. 予防医学の意義を理解する。 2. 環境と健康の関わりを学ぶ。 3. 保健活動を学ぶ。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	予防医学の概念	生活習慣病の予防対策と健康増進 健康日本 21	講義
2	演習 1	予防医学の概念の課題	演習
3	地球環境 生活環境	水、空気、土壌、気圧、温度 電離放射線、非電離放射線、公害、 熱中症、化学的要因 健康栄養、食品管理、食中毒、検疫	講義
4	演習 2	地球環境・生活環境の課題	演習
5	産業保健	産業保健活動、職業病、 産業看護労働衛生、復職支援	講義
6	演習 3（講義）	産業保健の課題と 演習 1・2・3 の解説	演習・講義
7	健康指標と予防 1	人口静態、人口動態①	講義
8	演習 4	健康指標と予防 1 の課題	演習
9	健康指標と予防 2	人口動態②	講義
10	疫学	健康状態と受療状況 疫学的方法による健康の理解	講義
11	演習 5	健康指標と予防 2、疫学の課題	演習
12	学校保健 国際保健	学校保健安全法（学校保健活動含）、 学校環境衛生基準 国際協力	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
13	感染症	感染症法、検疫法、予防接種法 感染症の動向 感染症予防（経路別予防対策）、 予防接種、サーベイランス	講義
14	演習 6（講義）	学校保健・国際保健・感染症の課題と 演習 4・5・6 の解説	演習・講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： マークシート テスト			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 参考文献： 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）			

科 目 名：社会福祉論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 関連領域としてのライフサイクルにおける社会福祉、とくに社会保障制度と社会福祉の諸サービスを体系的に理解し、保健医療領域との連携を学ぶ。			
学習目標： 1. 生活と社会福祉の観点から、社会福祉の概念や定義を学ぶ。 2. 社会保障制度の歴史・目的・機能・制度体系を理解する。 3. 社会福祉の諸制度と施策を具体的に学ぶ。 4. 実際の事例から、福祉と看護の役割と連携を学ぶ。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	生活と福祉	なぜ社会福祉を学ぶのか 生活における社会福祉	講義
2	社会保障制度	社会保障制度の概念と歴史的発展 目的と機能	講義
3	日本の社会保険制度	医療保険制度	講義
4		介護保険制度	講義
5		年金保険制度	講義
6		雇用保険制度	講義
7	社会福祉	日本の社会福祉の歴史	講義
8		生活保護法	講義
9		児童福祉	講義
10		障害児福祉	講義
11		障害者福祉	講義
12		高齢者福祉	講義
13		その他（地域福祉、行政機関）	講義
14	事例	医療保健と福祉の連携	講義
15	終了試験		試験
評価方法：出席・試験・レポート提出などから総合的に評価する			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会福祉 医学書院 参考文献：適宜紹介する			

科 目 名：リハビリテーション論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 総合リハビリテーションの考え方を理解し、基本的な知識と技術を学ぶ。			
学習目標： 1. リハビリテーションの理念・歴史を理解することができる。 2. 障害について知識を深めることができる。 3. 患者の持つ障害に対するリハビリテーションを理解することができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1 2 3	リハビリテーション医学と生理学 リハビリテーション医学と生化学 脳卒中麻痺のリハビリテーション治療 高次脳機能障害のリハビリテーション治療	① リハビリテーション医学の意義や呼吸器・循環器のリハビリテーション治療 ② 脳卒中麻痺について ③ 高次脳機能障害について	講義
4 5	理学療法によるリハビリテーションと日常生活支援	座る、立つ、歩くなどの基本動作能力の回復や維持 補装具や車いすの活用	講義
6	作業療法によるリハビリテーションと日常生活支援	排泄、衣服の着脱、食事の援助 自助具の活用など	講義
7	言語聴覚療法によるリハビリテーションと日常生活支援	聞く、読む、話す、書くなどのコミュニケーション障害への支援 摂食、嚥下機能障害への支援	講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 試験、出席、平常点を総合的に評価			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
留意事項			

科 目 名：医療関係法規 看護医療に関する法律の基礎		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 法の理念をもとに看護領域に直接・間接で関わる法規について学ぶ。			
学習目標： 1．法の基礎知識を学ぶ。 2．看護の職域と法的責任について理解する。 3．看護領域で必要な関係法規を学ぶ。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	法の概念 医療法規総論	① 成文法と不文法、法の概念 ② 医療法 ③ 臓器移植法 ④ 個人情報保護法	講義
2	医事法規	① 保健師助産師看護師法 ② 医師法 ③ その他医療従事者に関する法規	講義
3	薬務関連法規 労働衛生法規 環境関連法規	① 薬機法、薬剤師法 ② その他の薬務関連法規 ③ 労働基準法、その他の労働衛生法規 ④ 環境基本法、その他の公害防止法規	講義
4	保健衛生法規	① 地域保健法（自治体による保健活動含） ② 健康増進法 ③ 精神保健福祉法（精神保健活動・福祉含） ④ 母子保健法（母子保健活動・福祉含）、 母体保護法 ⑤ がん対策基本法	講義
5	生活衛生法規	① 食品衛生法 ② 水道法、下水道法 ③ 廃棄物処理法、墓地埋葬法 ④ その他の生活衛生関連法規	講義
6	社会保険法規 （労災、雇用除く）	① 健康保険法 （医療保険制度、保険診療、国民医療費含） ② 介護保険法 （介護保険制度、虐待対策、老人保健活動含） ③ 高齢者医療確保法（特定健診含） ④ その他の社会保険法規	講義
7	福祉関連法規	① 児童福祉法、児童虐待防止法（虐待対策含） ② 老人福祉法、 高齢者虐待防止法（虐待対策含） ③ 障害者基本法、 障害者総合支援法 （障害者福祉活動、ICF 含） 障害者虐待防止法（虐待対策含） ④ 母子及び寡婦福祉法 ⑤ 生活保護法 ⑥ その他の福祉関連法規	講義
	終了試験（1 時間）		試験

評価方法： マークシート テスト
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト： 系統看護学講座 看護関係法令(医学書院) 参考文献： 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

専 門 分 野

専門分野では、各看護学の講義・演習・臨地実習での学びを通して臨床判断能力を養い、さらにはチーム医療や多職種連携のなかで看護師が専門性を発揮しながらリーダーシップ・フォロワーシップを発揮する必要性などを学びます。

基 礎 看 護 学

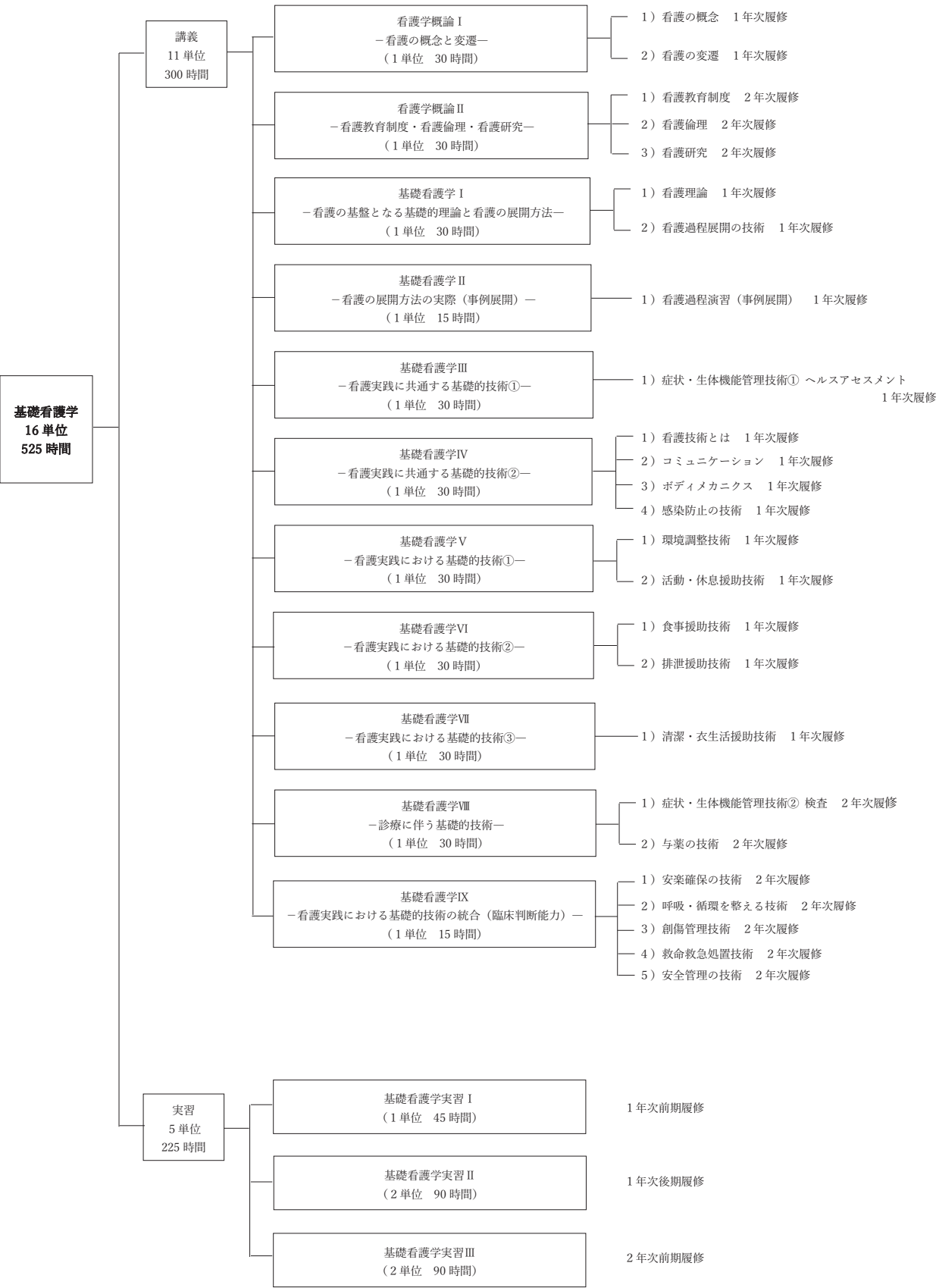
単 位 16 単位 (525 時間)

学習目的 看護の対象である人間を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を知り、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

学習目標

1. 看護の対象について理解を深め、看護の概念及び看護の機能を学び、それをもとにして自己の人間観・看護観を発展させる。
2. 保健・医療・福祉における看護の役割を認識する。
3. あらゆる健康レベルにある対象への看護実践の基礎となる看護技術を習得する。
4. 根拠に基づき科学的に看護実践を展開する能力を身につける。
5. 仲間との共同学習を通して、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携していくための姿勢を身につける。
6. 生涯自己研鑽が求められる看護職を目指すものとして能動的に学習する姿勢を身につけ、「自ら学び続ける力」の基盤となる能力を養う。

基礎看護学の構造図



科 目 名：看護学概論Ⅰ －看護の概念と変遷－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：4 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 1. 看護の歴史的変遷を知ること、看護とは何かを学ぶ 2. 人間・健康・環境・看護それぞれの概念についての理解を深め、4 つの概念の関係性から看護の役割機能について学ぶ			
学習目標： 1. 近代看護の誕生とその発展について、その時代背景を踏まえて理解する。 2. 看護の対象である人間を理解する。 3. 人間の健康について理解する。 4. 人間と環境の関係について理解する。 5. 人間、健康、環境との関連性から看護について理解する。 6. 看護の役割機能について理解する。 7. チーム医療における看護の役割を理解する。 8. 専門職としての看護師について考える機会を得る。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	看護とは何か（1） 近代看護の誕生の経緯	1. 看護を学ぶ意義 2. 概念とは何か、看護の概念とは何を学ぶのか	講義
2	近代看護の誕生の経緯と 近代看護の発展	3. 看護の歴史を学ぶ意義 4. ナイチンゲールの時代背景と個人史 5. ナイチンゲールの業績	講義
3	近代から現代までの看護の変遷	6. 諸外国の看護の歴史 7. 日本の看護の歴史 8. 日本の近代看護教育 9. 日本の近代看護から現代看護までの歴史	講義
4	人間の理解（1） 「看護の対象としての人間」	1. 人間とは 2. 統一体としての人間とは	講義
5	人間の理解（2） 「看護の対象としての人間」	3. 人格を持つ存在としての人間 4. 人間の発達 5. 人間の基本的欲求と行動 6. 生物体としての人間 7. 人間の共通性と個別性	講義
6	人間の健康 「様々な健康の捉え方」	1. 人間の特性まとめ 2. 人間の特性と人間の健康	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
6	人間の健康 「様々な健康の捉え方」	3. 健康とは何か（様々な定義） 4. セルフケアと健康 5. 適応としての健康	
7	人間の健康 「様々な健康の捉え方」	6. 存在の満足と健康 7. 健康の増進と予防 8. 健康のまとめ	講義
8	看護とは何か（2）	1. 人間の健康と看護 2. 患者が看護師に求めていること について考える	GW 発表
9	法的側面からみた看護の理解 看護実践の基準 看護における倫理の必要性	3. 看護の法的規定 4. 看護の定義（様々な定義） 5. 看護の業務基準	講義
10	看護の役割・機能（1）	6. ケアの倫理・原則の倫理 7. 看護者の倫理綱領 8. 看護の役割・機能とは	講義
11	看護の役割・機能（2）	9. 看護の役割・機能の実際 1) 健康の保持・増進と疾病や 障害の予防・異常の早期発見 2) 健康障害のある人々の健康 回復に向けたケア 3) 避けられない死に臨む人々のケア 4) 存在の満足を支える援助	講義
12	看護の役割・機能（3） 1) 看護における学習支援 2) 看護管理	10. その他の看護の役割・機能 1) 健康に生きることを支える学習 支援（ヘルスプロモーション） 2) 健康状態の変化に伴う学習支援 3) 学習支援の基本となる考え方 4) 学習支援の実際 5) 看護とマネジメント	講義
13	人間の健康と環境との関係	1. 環境とは 2. 外部環境と内部環境 3. 人間と環境の相互関係 4. 環境が健康に及ぼす影響	講義
14	チーム医療と 看護専門職としての看護 専門職としての看護師 人間・健康・環境・看護の概念と 関連性	1. 保健医療チームとは 2. 協働するチームにおける看護職 の役割 3. チーム医療の必要性 4. 専門職とは、専門職に求められる 態度 5. 看護の広がりとは専門性 6. 人間・健康・環境・看護の概念間の 関連性	講義
15	まとめ・終了試験		試験

評価方法： 筆記試験、ナイチンゲール看護覚え書きレポート、個人ワークシートの提出、出席状況、受講態度を総合判定する。
評価基準： 終了試験に個人ワーク・GW 発表・課題提出を平常点とし、加算する。
テキスト：系統看護学講座 ①「看護学概論」医学書院 看護覚え書 現代社 参考文献：その都度提示
留意事項： 看護の概念は、看護を学ぶ入口であり、奥行きであり、今後の看護学の学習及び実習さらに卒業後も常に立ち返る重要な科目である。できるだけ、個々人が考える授業を組み立て、自分が思い描く看護師像を見出していけることを願いたい。ただ知識を得るばかりではなく同時に人間性を涵養するものであってほしい。
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、平日 9：00～17：30 に講師を訪ねてください。

科 目 名：看護学概論Ⅱ －看護教育制度・看護倫理・看護研究－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：2 年次 9 月	
担当講師：専 任 教 員（看護実務経験有） 看護研究：非常勤講師（看護実務経験有）			
学習目的： 【看護教育制度】看護行政の実際を学び、今後の看護の課題について考える 【看護倫理】看護専門職としての責務と倫理原則を学び、倫理的感性を高める 【看護研究】科学的思考に基づいた看護研究の基礎的知識と方法について学ぶ			
学習目標： 1. 看護制度・看護行政と看護活動について理解する。 2. 看護教育制度について理解する。 3. これからの看護の課題を見出す。 4. 専門職にとっての倫理の意義を理解する。 5. 看護職に求められる倫理について理解する。 6. 看護場面における倫理的意思決定について理解する。 7. 看護研究の基本的方法と研究倫理を理解する。 8. 文献検索の方法と研究への活用方法について理解する。 9. 看護研究の種類と方法について理解する。 10. 自らの研究疑問を用いた看護研究の計画書が作成できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	専門職としての看護 看護に関連する諸制度	1. 専門職とは 2. 看護専門職に求められる能力 3. 看護活動と保健師助産師看護師法 4. 看護制度と看護活動	講義
2	看護職の教育制度	5. 看護基礎教育 6. 継続教育	講義
3	医療制度と看護 看護政策と制度	7. 医療法 8. 医療保険制度 9. 看護行政の組織	講義
4	倫理とは 看護倫理の基礎知識 看護倫理に関する重要な言葉	1. 倫理とは何か 2. 看護倫理の基礎知識 3. 看護倫理に関わる歴史的変遷 4. 看護倫理に関する重要な言葉	講義
5	看護倫理のアプローチ	5. 看護倫理教育の変遷 6. ケアの倫理と徳の倫理 7. 原則の倫理 「事例 1」 8. 看護専門組織の役割と倫理綱領	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
6	倫理的アプローチ方法	9. 倫理的アプローチの実際 1) Jonsen らの症例検討シートを用いた方法 2) トンプソン&トンプソン意思決定のための 10 のステップ 3) サラ・フライの看護実践における倫理的分析と意思決定モデル 4) ナラティブアプローチ 10. Jonsen 症例検討シートによる「倫理的アプローチ事例検討」	個人ワーク GW
7	Johnsen 奨励検討シートによる事例検討	11. ステップモデルによる事例検討 倫理的アプローチと意思決定	個人ワーク GW 発表
8	倫理的意思決定による看護の実際 ・倫理的アプローチと意思決定 まとめ	12. 看護倫理に関する用語 13. 様々な看護活動と倫理 14. 看護倫理：最善をめざすということ 15. 異文化と看護倫理 16. 専門職に求められる能力と倫理	講義
9	臨床の疑問から研究へ	1. 看護研究とは 2. 看護研究の意義・目的 3. 研究疑問（リサーチクエスション） 4. 研究疑問の明確化 5. 研究テーマの選定方法	講義
10	研究の倫理	6. 対象者への倫理的配慮 7. 研究協力依頼書と同意書 8. 研究活動上の倫理 （責任ある研究行為・不正行為・データの扱い・利益相反など）	講義
11	研究デザインとデータ分析 ・研究疑問の焦点化	9. 研究デザインの選択 10. 質的研究と量的研究 11. データ分析 12. 研究疑問の設定	講義 個人ワーク
12	文献検索 批判的思考による文献検索、検討	13. 文献検索の方法と整理 14. 論文クリティークとは	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
13	研究計画書の作成 1	15. 研究計画書の作成方法 16. 研究計画書の作成の実際	個人ワーク
14	研究計画書の作成 2 論文の公表	17. 研究計画書の作成の実際 18. 学会発表・論文作成	発表
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 終了試験とレポート（研究計画書・事例検討個人ワーク等）合わせて評価			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 【看護教育制度】系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 ①「看護管理」 【看護倫理】系統看護学講座 別巻「看護倫理」 【看護研究】資料はその都度提示			
留意事項： 【看護教育制度】 医療者として責任ある行動の基盤となる看護制度について理解する機会としてほしい。 【看護倫理】 看護倫理は、実際の場面で遭遇するであろう問題を幅広く考え、倫理的感性を磨く。 また専門職である看護師に求められる倫理とは何か考える機会を持つ。 【看護研究】 看護に関わる人にとって看護に関連した疑問を、理論的・科学的根拠をもって明らかにするためには「看護研究」は必要不可欠である。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、平日 9：00～17：30 に講師を訪ねてください。			

科 目 名：基礎看護学Ⅰ －看護の基盤となる基礎的理論と 看護の展開方法－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：7 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 看護の主要理論について学び、看護過程の展開方法について理解できる。			
学習目標： 1. 看護理論の歴史的変遷を知るとともに、その必要性和意義を理解できる。 2. 代表的な理論家の解説から、それぞれの主要概念を理解できる。 3. 看護理論の実践への活用方法を理解できる。 4. 看護過程を展開することの必要性を理解できる。 5. 看護過程の各構成要素を理解できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	看護理論とは	1. 看護理論とは何か 2. 看護理論の構成要素 3. 看護理論の変遷と発展	講義
2	V. ヘンダーソンの理論	1. V・ヘンダーソンの活躍した時代 背景と経歴 2. V・ヘンダーソンに影響を 及ぼした人々 3. V・ヘンダーソンの人間・環境 ・健康・看護のとらえかた 4. 基本的看護の構成要素 5. 実践への活用法	講義
3	患者理解のための理論	1. 危機理論 2. ストレス・コーピング理論	講義
4	理論の探求（個人ワーク）	1. 探求する理論家の決定 （オレム・ロイ・ワトソン・ペプロウ等） 2. 文献検索	個人ワーク
5	理論の探求（グループワーク）	1. グループ編成の決定 2. グループ討議 3. 発表資料作成	GW
6	看護理論ワーク発表	1. グループ発表 2. 質疑応答 3. 発表講評	発表
7	看護理論まとめ	1. 代表的な理論家の業績まとめ 2. 看護理論を学ぶことの意義	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
8	看護過程とは何か	1. 看護過程とは・看護過程はなぜ必要か？ 2. 人間の健康と看護過程 3. 看護過程の定義と概念の変遷 4. 看護過程の必要性 5. 看護過程の構成要素と相互関係	講義
9	アセスメント	1. アセスメントの意義 2. アセスメントのプロセス 3. 情報収集の方法 4. 情報の事実確認と意味 5. アセスメントの種類	講義
10	アセスメントの実際	1. 事例を用いて、データベースアセスメントを実施する	講義
11	アセスメントから看護診断へのプロセス	1. アセスメントのプロセス 2. 全体像の把握（関連図） 3. 関連図目的 4. 関連図の書き方	講義
12	看護診断	1. 看護問題・看護診断とは 2. 看護診断の利点、欠点 3. 看護診断のタイプ 4. 看護診断の表現方法	講義
13	優先順位決定の意義 アウトカムの設定	1. 優先順位の決定 2. アウトカムとは何か 3. 目標の記述の仕方	講義
14	計画立案 計画の実施・結果 評価・修正 看護過程まとめ	1. 計画の基準 2. 具体策の決定：観察・看護行為・指導 3. 計画の実施・記録 4. 看護介入の実施及び必要な計画の変更 5. 評価とは何か 6. 評価のステップ 7. 評価の視点 8. 計画の継続、修正、終了 9. 看護過程まとめ	講義
15	まとめ・終了試験		試験

評価方法： 筆記試験および授業態度・グループワークへの参加姿勢・課題の提出状況
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト・参考文献： 【看護理論】 系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会 ケースを通してやさしく学ぶ 看護理論 日総研 【看護過程】 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 看護診断ハンドブック リング J.カルペニート 医学書院 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会
留意事項： 【看護理論】 看護理論は看護を考える上で基盤となるものである。授業を通してその糸口を見つけ、興味ある理論家の理論に触れることで看護理論を学ぶ意義を理解して欲しい。またグループワークで共同して学習することを通して、グループで補いあいながら理解を深めて欲しい。看護理論の理解、実践への活用へとつながることを期待する。 【看護過程】 看護過程は、これから履修する専門分野の学習を進める上で欠かすことのできない基本となる看護の方法の 1 つである。従って講義でおさえる内容にとどまらず課題学習や自己の学習を積極的に実施し、個々に理解を深めていくことが重要となる。
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、平日 9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。

科 目 名：基礎看護学Ⅱ －看護の展開方法の実際（事例展開）－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：10 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的：事例を通して、看護の基本となる看護過程を展開することができる。			
学習目標： 1. 看護過程の展開に必要な情報を収集することができる。 2. 収集した情報を用いて個別的にアセスメントすることができる。 3. 対象の全体像を捉えることができる。 4. 対象に必要な看護を導き出すことができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	事例紹介 必要な情報の整理	1. 事例の読み込み 2. 情報の整理・事前学習 3. インタビュー内容の検討	講義 個人ワーク
2	インタビュー	1. 情報収集	演習
3	第1段階アセスメント 関連図の作成	1. 情報の整理 2. 全体像の把握 3. 看護問題の明確化	講義 個人ワーク GW
4	第2段階アセスメント	1. 焦点アセスメント 2. 看護援助の計画立案	講義 GW
5	グループ討議	1. 第一段階アセスメント～関連図	GW
6・7	全体発表	1. 全体発表	発表
評価方法：授業態度、演習態度、提出物の記述内容と提出状況			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護診断ハンドブック リング J.カルペニート 医学書院 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会			
留意事項： この単元は、基礎看護学Ⅰで学習した知識をもとに、実施に患者事例を用いて看護過程を展開していくものである。この単元での学びは看護を実践していくうえで基盤となるものである。個人の学習だけではなくグループワークでの学びも大きく、仲間と共同しながら看護過程の展開方法・意義について学び、理解してほしい。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、平日 9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

科 目 名：基礎看護学Ⅲ －看護実践に共通する基礎的技術①－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：4 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 対象の健康状態を査定する視点を理解し、正しくフィジカルアセスメントが実施できる。			
学習目標： 1. ヘルスアセスメントに必要な視点・知識を理解できる。 2. フィジカルイグザミネーションの方法を理解できる。 3. 系統的にフィジカルアセスメントが実施できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントに必要な技術	1. ヘルスアセスメントとは何か 2. 科学的思考プロセス・看護過程におけるアセスメントの重要性 3. アセスメントスキルとしての観察・フィジカルイグザミネーションとは 4. 観察の方法・留意点	講義
2	バイタルサイン測定の意義 バイタルサインの観察とアセスメント①（体温）	1. バイタルサイン測定の意義 2. バイタルサインが意味するもの（呼吸と循環） 3. バイタルサインに影響する因子 1. 体温とは 2. 耐熱の産生と放散 3. 体温の観察 （正常と異常・体温計の種類・測定部位と測定方法・測定時の注意事項・随伴症状と発熱時の観察ポイント） 4. 体温保持のための基礎的援助方法 5. アセスメントの視点	講義
3	バイタルサインの観察とアセスメント②（脈拍・呼吸）	1. 脈拍とは 2. 脈拍の観察 （測定部位と測定方法・測定時の注意事項・正常と異常） 3. 末梢循環の観察（褥瘡含む） 4. 循環保持・促進のための基礎的援助 5. 呼吸とは（内呼吸・外呼吸） 6. 呼吸の観察 （呼吸運動・測定部位と測定方法・呼吸に影響する因子・観察時の注意事項・正常と異常・随伴症状） 7. 安楽な呼吸への援助 8. 呼吸・循環のアセスメントの視点	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
4	バイタルサインの観察とアセスメント③（血圧）	1. 血圧とは 2. 血圧の観察 （変動因子・正常と異常・測定部位・使用物品・測定時の注意事項・測定方法・随伴症状） 3. 血圧の安定を助ける基礎的援助方法	講義
5 ・ 6	バイタルサイン測定演習	1. 体温・脈拍・呼吸、血圧測定 2. 随伴症状の観察	演習
7	系統的フィジカルアセスメントの進め方	1. フィジカルアセスメントの意義 2. フィジカルアセスメントに必要な健康歴聴取の目的と問診の技術 3. フィジカルイグザミネーションに必要な技術 （視診・触診・聴診・打診） 4. フィジカルアセスメント実施時の留意事項 5. 看護記録の必要性	講義
8	系統的フィジカルアセスメント①（脳・神経系、筋・骨格系）	1. 神経系のフィジカルアセスメントの目的 2. 神経系の基礎知識 3. 神経系のフィジカルアセスメントの実際 4. 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 5. 筋・骨格系の基礎知識 6. 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際	講義
9	系統的フィジカルアセスメント②（呼吸器系、腹部）	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的 2. 呼吸器系の基礎知識 3. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 4. 腹部のフィジカルアセスメントの目的 5. 腹部の基礎知識 6. 腹部のフィジカルアセスメントの実際	講義
10	系統的フィジカルアセスメント③（循環器系）	1. 循環器系のフィジカルアセスメントの目的 2. 循環器系の基礎知識 3. 循環器系のフィジカルアセスメントの実際	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
11 ・ 12	系統的フィジカルアセスメント演習	1. 系統的フィジカルアセスメント	演習
13	電法の基礎知識 電法演習	1. 電法の意義・目的 2. 電法の原理 3. 電法の生体への影響 4. 電法の効果 5. 実施方法と留意点 6. 効果的な電法の実際	講義・ 演習
14	技術チェック	1. ヘルスアセスメント	演習
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 1. 筆記試験による知識の確認および授業態度・グループワークへの参加姿勢・授業内で提示された課題の提出状況・演習前後レポートなど（80 点） 2. 技術チェックによる看護技術の習熟度の確認（20 点）			
評価基準： 1 + 2 が 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる フィジカルアセスメント メディックメディア			
留意事項： この単元は「一看護実践に共通する基礎的技術①ー」として対象の健康を査定するための知識と技術を学ぶものであり、看護師として確かな知識と技術で健康を査定できなければならない。これらの知識や技術は講義・演習のみで身につくものではなく、自己研鑽していくことが必要であり、仲間と共同しながら確かな知識・技術を身につけてほしい。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、平日 9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

科 目 名：基礎看護学Ⅳ －看護実践に共通する基礎的技術②－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：4 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的：安全を守る看護技術・人間関係構築のための基盤となる技術を習得する。			
学習目標： 1. コミュニケーションの基礎的知識と方法を理解することができる。 2. 看護におけるコミュニケーションの重要性について理解し、実践できる。 3. 看護におけるボディメカニクスの意義について理解できる。 4. 体位変換と安楽な体位保持をボディメカニクスを意識して実施できる。 5. 感染と感染経路別予防策の方法や留意点を理解することができる。 6. 清潔・不潔の概念を理解し、適切な方法で清潔操作が実施できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	看護技術とは	1. 看護技術とは何か 2. 看護の質保証に欠かせない要件	講義
2	コミュニケーションの基礎知識	1. コミュニケーションとは 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. ミスコミュニケーション 4. コミュニケーションの類型	講義
3	看護・医療とコミュニケーション	1. 関係構築のための コミュニケーションの基本 2. 効果的なコミュニケーション 技法とは	講義
4	コミュニケーション演習	1. 入院患者を想定したコミュニ ケーション（ロールプレイ）	演習
5	人間関係を構築するコミュニケー ション技術	1. 人間関係を保つ効果的な コミュニケーションの実際 2. コミュニケーション障害を もつ人への対応	講義
6	ボディメカニクスとは	1. ボディメカニクスとは 2. 姿勢と安定性 3. 重心と安定性 4. ボディメカニクスに影響を 及ぼす因子	講義
7	看護におけるボディメカニクス	1. ボディメカニクスを活用した 援助の実際 2. 体位変換の実際	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
8 ・ 9	体位変換演習	1. ボディメカニクスに活用する 原理の確認 2. 体位変換	演習
10	感染予防の基礎知識	1. 感染予防の意義と原則 2. 感染予防の基礎知識 3. 滅菌と消毒の意義 4. 滅菌と消毒の方法	講義
11	感染予防のための技法	1. 日常的手洗い 2. 手袋の装着 3. 無菌操作・滅菌物の取り扱い 4. 隔離とガウンテクニック	講義
12 ・ 13	感染予防演習	1. 感染予防技術	演習
14	技術チェック	1. コミュニケーション 2. 体位変換 3. 感染予防	演習
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法：			
1. 筆記試験による知識の確認および授業態度・グループワークへの参加姿勢・授業内で 提示された課題の提出状況・演習前後レポートなど（80 点） 2. 技術チェックによる看護技術の習熟度の確認（20 点）			
評価基準：			
1+2 が 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献：			
系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
留意事項：			
この単元は「一看護実践に共通する基礎的技術②ー」としてコミュニケーションといった 人間関係を構築していくうえで基盤となる技術、ボディメカニクスや感染予防といった 対象の安全を守るための看護援助を学ぶ科目である。 これらの知識や技術は講義・演習のみで身につくものではなく、自己研鑽していくことが 必要であり、仲間と共同しながら確かな知識・技術を身につけてほしい。			
学習サポートの方法：			
学習内容に関する質問等があれば、平日 9：00～17：30 に講師を訪ねてください。			

科目名：基礎看護学Ⅴ －看護実践における基礎的技術①－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：5 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 安全・安楽に生活を送るための活動と休息・環境と環境調整の基本的な援助技術を習得する。			
学習目標： 1．生活環境の果たす役割について理解できる。 2．安全で安楽な生活環境の調整を実施できる。 3．活動と休息の意義について理解できる。 4．安全で安楽な体位変換・移乗・移送が実施できる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	人間の健康と環境のつながり 生活環境調整の意義と役割	1．環境とは何か 2．環境と健康のつながり 1．環境調整の意義 2．患者を取り巻く生活環境因子、 その特徴 3．看護師の役割	講義
2	入院により変化する環境条件 環境条件の調整方法	1．病室環境の条件 1) 室内気候 2) 採光・照明 3) 騒音 4) 色彩感覚 5) におい 6) 生活空間・プライバシー 2．環境因子に伴って起こる問題と 解決方法 1) 日常の環境整備の目的 2) 環境整備および ベッドメイキングの方法と 実施時の留意点	講義
3 ・ 4	ベッドメイキング・環境整備演習	1. 環境整備・ベッドメイキング	演習
5	臥床患者のリネン交換の方法	1．快適な入院生活のための援助方法 1) 臥床患者のリネン交換の方法と 実施時の留意事項	講義
6 ・ 7	臥床患者のリネン交換演習	1．臥床患者のリネン交換	演習
8	人間にとっての活動	1．人間にとっての活動とは 1) 活動の意義 2) 活動の種類	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
8	人間にとっての活動	2. 活動が生体を与える影響 1) 活動のプロセス 2) 活動の効果 3) 活動制限による影響	講義
9	活動の援助	1. 活動のアセスメント 1) 日常生活動作の分類 2) 活動のアセスメント 2. 援助内容と留意点 1) 歩行の援助 2) 車椅子移乗・移送の援助 3) ストレッチャー移乗・移送の援助	講義
10 ・ 11	車椅子移乗・移送、 ストレッチャー移乗・移送演習	1. 車椅子移乗・移送 2. ストレッチャー移乗・移送	演習
12	人間にとっての休息	1. 人間にとっての休息とは 1) 休息の意義 2) 休息の種類 2. 日周期リズムと生体リズム 1) 睡眠の意義 2) 睡眠中の生理的变化 3) 睡眠に影響を与える因子 4) 睡眠の型 3. 休息・睡眠のアセスメント 1) 休息状態の援助 2) 睡眠状態のアセスメント 4. 安楽な休息・睡眠を促す援助	講義
13 ・ 14	技術チェック	1. 環境整備 2. ベッドメイキング 3. 臥床患者のリネン交換 4. 車椅子移乗・移送 5. ストレッチャー移乗・移送	演習
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 1. 筆記試験による知識の確認および授業態度・グループワークへの参加姿勢・授業内で提示された課題の提出状況・演習前後レポートなど（80点） 2. 技術チェックによる看護技術の習熟度の確認（20点）			
評価基準：1+2 が 60 点以上で単位修得			

テキスト・参考文献：

系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

留意事項：

この単元は「－看護実践に共通する基礎的技術①－」として環境や活動・休息の科目といった、人間が安全で安楽に生活するための看護援助を学ぶ科目である。

これらの知識や技術は講義・演習のみで身につくものではなく、自己研鑽していくことが必要であり、仲間と共同しながら確かな知識・技術を身につけてほしい。

学習サポートの方法：

学習内容に関する質問等があれば、平日 9:00～17:30 に講師を訪ねてください。

科 目 名：基礎看護学Ⅵ －看護実践における基礎的技術②－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：8 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的：生理的ニーズを充足するための栄養・食事・排泄の援助技術を習得する。			
学習目標： 1．栄養・食事の意義について理解できる。 2．食行動に制限のある対象への援助が実施できる。 3．排泄の意義について理解できる。 4．排泄行動に制限のある対象への援助が実施できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	栄養・食事の意義	1．食事の意義 2．栄養・食事状態に関連するアセスメント 3．病院食とは	講義
2	食事援助の基礎知識 食事介助の方法	1．食事援助の意義 2．食事摂取状態の観察 1．食行動に制限のある対象者に対する食事介助の方法	講義
3	食事介助演習	1．食事介助の実際	演習
4	経管栄養法・中心静脈栄養法	1．経管栄養法とは 2．経管栄養法の種類と特徴 3．経管栄養法の実際	講義
5	経管栄養演習	1．経管栄養法の準備 2．経管栄養法の胃管の位置確認	演習
6	排泄の意義	1．自然排尿・排便の基礎知識 2．排泄機能と排泄のメカニズム	講義
7	排泄行動に制限のある対象への援助方法	1．トイレにおける排泄介助 2．ポータブルトイレでの排泄援助 3．床上排泄援助 4．おむつによる排泄援助	講義
8 ・ 9	床上排泄援助演習	1．床上排泄援助	演習
10	自然排泄が困難な対象への援助方法	1．導尿 2．浣腸・摘便 3．人工肛門	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
11	導尿 演習	1. 一時的導尿 2. 持続的導尿	演習
12	浣腸 演習	1. 浣腸	演習
13 ・ 14	技術チェック	1. 食事介助 2. 経管栄養 3. 床上排泄援助 4. 導尿 5. 浣腸	演習
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 1. 筆記試験による知識の確認および授業態度・グループワークへの参加姿勢・授業内で提示された課題の提出状況・演習前後レポートなど（80 点） 2. 技術チェックによる看護技術の習熟度の確認（20 点）			
評価基準： 1+2 が 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
留意事項： この単元は「一看護実践に共通する基礎的技術②ー」として栄養や排泄といった、人間の生理的な欲求を満たすために必要な看護援助について学ぶものである。 これらの知識や技術は講義・演習のみで身につくものではなく、自己研鑽していくことが必要であり、仲間と共同しながら確かな知識・技術を身につけてほしい。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、平日 9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

科 目 名：基礎看護学Ⅶ －看護実践における基礎的技術③－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：6 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的：基本的欲求を充足するための清潔の援助技術を習得する。			
学習目標： 1. 清潔・衣生活の意義を理解できる。 2. 清潔行動に制限がある対象の援助技術を実施できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	人間にとっての清潔・衣生活の意義	1. 皮膚・口腔の清潔の意義 2. 衣生活の清潔の意義	講義
2	身体の清潔の目的・援助方法 全身の清潔援助の実際	1. 身体の清潔の目的 2. 清潔援助の効果 1. 清潔援助方法と選択根拠 2. 入浴とシャワー浴	講義
3	全身清拭と寝衣交換の方法	1. 全身清拭の援助の基礎知識 2. 病床での衣生活	講義
4 ・ 5	全身清拭と寝衣交換演習	1. 全身清拭と寝衣交換	演習
6	部分的な清潔の援助方法①	1. 洗髪援助の基礎知識 2. 手浴・足浴援助の基礎知識	講義
7 ・ 8	洗髪演習	1. 洗髪	演習
9	手浴・足浴演習	1. 手浴・足浴（臥位・座位）	演習
10	部分的な清潔の援助方法②	1. 口腔ケア援助の基礎知識 2. 整容援助の基礎知識と方法 3. 陰部洗浄の基礎知識	講義
11	口腔ケア演習	1. 口腔ケア	演習
12	陰部洗浄演習	1. 陰部洗浄	演習
13 ・ 14	技術チェック	1. 全身清拭と寝衣交換 2. 洗髪 3. 手浴・足浴 4. 陰部洗浄 5. 口腔ケア	演習
15	まとめ・終了試験		試験

評価方法： 1. 筆記試験による知識の確認および授業態度・グループワークへの参加姿勢・授業内で提示された課題の提出状況・演習前後レポートなど（80 点） 2. 技術チェックによる看護技術の習熟度の確認（20 点）
評価基準： 1+2 が 60 点以上で単位修得
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
留意事項： この単元は「一看護実践に共通する基礎的技術③ー」として清潔・衣生活といった人間の基本的欲求を満たすための看護援助について学ぶものである。 これらの知識や技術は講義・演習のみで身につくものではなく、自己研鑽していくことが必要であり、仲間と共同しながら確かな知識・技術を身につけてほしい。
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、平日 9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。

科 目 名：基礎看護学Ⅷ －診療に伴う基礎的技術－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：6 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的：検査や薬物療法などの診療に伴う援助技術を習得する。			
学習目標 1. 検査・薬物療法の意義と看護の役割が理解できる。 2. 検査・薬物療法に伴う対象の身体的・心理的变化が理解できる。 3. 検査・薬物療法における援助技術を実施できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	症状・生体機能管理技術の 基礎知識、看護師の役割	1. 臨床検査の目的 2. 検査の種類 3. 検査を受ける人の身体的 ・心理的影響と看護 4. 検査における看護師の役割 5. 介助の基本	講義
2	診察・検査・処置における 援助技術	1. X 線 2. CT 3. MRI 4. 内視鏡 5. 超音波 6. 胸腔穿刺 7. 腹腔穿刺 8. 腰椎穿刺 9. 骨髄穿刺	講義
3	検体検査の技術 （静脈採血・尿検査）	1. 静脈採血を受ける人の看護 2. 尿検査を受ける人の看護	講義
4 ・ 5	静脈採血・尿検査演習	1. 静脈採血 2. 尿検査	演習
6	与薬の基礎知識 看護師の役割	1. 薬物療法とは 2. 薬物療法の意義・目的 3. 薬物療法に影響する因子 4. 薬物に関する法律 1. 看護者の役割 2. 患者の状態の把握 3. 正確な実施 4. 観察・記録・報告 5. 服薬に関する指導 6. 薬物の管理	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
7	与薬の援助①	1. 経口与薬・口腔内与薬 2. 吸入 3. 点眼 4. 点鼻 5. 経皮的与薬 6. 直腸内与薬	講義
8	与薬の援助②	1. 皮下注射 2. 皮内注射 3. 筋肉内注射	講義
9 ・ 10	皮下注射演習	1. 皮下注射	演習
11	与薬の援助③	1. 静脈内注射 2. 点滴静脈内注射	講義
12 ・ 13	点滴静脈内注射	1. 点滴静脈内注射	演習
14	輸血管理	1. 輸血における基礎知識 2. 輸血の実際と留意点	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 筆記試験による知識の確認および授業態度・グループワークへの参加姿勢・課題の提出状況			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
留意事項： この单元では診療の補助にあたる、針を刺す・薬物を投与する等の人体への侵襲の大きい看護援助を学ぶ。看護師等が行う検査や薬物療法は保健師・助産師・看護師法第5条に規定する診療の補助行為の範疇であり、看護師は正しい知識を持ち、確実な技術の習得が必要不可欠である。 仲間と共同しながら、検査・薬物療法における看護師の役割や対象の安全・安楽を守るために必要な知識、技術、態度身につけてほしい。			
学習サポートの方法 学習内容に関する質問等があれば、平日 9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

科 目 名：基礎看護学Ⅸ －看護実践における基礎的技術の統合－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：9 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： これまでの基礎看護学で学んだ知識・技術を基に臨床判断能力を養い、対象の状況に応じた援助技術を習得する。			
学習目標 1．科学的根拠に基づいた症状・徴候緩和のための看護技術を実施できる。 2．身体的状況や生活環境をアセスメントし、危険を予測できる。 3．生命の危機状態にある対象への必要な援助について基礎的知識を理解する。 4．安全を確保するための看護技術を実施できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	呼吸・循環を整える技術	1．酸素療法の基礎知識 2．酸素療法の際の注意点 3．排痰ケアの基礎知識 4．吸引の基礎知識 5．口腔・鼻腔内吸引 6．気管内（開放式・閉鎖式）吸引	講義
2	酸素療法・吸引演習	1．酸素療法の実際 2．吸引（口腔内・鼻腔内）の実際	演習
3	創傷管理の基礎知識 創傷処置の方法 褥瘡予防の知識	1．創傷の意義 2．創傷管理に必要な環境 1．縫合創とドレーン創 2．創洗浄と創の保護 （ドレッシング材） 3．テープによる皮膚障害 4．包帯法 1．褥瘡発生に関する基礎知識 2．体圧分散ケア	講義
4	創傷処置演習	1．創の洗浄と保護 2．包帯法	演習
5	転倒転落予防 誤認・誤薬の防止	1．入院環境からみた転倒転落リスク 2．起立性低血圧の発生リスクと 予防の援助 1．誤薬防止の基礎知識 2．チューブ類の事故防止	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
5	事例発表・個人ワーク	1. 事例に対して必要な援助を検討する	講義 個人ワーク
6	グループワーク	1. 事例に対して必要な援助をグループで検討する	GW
7	演習	1. ロールプレイの実施	演習
	終了試験		試験
評価方法： 1. 筆記試験による知識の確認（80 点） 2. 授業態度・グループワークへの参加姿勢・課題の提出状況（20 点）			
評価基準： 1+2 が 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる フィジカルアセスメント メディックメディア			
留意事項： この単元はこれまでに基礎看護学で学んできた知識・技術を統合していくものである。そのため、これまで身につけた知識・技術を基に学習が進むため、既習内容をしっかりと復習をして臨んでほしい。臨床の現場には様々な状況におかれた対象がおり、その状況に合わせた看護をチームで共同しながら看護を実践して必要がある。この単元でも、仲間と共同しながら確かな知識・技術を身につけてほしい。			
学習サポートの方法 学習内容に関する質問等があれば、平日 9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

地 域 ・ 在 宅 看 護 論

単 位 8単位（240 時間）

学習目的 地域で生活する人の特徴・多様化する生活の場を理解し、看護師の役割を学ぶとともに、地域包括ケアシステムの理念を理解し、マネジメント・多職種連携の重要性を学び、疾病や障害を持ちながら多様な生活の場で療養する人々とその家族の自己実現へ向けての看護を学ぶ。

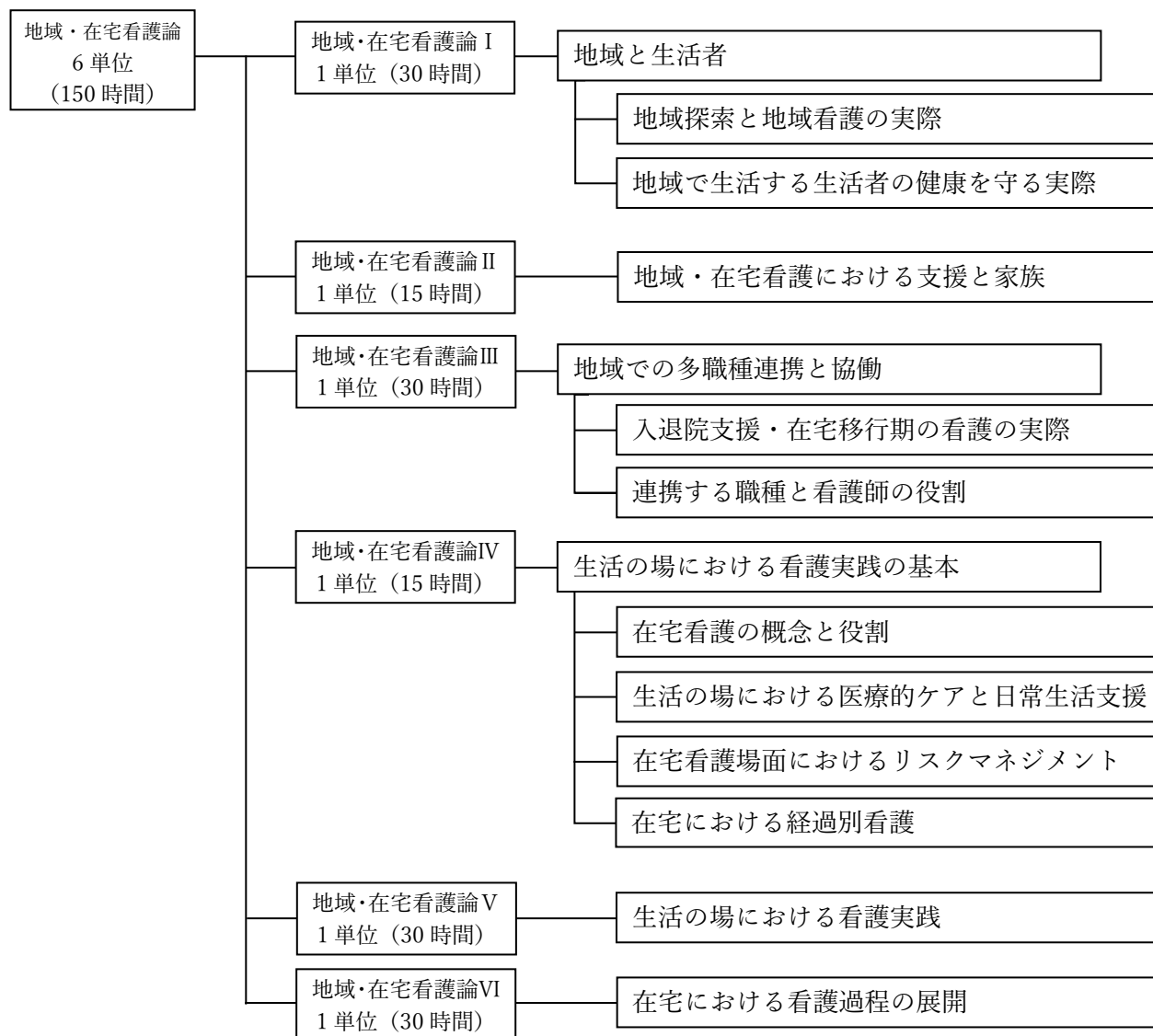
学習目標

1. 地域で生活する人々の特徴・生活の場について理解する。
2. 地域で生活する人々の保健・医療・福祉を支える地域包括ケアシステムについて理解する。
3. 生活の場における療養者とその家族の生活を実現させるための多職種連携の重要性と他職種の役割と機能について理解する。
4. その人らしく生活するための様々なサポートについて理解する。
5. その人らしく生活するためのケアマネジメント・リスクマネジメントについて理解する。
6. 生活の場における療養者とその家族の生活を実現させるための看護師の役割と機能について理解する。

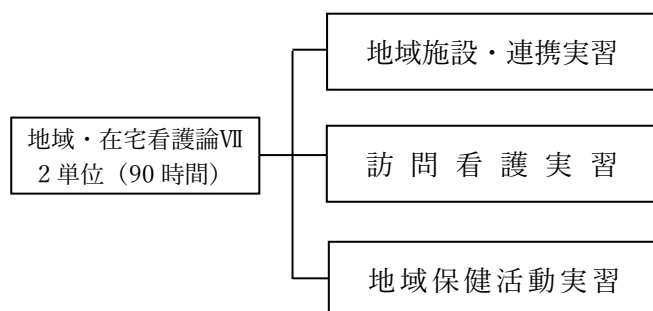
地域・在宅看護論の構成

地域・在宅看護論のカリキュラムを以下のように大きく「講義」と「実習」に分け、各単位と単位数概要を以下に示す。

【講義】



【実習】



科 目 名：地域・在宅看護論 I 地域と生活者		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：5 月	
担当講師：専任教員			
学習目的：地域で生活する人々を理解する。			
学習目標： 1. 地域で生活する人々がその人らしく生活することの意味を理解する。 2. 地域を1つのまとまりとして看護する必要性について理解する。 3. 地域看護が必要とされた背景と施策を知る。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	地域とは何か 生活者とは何か	1. 地域の特性 2. 地域で生活する人	講義
2	地域で生活する人の特徴	1. 地域住民の構成 2. 地域の課題 3. 地域アセスメント（初級）	講義
3	生活するとは何か	1. 生活を自分の視点から考える 2. 私の生活スキル度 3. 生活する人の多様性を考える	講義
4	地域を知る準備	1. 担当する地域の場を知る	グループで 調べ学習
5	地域を知る準備		
6	地域を知る①	地域の側面を知る探索活動 ・多様な生活者の視点で地域を 探索する ・看護学生としての視点も含める	課題ごとに 探索活動
7	地域を知る②		
8	地域を知る③		
9	地域を知る④		
10	地域を知る活動のまとめ	多様な生活者の生活の場と暮らしを 探索活動の結果から理解する	GW 発表
11	地域を知る活動の発表		
12			
13	地域包括ケアシステムと看護	1. 地域医療構想と医療制度の経緯 2. 病院完結型看護から地域完結型 看護への転換 3. 地域包括ケアシステムの概要と 看護職	講義
14	生活者の健康を守るとは	1. 暮らしと健康 2. 生活者の権利擁護 3. 生活者の自立支援	講義
15	まとめ・終了試験		試験

評価方法： 100 点満点評価 終了試験、グループ活動の内容と参加態度
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院
留意事項： 以下について考えながら自己の考えを発展させる、グループメンバーや協働する人、地域を知る活動で関わる人の意見を取り入れ、看護の対象者を理解できるように一人一人が取り組んでほしい。 ① 看護学概論Ⅰで学習する内容を授業に参加する前提とする。 ② それぞれが生活者であることを再認識するために、自身の生活に向き合い、考えや視点を広げる努力をする。 ③ 生活者、看護を学ぶものとして新たな視点で地域を見る。 ④ その人らしさを都度考えること。
学習サポートの方法： ① 講義に関しては 9：00～17：30 の間に担当する教員を訪ねること。 ② 地域活動については、教員の事前許可を受けて活動すること。 ③ 基本的に mail での対応は予定していないが、対応を認めることも検討するため、事前確認を必ず行う。

科目名：地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護における支援と家族		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：6 月	
担当講師：専任教員			
学習目的： 地域・在宅看護における家族を理解し、地域・在宅看護に必要なサポートシステムの必要性を理解する。			
学習目標： 1. 地域・在宅における家族を理解する。 2. インフォーマル・フォーマルサポートについて理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	家族看護	1. 家族の定義、機能 2. 家族発達論 3. 家族システム論 4. 家族看護	講義
2	地域・在宅看護と家族①	1. 事例を用いて家族を理解する （アセスメントと看護）	GW
3	地域・在宅看護と家族②		GW／発表
4	療養者・家族のサポート体制	1. インフォーマルサポート 2. フォーマルサポート	講義
5	フォーマルサポートー医療保険と介護保険ー	1. 医療保険の仕組み 2. 介護保険の仕組み 3. 医療保険・介護保険と訪問看護	講義
6	フォーマルサポートー看護・福祉サービスー	1. 介護保険のサービス体系 2. 医療保険のサービス体系 3. 障害者総合支援法に基づくサービス体系	講義
7	ケアマネジメント	1. 事例を用いて必要なサービスを検討する（ケアプランの立案）	GW
	まとめ・終了試験		試験
評価方法：100 点満点評価 終了試験、グループワークの内容と参加態度			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院			

留意事項：

以下について考えながら自己の考えを発展させ、グループメンバーや他のグループの意見を取り入れ、地域・在宅看護の対象者を理解できるように一人一人が取り組む。

- ① 地域・在宅看護論Ⅰで学習した地域と生活者の視点を授業の際に想起しながら常に考える。
- ② それぞれが生活者であることを再確認すると同時に、多様な家族のあり方を受け入れる。
- ③ 療養者を取り巻く、家族やそれに類する存在とその在り方の多様性を考える。
- ④ 地域・在宅看護論Ⅳの学習内容を踏まえ、生活を支えるサポートシステムについて考える。

学習サポートの方法：

- ① 講義に関しては9：00～17：30の間に担当する教員を訪ねること。
- ② 基本的にmailでの対応は予定していないが、対応を認めることも検討するため、事前確認を必ず行う。

科 目 名：地域・在宅看護論Ⅲ 地域での多職種連携と協働		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：9 月下旬	
担当講師：専 任 教 員 非常勤講師			
学習目的： その人らしい生活を叶えるための多職種連携と協働について理解し、対象者の生活の調整について理解する。			
学習目標： 1. その人らしい生活を支えるマネジメントの必要性について理解する。 2. 入退院支援と多職種連携と協働について理解する。 3. 地域・在宅移行時のマネジメントと連携と協働について理解する。 4. 問題解決型システムと ICF の考え方からその人らしい生活を調整する視点を理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	その人らしい生活を支援する マネジメント	1. ストレングスモデル 2. ICF の考え方	講義
2	地域包括ケアシステム	1. 地域包括ケアシステムの概要 (ア)定義 (イ)背景 (ウ)機能 2. 自助・互助・共助・互助 3. 地域共生社会	講義
3	入退院支援の実際①	1. 入退院支援の目的 2. 入退院支援に関する加算とその流れ 3. 入退院支援での連携する職種とその 内容（同職種・他職種）	講義
4	入退院支援の実際②	1. 入退院支援の実際 ※入退院支援に関する診療報酬と ともに看護師の実践を知る）	講義 (外部講師)
5	連携する職種と看護の役割	ソーシャルワーカー	講義 (外部講師)
6	入退院支援の実際③	1. 入退院支援の実際を事例検討 ※看護師とソーシャルワーカーと の協働での入退院支援システムの 活用	GW

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
7	在宅移行期の看護の実際①	1. 在宅移行の各期について 2. 在宅療養準備期の看護 3. 在宅療養移行期の看護 4. 連携する職種とその内容 (ア) ケアマネージャー (イ) かかりつけ医 (在宅診療医) (ウ) 訪問看護師	講義
8	連携する職種と看護の役割②	かかりつけ医 (在宅診療医)	講義 (外部講師)
9	連携する職種と看護の役割③	ケアマネージャー	講義 (外部講師)
10	在宅移行期の看護の実際②	1. 在宅移行期の実際を事例検討 ※各職種の役割・看護師が期待されている役割を踏まえ検討する	GW
11	療養者を取り巻く地域マネジメント	1. 地域看護の定義 2. 在宅看護と公衆衛生看護 3. 地域保健法と保健所の機能 4. 地域ケア会議とサービス担当者会議	講義
12	療養者を取り巻く地域マネジメント	1. 地域包括ケアマップの作成と発表	GW
13	事例を用いた在宅移行後の生活調整	1. 事例の療養者と家族のニーズと生活状況を分析し、12回目で作成した地域包括ケアマップをもとに必要な連携を検討する	講義／GW
14			
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法：100点満点評価 終了試験、グループ活動の内容と参加態度、提出物			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院			
留意事項： 様々な専門家の機能と役割を理解しながら、地域・在宅で生活する人の生活を支えるために看護は何を求められているか、看護は何ができるのかを常に考えてほしい。 ① 地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ・Ⅳで学習した内容とつなげながら学習する。 ② 地域・在宅での他職種の役割と多職種連携について考える。			

学習サポートの方法：

- ① 講義に関しては 9 : 00～17 : 30 の間に担当する教員を訪ねること。
- ② 基本的に mail での対応は予定していないが、対応を認めることも検討するため、事前確認を必ず行う。

科 目 名：地域・在宅看護論Ⅳ 生活の場における看護実践の基本		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：5 月	
担当講師：専 任 教 員 非常勤講師			
学習目的： 生活の場における看護師の役割と機能について理解する。			
学習目標： 1. 在宅看護についての役割が理解できる。 2. 生活の場におけるリスクマネジメントについて理解する。 3. 生活の場に入る看護師の姿勢を理解する。 4. 多様な生活の場での看護実践について理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	地域・在宅看護の概念	1. 地域・在宅看護の定義 2. 在宅看護の定義 3. 在宅看護の役割と姿勢 4. 在宅看護の法的責任	講義
2	訪問看護の実際	訪問看護場面の具体的内容	講義 (外部講師)
3	訪問看護制度	1. 訪問看護制度の歩み 2. 訪問看護の対象者の特徴 3. 訪問看護ステーションに関する規定 4. 訪問看護利用までの手順 5. 訪問看護サービスの提供	講義
4	訪問看護における リスクマネジメントと災害対策	1. 暮らしの場におけるリスクマネジメント 転倒・誤嚥・窒息・熱傷 熱中症・感染・褥瘡 医療機器・虐待 2. 暮らしの場における災害対策	講義 (外部講師)
5	在宅における経過別看護	1. 在宅療養安定期の看護 2. 急性憎悪期の看護	講義
6	在宅における経過別看護	終末期の看護	講義
7	在宅における経過別看護	在宅における経過別看護の事例	講義／GW
	終了試験		試験

評価方法：100 点満点評価 終了試験
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院
留意事項： 生活の場における看護の基盤となる考え方を身に着け以後の学習につなげてほしい。
学習サポートの方法： ① 講義に関しては 9:00～17:30 の間で担当する教員を訪ねること。 ② 基本的に mail での対応は予定していないが、対応を認めることも検討するため、事前確認を必ず行う。

科 目 名：地域・在宅看護論Ⅴ 生活の場における看護実践		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：9 月	
担当講師：専 任 教 員 非常勤講師			
学習目的： 対象のライフサイクルやライフスタイル、ニーズを捉え、慢性期から終末期までを視野に入れた日常生活支援の方法を理解する。			
学習目標： 1. 在宅看護における基本的な日常生活支援の方法を考え、実施する。 2. 在宅療養者と家族のライフスタイル、ニーズを考慮した日常生活支援を理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	生活の場の環境について	1. 入院環境と生活環境の違い 2. 環境の定義と生活への影響 3. ADLとIADL 4. 環境に関する情報収集 5. 環境の評価 6. 療養者・家族の環境調整	講義
2	生活の場での食事の管理	1. 摂食機能の評価 2. 食事・栄養に関する情報収集 3. 食事・栄養に関する評価 4. 療養者・家族への食事に関する看護（胃ろう、在宅中心静脈栄養法）	講義
3	食事の管理（胃ろうの管理を含む）	1. 食事を評価するための観察点 2. 療養者に適した食事管理の基本的な方法 （ア）食事環境 （イ）食形態 （ウ）胃ろうの管理 （エ）在宅中心静脈栄養の管理 3. 2. の内容を含めた手順書の作成と実施	GW／演習
4			
5	生活の場での清潔・更衣の援助と褥瘡の管理	1. 清潔に関する情報収集 2. 清潔・更衣に関する評価 3. 療養者・家族への清潔・更衣に関する看護 4. 褥瘡の発生机序、予防策、処置方法	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
6	清潔・更衣（おむつ交換を含む）の援助と褥瘡の処置	1. 療養者に適した方法を検討するための観察点、実施中の観察点 2. 療養者に適した清潔・更衣の基本的な援助方法 （ア）入浴・更衣の一連の方法 （イ）褥瘡の処置の方法とおむつ交換、陰部洗浄 3. 2. の内容を踏まえた手順書の作成と実施	GW／演習
7			
8	生活の場での移乗・移動・体位保持の援助	1. 移動能力に関する身体機能や現在の移動・移乗方法の情報収集 2. 移動能力に関する身体機能の評価 3. 現在の移動・移乗方法の評価 4. 療養者・家族への移動・移乗・体位保持に関する看護（リフト、各種福祉用具、マットレスの選択） 5. ノーリフトについて	講義
9	移乗・移動・体位保持の援助	1. 移動能力に関する身体機能の評価をするための観察点 2. 療養者の動作の観察点 3. 療養者に適した移乗・移動・体位保持の基本的な方法 （ア）ベッドから車いすへの移乗方法 （イ）車いすからベッドへの移乗方法 （ウ）リクライニング車いすの使用 方法 （エ）天井走行リフトの使用 方法 4. 3. の内容を含めた手順書の作成と実施	GW／演習
10	生活の場での在宅酸素療法と機器の管理	1. 在宅酸素療法について（導入から実施までの流れ） 2. 非侵襲性人工呼吸器の説明と演習 3. 在宅酸素（酸素ボンベ）の説明と演習 4. 在宅酸素（酸素濃縮器）の説明と演習	講義／演習（外部講師）

回数	講義題目	内 容	方 法
11	生活の場における治療に応じた看護	1. 在宅酸素療法（NPPV・TPPV・在宅酸素装置）をしながら療養生活と看護 2. 生活の場における服薬管理 3. 化学療法を受けながらの療養生活と看護	GW
12	生活の場における支援と調整	1. 療養者・家族のニーズに合わせた生活環境の整備・支援の実施の実際	講義 (外部講師)
13	事例を用いた日常生活支援	1. 事例の療養者・家族のニーズを分析し、療養者・家族に適した日常生活行動の援助方法を検討	演習／GW
14			
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法：①・② 30点＋③ 70点 ① グループワーク・演習の参加態度 ② 記録物の提出状況・記載内容 ③ 終了試験			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院			
留意事項： ① 1年生に履修した基礎看護技術や他の領域で学習した医療処置を想起させながら、生活の場で実施するための方法を検討する科目となるため、既習科目に関して事前に復習をして講義・演習に臨むこと。 ② 地域・在宅看護Ⅱ・Ⅳで学習した内容とタイアップしているため、学習した内容が手順や振り返り・課題に活かされていること。			
学習サポートの方法： ① 演習事例・記録について：9:00～17:30の間で科目担当者を訪ねること ② 演習の練習について：科目担当者に練習したい日時を伝え確認すること ※ 基本 mail での質疑応答はしないが、状況に応じて対応可能なため、要相談			

科 目 名：地域・在宅看護論Ⅵ 在宅における看護過程の展開		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：3 学年		開講時期：4 月	
担当講師：専任教員			
学習目的： 対象者の生活の場、ライフスタイル、ライフステージを考慮し、疾患の経過別看護と在宅看護を統合させ、対象者のニーズに適した看護過程を展開する。			
学習目標： 1．療養者と家族について必要な情報を意図的かつ系統的に収集する。 2．家族の介護上の問題や困難性を理解し、家族を単位とした援助であることを理解する。 3．収集した情報を基に療養者と家族を統合的に捉え看護の方向性を導き出せる。 4．看護の方向性から看護計画を立案する。 5．社会資源の活用状況を理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	在宅看護における看護過程	1．在宅看護による看護過程の基本 2．訪問時の情報収集とアセスメントの視点 3．目標設定と評価の視点 4．事例展開の流れ ※老年、小児、精神領域より 1 事例を担当し、看護展開をする。	講義
2	看護過程の展開	1．情報整理	GW
3	看護過程の展開	1．模擬訪問準備・模擬訪問 2．情報整理とアセスメント	GW 訪問演習
4			
5	看護過程の展開	1．情報整理とアセスメント 2．訪問時の情報収集・アセスメント・目標設定・評価の視点	GW 講義
6			
7	看護過程の展開	1．看護の方向性	GW
8	看護過程の展開	1．模擬訪問準備・模擬訪問 2．アセスメントと看護の方向性	GW 訪問演習
9			
10	看護過程の展開	1. 看護の方向性・目標設定についての再確認 2．発表準備	講義 GW
11			
12	方向性の発表	ポスターセッション	発表
13			

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
14	療養生活の実際	1. 療養生活の状況 2. 療養者から看護に求めること	外部講師 講義
15	まとめ	講義内小テスト実施 記録物の提出	講義
評価方法：100 点満点評価 ① グループワークの参加度・貢献度 ② 記録物の提出状況と記載内容 ③ 講義内小テスト			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院			
留意事項： これまで履修した地域・在宅看護論の講義内容を履修前必ず見直しておくこと。科目履修に際し、春休みの課題を掲示するため、期間内で提出すること。その課題を活用しながら看護過程を進める。 1 春休み中に各事例に関する学習に取り組み、アセスメントやグループワークに活用すること。 2 必要時、追加学習をし、ファイルに挟みアセスメント等に活用すること。 ※特に疾患に関する学習、社会資源（フォーマルサービス、他職種の役割など）の学習 3 在宅看護過程展開の進め方として、情報収集・アセスメントを重要視している。 具体的には、模擬訪問をし、情報収集していくため、2 年次に既習済みの訪問マナーなどの技術も必要となる。既習知識を生かしながら授業を進めてもらいたい。 4 他分野の資料・文献を活用してもらいたい。			
学習サポートの方法： ① 看護展開に関して：9:00～17:30 の間で科目担当者を訪ねること。 ※ 基本 mail での質疑応答はしないが、状況に応じて対応可能なため、要相談。			

成人看護学

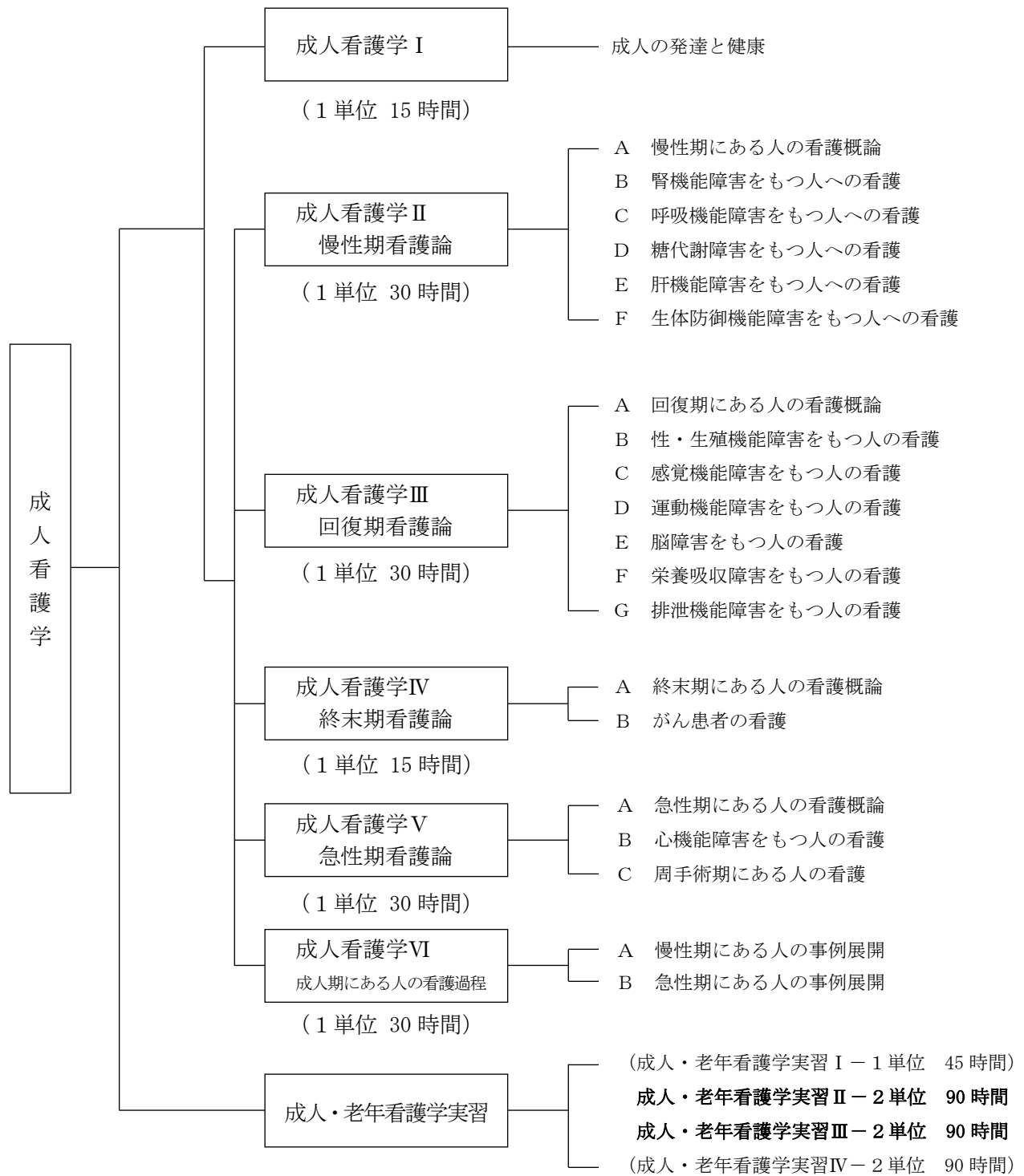
単 位 10 単位 (330 時間)

学習目的 人生の活動期にある成人期の人々を総合的に理解し、対象とその家族に対して健康の保持・促進および健康障害時の看護を実践する能力を養う。

学習目標

1. 成人期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴および発達段階をふまえて、対象を捉える能力を身につける。
2. 成人期にある対象の様々な健康の段階を理解し、それぞれの対象の健康に影響を与える諸因子を理解できる。
3. 成人期にある人の健康上の問題を科学的根拠に基づいて判断し、実践するために必要な知識、技術、態度を身につける。
4. 保健医療福祉チームの一員としての役割、責任を自覚するとともに、人間としての自己成長を大切にできる。

成人看護学の構造図



科 目 名：成人看護学Ⅰ (成人の発達と健康)		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期（6 月～）	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 成人看護学の対象である成人期にある人の生活と健康を理解し、看護の役割を学ぶ。			
学習目標： 1．成人期にある人の身体的精神的社会的特徴および発達課題について理解できる。 2．成人期にある人の生活環境を理解できる。 3．成人期にある人の健康の動向、成人期の特徴や生活環境と関連させて、健康課題を理解できる。 4．成人期にある人の健康を増進するための対策が理解できる。 5．成人看護学の対象者のとらえ方を理解し、看護の役割が理解できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1 2 3	成人期の特徴 成人期にある人の生活環境	1．ライフサイクルの中の成人各期の身体、精神、社会的特徴・発達課題 2．家族・学校・職場・地域・個人の生活環境と生活スタイル 3．生活が健康に与える影響・健康障害が生活に与える影響	講義
4 5 6	成人期にある人の健康と課題	1．健康とは 2．成人期の健康課題 1) 保健の動向と疾病概況 人口構成・平均寿命と健康寿命 有病率・受療率・有訴者率 死亡の動向 2) 生活習慣がもたらす健康課題と予防 3) 労働に関する健康課題 4) ストレスに関する健康課題 5) 更年期に関する健康課題 6) セクシュアリティに関する健康障害 7) 健康増進	講義
7	成人看護学の対象のとらえ方	1．健康レベル 2．看護の役割	講義
	終了試験		試験

評価方法： 終了試験・提出物・授業への参加状況 100 点
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト： 1. 系統看護学講座 成人看護学（1）成人看護学総論；医学書院 2. 国民衛生の動向；財団法人厚生統計協会 参考文献： 1. シリーズ生活を支える看護 日本人の生活と看護：坂田三允；中央法規出版会 2. 生涯人間発達論－人間への深い理解と愛情を育むために：服部祥子；医学書院 3. 健康行動理論の基礎－生活習慣病を中心に：松本千明；医歯薬出版株式会社 4. 健康行動理論 実践編－生活習慣病の予防と治療のために：松本千明；医歯薬出版株式会社 5. ライフスタイル療法－生活習慣改善のための行動療法 第2版： 足立淑子；医歯薬出版株式会社
留意事項： 成人看護学Ⅰで学習する内容は、成人期にある対象を理解するうえでの基本的な知識となります。積極的に学習に臨みましょう。
学習サポートの方法： 学習内容に対する質問は、直接担当教員に尋ねてください。

科 目 名：成人看護学Ⅱ (慢性期看護論)		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 年次		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 慢性期にある成人の身体・心理・社会的特徴を理解し、対象が生活調整を行うための看護援助の基本を学ぶ。			
学習目標： 1. 慢性期にある人の身体・心理・社会的特徴を理解する。 2. 慢性期にある人の生活調整のために必要な理論について理解する。 3. 慢性期にある人の心身の特徴を呼吸機能・内部環境調節機能・栄養代謝機能・生体防御機能に障害をもつ人の看護を通して理解する。 4. 慢性期にある人の主要症状の病気メカニズムと生活への影響について理解する。 5. 慢性期にある人の検査、治療、処置について理解する。 6. 慢性期にある人の生活調整のためのアセスメントと看護援助が理解できる。 7. 慢性期にある人やその家族への心理的・社会的支援について社会資源の活用を含め理解できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1 2	(Ⅱ－A) 慢性期にある人の看護概論	1. 慢性期にある人の心身の特徴 2. 慢性期にある人の家族の理解 3. 生活調整と看護の役割 4. 疾病の受容過程と看護援助 5. 生活調整を促すために必要な理論	講義
3 4	(Ⅱ－B) 腎機能障害をもつ人の看護	1. 腎機能障害をもつ人の身体・心理・社会的特徴 2. 腎機能障害のメカニズムと生活への影響 3. 腎機能障害に必要な検査と治療 4. 腎機能障害をもつ人への看護援助 5. 透析療法を受ける患者の看護	講義
5 6	(Ⅱ－C) 呼吸機能障害をもつ人の看護	1. 呼吸機能障害を持つ人の身体・心理・社会的特徴 2. 呼吸機能障害のメカニズムと生活への影響 3. 呼吸機能障害に必要な検査・治療 4. 呼吸障害をもつ人への看護	講義
7		排痰法、呼吸訓練、酸素療法演習	演習

回数	講義題目	内 容	方 法
8 9	(Ⅱ－D) 糖代謝障害をもつ人への看護	1. 糖代謝障害をもつ人の身体・心理・社会的特徴 2. 糖代謝障害のメカニズムと生活への影響 3. 糖代謝障害に関連した検査・治療 4. 糖代謝障害をもつ人への看護援助	講義
10		血糖測定演習	演習
11 12	(Ⅱ－E) 肝機能障害をもつ人の看護	1. 肝機能障害をもつ人の身体・心理・社会的特徴 2. 肝機能障害のメカニズムと生活への影響 3. 肝機能障害に必要な検査・治療 4. 肝機能障害をもつ人への看護援助	講義
13	(Ⅱ－F) 生体防御機能障害をもつ人の看護	1. 生体防御機能障害をもつ人の身体・心理・社会的特徴 2. 膠原病をもつ人の看護援助	講義
14		1. 免疫機能障害をもつ人の身体・心理・社会的特徴 2. HIV / AIDS 感染症をもつ人の看護援助	講義
15	まとめ・終了試験		筆記試験
評価方法： 終了試験・提出物・授業への参加状況 100 点			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： A) 1. 系統看護学講座 成人看護学 (1) 成人看護学総論；医学書院 2. 臨床看護学叢書経過別看護；川島みどり；メヂカルフレンド社 B) 系統看護学講座 成人看護学 (8) 腎・泌尿器；医学書院 C) 系統看護学講座 成人看護学 (2) 呼吸器；医学書院 D) 1. 系統看護学講座 成人看護学 (6) 内分泌・代謝；医学書院 2. 本糖尿病学会編 糖尿病食事療法のための食品交換表；日本糖尿病協会 E) 1. 系統看護学講座 成人看護学 (5) 消化器；医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学 (4) 血液造血器；医学書院 F) 系統看護学講座 成人看護学 (11) アレルギー・膠原病・感染症；医学書院			

参考文献：

1. 生活調整を必要とする人の看護Ⅰ：奥宮暁子編集；中央法規
2. 生活調整を必要とする人の看護Ⅱ：奥宮暁子編集；中央法規

留意事項：

1. 成人看護学Ⅱは人体の構造と機能、疾病、検査、薬理作用など今までの学習が基盤となります。関連した科目の事前学習を行い講義に臨みましょう。
2. 演習については事前に要領を配付します。

学習サポートの方法：

学習内容に対する質問は、直接担当教員に尋ねてください。

科 目 名：成人看護学Ⅲ (回復期看護論)		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 年次		開講時期：前期	
担当講師：専 任 教 員（看護実務経験有）			
学習目的： 回復期にある成人の身体・心理・社会的特徴を理解し、生活を再構築するための看護援助の 基本を学ぶ。			
学習目標： 1. 対象の持つ障害と能力をアセスメントするために必要な知識と技術を理解できる。 2. 障害の回復過程で起こる身体・心理・社会的な問題の広がりや家族への影響を理解する。 3. 自己概念の混乱をきたす要因と心理過程を理解し自己価値を支える看護について理解する。 4. 回復期にある人の心身の特徴を脳・運動・感覚機能・性・生殖機能・栄養吸収機能 ・排泄機能障害をもつ人、ボディイメージの変化に適応していく人を通して理解する。 5. 回復期にある人の主要症状・障害のメカニズムと生活への影響について理解する。 6. 回復期にある人の検査・治療について理解する。 7. 回復期にある人が生活の再構築をするためのアセスメント、看護援助が理解できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1 2	(Ⅲ－A) 回復期にある人の看護概論	1. 回復期にある成人とその家族の理解 2. 生活の再構築と障害受容プロセス の看護 3. ボディイメージの障害と自己概念 4. 回復に向けての看護	講義
3 4	(Ⅲ－B) 性・生殖機能障害をもつ人の看護	1. 性・生殖機能障害をもつ人の身体 ・心理・社会的特徴 2. 乳がんをもつ人の看護 1) 治療と看護 2) 障害に伴う生活調整と指導 3. 子宮がんをもつ人の看護 1) 治療と看護 2) 障害に伴う生活調整と指導 4. 前立腺がんをもつ人の看護 1) 治療と看護 2) 障害に伴う生活調整と指導	講義
5 6	(Ⅲ－C) 感覚機能障害をもつ人の看護	1. 感覚機能障害を持つ人の身体的・ 心理的・社会的特徴 2. 障害のメカニズムと生活への影響 1) 視力障害をもつ人の看護 2) 聴力障害をもつ人の看護	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
7	(Ⅲ－D) 運動機能障害をもつ人の看護	1. 運動機能障害をもつ人の身体 ・心理・社会的特徴 2. 障害のメカニズムと生活への影響	講義
8 9 10	(Ⅲ－E) 脳機能障害を持つ人の看護	1. 脳機能障害をもつ人の身体・心理 ・社会的特徴 2. 障害のメカニズムと生活への影響 1) 意識障害がある人の看護 2) 高次脳機能障害がある人の看護	講義
11 12	(Ⅲ－F) 栄養吸収障害をもつ人の看護	1. 栄養吸収障害をもつ人の身体 ・心理・社会的特徴 2. 胃切除術を受ける患者の看護 1) 治療と看護 2) 障害に伴う生活調整と指導	講義
13 14	(Ⅲ－G) 排泄機能障害をもつ人の看護	1. 排泄機能障害をもつ人の身体 ・心理・社会的特徴 2. 人工肛門造設術を受ける患者の看護 1) 治療と看護 2) 障害に伴う生活調整と指導	講義 講義内演習
15	まとめ・終了試験		筆記試験
評価方法： 終了試験・提出物・授業への参加状況 100 点			
評価基準： 60 点以上で単位習得			
テキスト・参考文献： A) 1. 系統看護学講座 成人看護学 (1) 成人看護総論；医学書院 2. 臨床看護学叢書 経過別看護：監修) 川島みどり、菱沼典子；メヂカルフレンド社 B) 1. 系統別看護学講座 成人看護学 (9) 女性生殖器；医学書院 2. 系統別看護学講座 成人看護学 (8) 腎・泌尿器；医学書院 C) 1. 系統別看護学講座 成人看護学 (13) 眼；医学書院 2. 系統別看護学講座 成人看護学 (14) 耳鼻咽喉；医学書院 D) 系統別看護学講座 成人看護学 (10) 運動器；医学書院 E) 1. 系統別看護学講座 成人看護学 (7) 脳神経；医学書院 2. 系統別看護学講座 別巻臨床外科看護各論；医学書院 F・G) 1. 系統別看護学講座 成人看護学 (5) 消化器；医学書院 2. 系統別看護学講座 別巻臨床外科看護各論；医学書院			

参考文献：

1. ナーシング・グラフィカ（24）成人看護学 セルフケアの再獲得；メディカ出版
2. 脳血管障害による 高次機能障害 ナーシングガイド：小山珠美；日総研
3. 生活の再構築を必要とする人の看護Ⅰ：奥宮暁子編集；中央法規
4. 生活の再構築を必要とする人の看護Ⅱ：奥宮暁子編集；中央法規

留意事項：

1. 成人看護学Ⅲは看護を学ぶ上で既習学習である解剖生理・疾病論の知識が必要不可欠です。
講義前に人体の構造と機能、病態・疾患・治療の事前学習をして講義に臨んでください。
2. 講義だけでなく講義内グループワーク・演習も行います。看護を理解し、実践を想定した学習を修得するには互いの活発なグループワークが重要となります。積極的な姿勢で取り組んでください。

学習サポートの方法：

学習内容に対する質問は、直接担当教員に尋ねてください。

科 目 名：成人看護学Ⅳ (終末期看護論)		履修単位 1 単位	講義時間 (回数) 15 時間 (7 回)
履修学年：2 年次		開講時期：後期	
担当講師：専 任 教 員 (看護実務経験有) 非常勤講師 (看護実務経験有)			
学習目的： 終末期にある成人の身体・心理・社会的特徴を理解し、人生の終焉をよりよくいきるための看護援助を学ぶ。			
学習目標： 1. 終末期にある人とその家族の特徴、緩和ケアの定義、QOL の意味を理解する。 2. がんの特徴とがん看護の特殊性を知り、がん治療時の看護、全人的な痛みと緩和ケアを理解する。 3. よりよい生と死を支えるための QOL を高める看護、平安な死の看取りを理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	(Ⅳ－A) 終末期にある人の看護概論	1. 終末期にある人とその家族の理解 1) 緩和ケアの定義と QOL の理解 2) 全人的苦痛 3) 死の受容過程	講義
2	(Ⅳ－B) がん患者の看護	1. がんの治療と看護 1) がんの疫学・発がん機序 2) がんによる心身・生活への影響 3) がん看護の特徴と看護の役割 2. 化学療法と看護 1) 化学療法の適応と特徴 2) 化学療法の副作用と看護 3. 放射線治療と看護 1) 放射線治療の適応と特徴 2) 放射線治療の副作用と看護	講義
3 4 5 6		1. 全人的苦痛と緩和ケアの理解 1) 身体的苦痛 2) がんによる身体症状とマネジメント 3) WHO 方式がん疼痛治療法 4) 精神的苦痛 5) 社会的苦痛 6) 霊的苦痛 7) 代替療法 8) 臨死期の看護 2. 家族の看護	講義
7	(Ⅳ－A) 終末期にある人の看護概論	2. ホスピス・緩和ケアの実際	講義
	終了試験		筆記試験

評価方法： 終了試験・出席状況・提出物 100 点
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト： A) 1. 系統看護学講座別巻 緩和ケア；医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学（1）成人看護学総論；医学書院 3. 臨床看護学叢書経過別看護：川島みどり；メヂカルフレンド社 B) 系統看護学講座別巻 がん看護学；医学書院 参考文献： 講義開始時に提示する
留意事項： 成人看護学は人体の構造と機能・疾病・検査・薬理作用など今までの学習が基盤となります。 関連した科目の事前学習を行い講義に臨みましょう。
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問は、直接担当教員に尋ねてください。

科 目 名：成人看護学Ⅴ (急性期看護論)		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（14 回）
履修学年：2 年次		開講時期：前期（6 月～）	
担当講師：専 任 教 員（看護実務経験有） 非常勤講師（看護実務経験有）			
学習目的： 急性期にある成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、生体機能の安定・回復にむけた看護援助の基本を学ぶ。			
学習目標： 1．急性期にある人の心理的・身体的反応と家族への影響を理解する。 2．クリティカルケアを要する人の状況や病態を理解し、生命維持に必要な基本的な治療、処置について理解する。 3．急性期にある人の心身の特徴を手術療法、急性疾患の発症を通して理解する。 4．急性期にある人に必要な検査、治療、処置について理解する。 5．急性期にある人に必要な検査、治療、処置に伴う看護について理解する。 6．急性期にある人やその家族へ身体・心理的な支援のために必要な看護の役割や援助について理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1 2	(Ⅴ－A) 急性期にある人の看護概論	1．急性期にある人の身体的・心理的・社会的特徴 2．急性期にある人の家族の理解 3．生命の危機的状況から回復を促す援助 4．回復を促すために必要な理論	講義
3 4 5	(Ⅴ－B) 心機能障害をもつ人の看護	1．急性の心機能障害をおこした人の身体・心理・社会的特徴 2．急性の心機能障害をおこした人の急性期～回復期の看護 3．心機能障害に関する基礎知識 病気・検査・治療 4．ペースメーカー挿入時の看護 5．心電図モニターを装着している人の看護	講義 講義内演習
6 7 8 9 10 11	(Ⅴ－C) 周手術期にある人の看護	1．周手術期看護の概念 2．看護の役割 3．手術前の看護 1) 手術前看護の目標 2) 手術前看護のアセスメントと看護活動	講義 講義内演習 グループワーク

留意事項：

1. 成人看護学は看護を学ぶ上で既習学習である解剖生理・疾病治療総論・疾病治療論・薬理作用などの知識が必要不可欠です。
2. 講義だけでなく講義内グループワーク・演習も行います。看護を理解し、学習を修得するには互いの活発なグループワークが重要となります。積極的な姿勢で取り組んでください。

学習サポートの方法：

学習内容に関する質問は、直接担当教員に尋ねてください。

科 目 名：成人看護学Ⅵ (成人期にある人の看護過程)		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 年次		開講時期：A) 前期（9 月～） B) 後期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 事例を通して、健康レベルに応じた看護の視点を踏まえて看護過程を展開する。			
学習目標： 1．慢性期にある人の事例を通して、慢性期の特徴をとらえた看護過程が展開できる。 1) 慢性期の疾患・看護の視点を踏まえて必要な情報を選択できる。 2) 慢性期の疾患・看護の視点を踏まえて第 1 段階アセスメントが実施できる。 3) 慢性期の疾患・看護の視点を踏まえて情報の因果関係を明らかにできる。 4) 慢性期の疾患・看護の視点を踏まえて必要な看護診断があげられる。 5) 慢性期看護の視点を踏まえて看護診断の優先度が考えられる。 6) 慢性期看護の視点を踏まえて優先度が高い看護診断の第 2 段階アセスメント・看護計画が立案できる。 2．急性期にある人の事例を通して、急性期の特徴をとらえた看護過程が展開できる。 1) 急性期・回復期の患者の看護診断・共同問題を明らかにするために必要な情報収集ができる。 2) 手術による生体侵襲をふまえた第 1 段階アセスメントができる。 3) 急性期・回復期に実在・予測される看護診断・共同問題があげられる。 4) 急性期の看護診断の優先順位が考えられる。 5) 急性期に優先順位が高い看護診断の第 2 段階アセスメントができる。 6) 急性期に優先順位が高い看護診断の看護計画が立案できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1 2 3 4 5 6 7	(Ⅵ－A) 慢性期にある人の事例展開	慢性期にある成人の事例において看護過程を展開する。	講義 グループワーク 発表
8 9 10 11 12 13 14 15	(Ⅵ－B) 急性期にある人の事例展開	急性期にある成人の事例において看護過程を展開する。	講義 グループワーク 発表

評価方法： レポート・提出物・授業への参加状況 100 点
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト・参考文献： 講義前に指示する
留意事項： 1. 事例展開の要領は事前に別途配布します。 2. 事例展開では、より実践的に看護を考えるために、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴで学習したことを基に、健康レベルに応じた視点で対象を捉えることが重要です。 3. 事例展開はグループでの学習が主となります。看護を理解し、学習を深めていくために積極的な姿勢で臨みましょう。
学習サポートの方法： 学習内容に対する質問は、直接担当教員に尋ねてください。

老 年 看 護 学

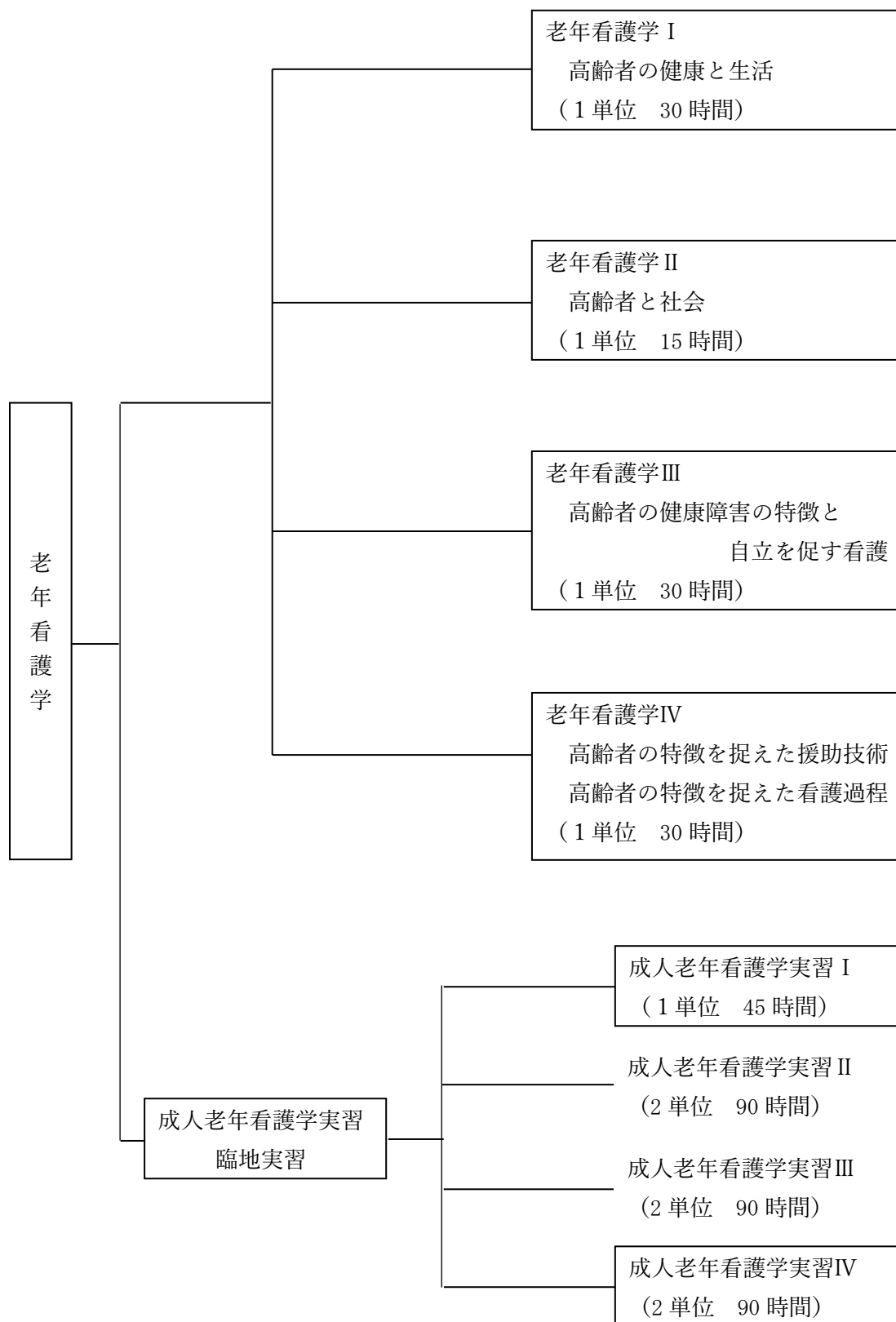
単 位 7 単位（240 時間）

学習目的 老年期にある対象の特徴を理解し、生活史・価値観・生活背景を基盤に、さまざまな状況下にある対象に対し、個別的な看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習目標

1. 老年期にある人々の発達過程を知り、加齢による身体的、精神的、社会的な特徴と日常生活への影響を理解する。
2. 高齢者を取り巻く社会・保健・医療・福祉の現状と超高齢社会における保健活動や看護の役割を理解する。
3. 老年期に特徴的な健康障害を持つ高齢者について理解し、対象と家族への援助を学ぶ。
4. 高齢者の持てる力を活かし、自律・自立を重視した個別的な看護援助を学ぶ。
5. 保健・医療・福祉のチームワークの中で多職種と連携し、専門職業人としての責任感、自律性を養う。
6. 老年期の人々に対する生命の尊厳と、尊敬の念を持ち行動できる能力と態度を養う。

老年看護学の構造



科 目 名：老年看護学Ⅰ 高齢者の健康と生活		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間 （講義 29 時間 試験 1 時間）
履修学年：1 学年		開講時期：9 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 1. ライフステージにおける老年期の身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年看護の対象である高齢者を理解する。 2. 高齢者の健康を維持・増進するための援助について学ぶ。			
学習目標： 1. ライフステージにおける老年期を理解できる。 2. 老年期にある人々の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 3. 高齢者の身体的・精神的・社会的変化とその特徴を理解し、これらが高齢者の日常生活にもたらす影響について考えられる。 4. 加齢に伴う変化が日常生活に及ぼす影響をふまえ、高齢者の健康を維持・増進するための援助を考えることができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	高齢者と老年期の特徴	1. 高齢者を知る意義 2. 高齢者・老年期の定義 3. 高齢者の健康状態	講義
2	高齢者模擬体験	加齢による身体的な変化（筋力、視力、聴力などの低下）を知り、高齢者に対する関わり方を体験的に学ぶ	演習
3	高齢者の身体的機能の変化	1. 健康をおびやかす力と守る力 2. 感覚器・循環系・呼吸器系 消化器系内分泌・腎泌尿器・運動系	講義
4			講義
5	高齢者の心理的機能の変化、社会的機能の変化	1. 知的能力・人格・創造性の変化 2. 社会的側面の変化 3. 高齢者のセクシュアリティ 4. 老いの自覚	講義
6	生活史	1. 生活史とは 2. 生活史に着目する意義	講義
7	体験学習	老人いこいの家、老人福祉センターで健康な高齢者の生活を理解する	施設での 体験学習
8			
9			

回数	講義題目	内 容	方 法
10	加齢による変化を伴う日常生活への援助	1. 高齢者の日常生活 1) コミュニケーション 2) 食生活と栄養 3) 活動 4) 睡眠と休息 5) 排泄 6) 環境 7) 清潔・衣生活	講義
11			GW
12			GW
13			発表
14			発表
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 次の1)、2)、3)、4)を合算し100点満点とする 1) 終了試験(100%) 2) レポート・提出物(減点) 3) 授業の参加状況・態度(減点) 4) グループで作成した資料・発表の内容・グループワークの参加状況			
評価基準： 60点以上で単位習得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ニューヴェルヒロカワ 国民衛生の動向 2024～2025 年度版 厚生統計協会 川崎市高齢者福祉のしおり 令和6年度版			
留意事項： 老年看護学Ⅰでは、講義のほかに体験学習により地域で生活する高齢者とのふれあいを通して、ライフステージにおける老年期を理解して欲しい。また、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を捉えながら、健康の維持、増進に向けた日常生活支援について学んで欲しい。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。			

科 目 名：老年看護学Ⅱ 高 齢 者 と 社 会		履修単位 1 単位	講義時間 15 時間 (講義 14 時間 試験 1 時間)
履修学年：1 学年		開講時期：10 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 高 齢 者 を 取 り 巻 く 社 会 ・ 保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 の 現 状 と 対 策 を 学 ぶ。			
学習目標： 1．超高齢社会の到来が社会に与える影響と日常の様々な出来事との関連性を理解できる。 2．高齢者をめぐる保健福祉対策の背景・動向について理解できる。 3．高齢者をめぐる保健福祉対策の基本方針をふまえ、具体的な施策内容を理解できる。 4．高齢者の権利擁護について考えることができ、権利擁護のための制度を理解できる。 5．高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化について理解できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	高 齢 者 と 社 会	1．高齢者の統計的輪郭 1) 超高齢社会の現況 2) 高齢者のいる世帯 3) 高齢者の暮らし （1）経済状態 （2）住まい （3）就業 （4）社会参加・教育ニーズ	講義
2	高 齢 社 会 と 社 会 保 障	1．高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 高齢者保健医療福祉の変遷 2) 高齢者医療確保法 3) 介護保険制度の概要 4) 施設サービス 地域密着型サービス（グループホーム） 5) 介護予防 6) 認知症施策	GW
3			発表
4			講義
5	高 齢 者 の 権 利 擁 護	1．高齢者に対するスティグマと差別 2．高齢者虐待	講義
6		3．権利擁護のための制度 1) 成年後見制度 2) 日常生活自立支援事業 4．老年看護に関わるものの責務 1) 高齢者のための国連原則	講義
7	高 齢 者 を 支 え る 多 職 種 連 携 と 看 護 活 動 の 多 様 化	1．高齢者とソーシャルサポート 1) 地域包括ケアシステム 2) 高齢者を支える職種と活動の多様化	講義
	終了試験		試験

評価方法： 次の1)、2、) 3) を合算し100点満点とする 1) 終了試験(100%) 2) 提出物(減点) 3) 授業の参加状況・態度(減点)
評価基準： 60点以上で単位習得
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 川崎市高齢者福祉のしおり（令和6年度版） 国民衛生の動向 2024～2025
留意事項： この授業では、超高齢社会にある現在の情勢に目を向けるために、新聞やニュースにも興味を持って臨むこと。また、様々な社会保障や関係法規についても学ぶので、講義の前にテキストを熟読し臨むことをお勧めいたします。
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねてください。

科 目 名：老年看護学Ⅲ 高齢者の健康障害の特徴と自立を促す看護		履修単位 1 単位	講義時間 30 時間 (講義 29 時間 試験 1 時間)
履修学年：2 学年		開講時期：4 月	
担当講師：専 任 教 員（看護実務経験有） 非常勤講師（看護実務経験有）2. 6. 7. 8 回			
学習目的： 1. 健康障害を持つ高齢者を理解し、治療処置・健康段階に応じた看護について学ぶ。 2. 認知症高齢者の症状・特徴を学習し認知症高齢者とその家族への援助を知る。			
学習目標： 1. 加齢による機能の変化と健康障害の関連性が理解できる。 2. 高齢者に特徴的な症状・疾患に対する看護について理解できる。 3. 医療的援助を受ける高齢者と看護について理解できる。 4. 認知症の病態や症状と高齢者に現れる生活上の課題を理解することができる。 5. 認知症高齢者の実際の生活を理解し、支援の方法を考えることができる。 6. 高齢者の死について考え、人生の最終段階におけるケアについて理解できる。 7. 老年看護の特徴・老年看護の役割を理解し、人生の統合を図る看護について考えることができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	高齢者の健康障害の特徴	1. 高齢者の疾病をめぐる特徴 2. 高齢者のアセスメント	講義
2	認知症高齢者の看護	1) 認知症とは 2) 認知症の臨床像 3) 認知症の評価 4) 認知症の症状 5) BPSD と看護の考え方 6) 認知症看護の基本姿勢 7) 家族への支援 8) 認知症高齢者の日常生活 9) 日常生活への援助 ①コミュニケーション ②食事 ③排泄 ④清潔 ⑤更衣 ⑥睡眠 10) 施設での認知症高齢者への看護の特徴	講義
3			講義 GW
4	高齢者に多い主要疾患と看護	1. 骨折 1) 高齢者に多い骨折 2) 大腿骨頸部骨折 2. 骨粗鬆症 3. リハビリと転倒予防 4. 身体拘束の三原則	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
5		演習 1. 良肢位の取り方・抑制 演習 2. 嚥下機能訓練・増粘剤摂取体験	演習
6		5. 嚥下障害 6. 肺炎	講義
7		7. 脳梗塞 8. 脱水	講義
8		9. パーキンソン症候群	講義
9	医療的援助と看護	1. 薬物療法を受ける高齢者の特徴 2. 高齢者の服薬管理における看護	講義
10		3. 検査を受ける高齢者の看護 4. 手術療法を受ける高齢者の看護 1) 術後合併症 2) せん妄	講義
11	高齢者に多い主要症状と看護	1. 廃用症候群 2. 褥瘡 3. 静脈血栓症	講義
12	健康維持と介護予防	1. フレイル 2. ロコモティブシンドローム 3. サルコペニア 4. 介護予防	講義
13	人生の最終段階の看護	1. エンドオブライフケア 1) 死生観・スピリチュアリティ 2) 意思決定と高齢者の尊厳 3) アドバンスケアプランニング 2. 家族への援助	講義
14	人生の統合を図る看護	1. 老年看護の特徴 2. 老年看護の役割 3. その方らしさを支える看護	
15	まとめ・終了試験		講義・試験

評価方法： 次の1)、2、) 3) を合算し100点満点とする 1) 終了試験(100%) 2) 提出物(減点) 3) 授業の参加状況・態度(減点)
評価基準：60点以上で単位習得
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ノーヴェルヒロカワ 認知症ケアガイドブック 日本看護協会
留意事項： 老年看護学Ⅲでは、高齢者に多い疾患や高齢者に多い症状から看護を学習できるよう、講義項目を編成しています。健康障害を持つ高齢者のその方らしさを考えながら、各健康段階における高齢者への看護を学んでください。認知症高齢者の看護については、成人老年看護学実習Ⅰでの体験の意味付けとなるよう知識を習得してください。講義や演習では、実習の場で活用できるような基礎的知識と自立を促す援助技術を習得してください。事前学習や復習など積極的に授業に臨んでください。
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねてください。

科 目 名：老年看護学Ⅳ 高齢者の特徴を捉えた援助技術 高齢者の特徴を捉えた看護過程		履修単位： 1 単位	講義時間（回数）： 30 時間 (講義 29 時間 試験 1 時間)
履修学年：2 学年		開講時期：7 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 1. 健康障害を持つ老年期の対象を理解し、健康段階・対象に応じた看護を考える。			
学習目標： 1. 高齢者の特徴を捉えた生活援助技術を理解する。 2. 老年期に特徴的な疾患を理解し、看護過程が展開できる。 3. 老年期の特徴を捉え、看護の方向性を明確化し診断が導き出せる。 4. 退院後を踏まえた現時点での対象に必要な援助の実際を考えることができる。 5. 健康障害のある高齢者とその家族の特徴について理解できる。 6. 個人学習、グループワークを通し、チームとしての情報共有が深められる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	高齢者の特徴を捉えた生活援助技術	演習 1. 口腔ケアと義歯の管理 演習 2. 排泄援助（陰部洗浄・オムツ交換） 演習 3. 歩行介助（パーキンソニズム） 演習 4. 車椅子移乗（片麻痺） 爪きり	演習
2			
3	高齢者の特徴を捉えた看護過程 ・情報収集と情報整理	【老年看護における理論】 サクセスフルエイジング セルフケア理論 ストレングスモデル 【学習する疾患】 肺炎・前立腺肥大・骨折 脳梗塞・高血圧・糖尿病 パーキンソン症候群・白内障・転倒後症候群 失禁・廃用症候群 【情報収集・アセスメントの視点】 加齢による身体的・心理的・社会的特徴 疾患・症状・健康段階と加齢の変化による影響 家族背景・生活背景・残存機能 【対象に必要な援助の工夫】 対象に必要な観察項目 安全・安楽な環境調整 不安に対する援助 退院後の生活と早期退院につながる支援 生活史・潜在力・残存機能の活用 自律・自立の視点、生活の中に組み込む援助	講義
4			講義
5			講義
6	・第 1 段階アセスメント ・関連図 ・関連図（G）・看護問題		発表 講義
7			講義 GW
8			講義 GW
9	・第 2 段階アセスメント ・患者目標・計画・評価		講義 GW
10			講義 GW
11	・具体的援助の立案		講義 GW
12	・援助場面の実際		発表
13			
14	老年看護のまとめ	高齢者看護の場面から、高齢者のための国連原則を考える	講義
15	まとめ・終了試験		講義・試験

評価方法： 次の1)、2、) 3) を合算し 100 点満点とする 1) 終了試験 (50%) 2) 提出物 (50%) 3) 授業の参加状況・態度 (減点)
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ヌーヴェルヒロカワ
留意事項： 高齢者の事例展開では、加齢に伴う変化と健康障害の特徴も含め、多様性に富んだ個別性を考慮した看護が必要不可欠です。高齢者の特徴を捉えた生活援助技術を学ぶ演習とともに高齢者である対象に必要な看護を展開するための看護過程を行い、看護の実際の一場面をロールプレイすることで具体的な看護を学習します。
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねてください。

小 児 看 護 学

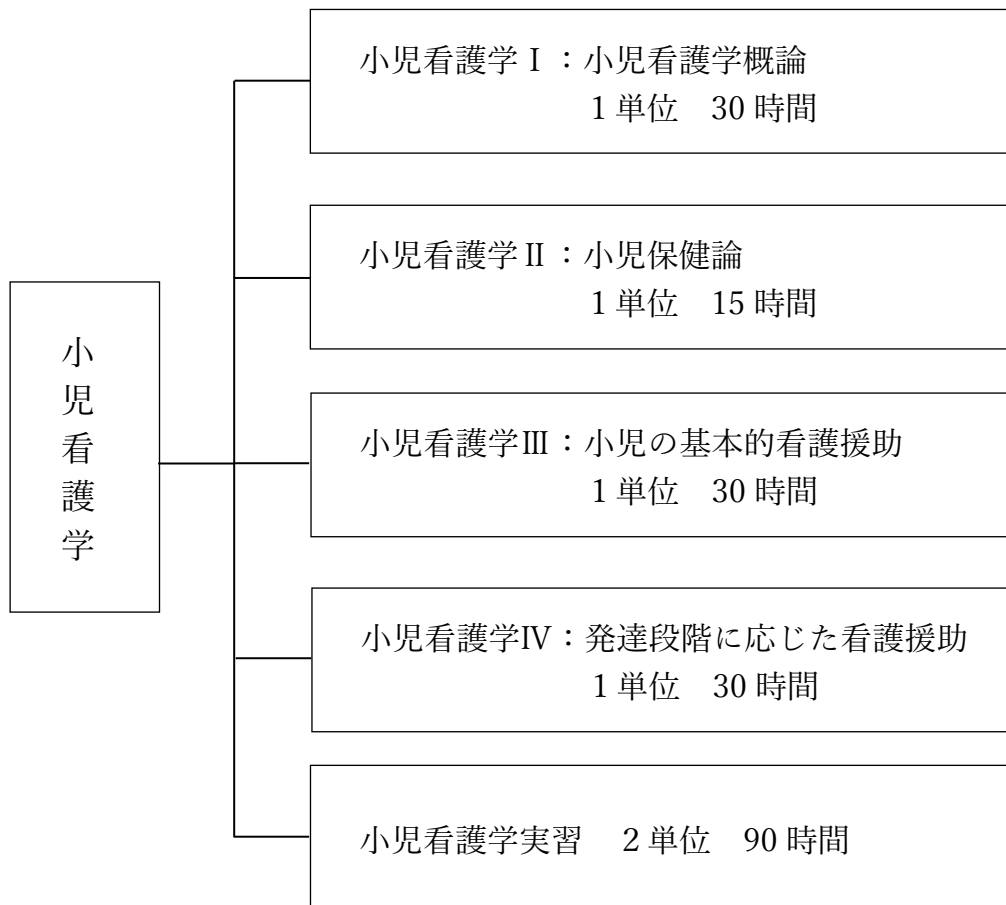
単 位 6 単位（195 時間）

学習目的 小児期の形態・機能・心理・社会的特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある小児とその家族に対する看護を学ぶ。

学習目標

1. 小児の特徴と小児看護の特徴を理解する。
2. 小児各期の成長・発達と発達課題を理解する。
3. 小児を取り巻く環境をとらえ、その環境が小児に及ぼす影響を理解する。
4. 小児各期の生活と養護を学ぶ。
5. 小児の健康が、小児および家族に及ぼす影響を理解する。
6. 健康障害をきたした小児の看護上の問題をとらえ、小児の特徴をふまえた看護を理解する。
7. 小児や家族へ健康レベルに応じた看護を実践する。

小児看護学の構造



科 目 名：小児看護学Ⅰ 小児看護学概論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 小児期の成長発達促進や健康増進のための小児看護の役割について学ぶ。			
学習目標 1．小児期にある子どもの特徴と小児看護の特徴を理解する。 2．小児各期の成長発達段階と発達課題を理解する。 3．小児各期の生活と養護を知る			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	I．小児とは（小児の特性） II．小児期の分類 （ライフサイクルから見た小児期）	1．出生前期 2．新生児期 3．乳児期 4．幼児期 5．学童期 6．思春期	講義
2	III．小児看護の変遷 IV．小児看護の目標	1．小児観の変遷 2．小児医療の変遷 3．小児看護の変遷 4．小児看護の場 5．小児看護の目標	講義
3	V．小児成長発達	1．成長と発達 2．発達の領域 3．成長発達のすすみ方 （一般的原則）	講義
4～6	VI．形態的成長、機能的発達 VII．学童期の発達 VIII．思春期の発達	1．形態的成長 2．形態的成長の評価方法 （身体発育の評価） 3．機能的発達 4．精神・運動機能の発達 5．知的機能の発達 6．機能的発達の評価方法 1．運動機能 2．知的機能 3．情緒 4．社会性 1．知的発達 2．社会性 3．性的発達	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
7	IX. 発達課題	1. ハヴィガースト 2. エリクソン	
8	中間試験 グループ学習導入	1. 1回目～7回目講義を対象とした 中間試験 2. グループ学習の説明	試験・講義
9～ 10	X. 乳幼児期の日常生活に 必要な養護（グループ学習）	1. 食事 2. 睡眠 3. 排泄 4. 衣服の着脱 5. 遊び	GW
11～ 12	グループ学習発表会	グループ学習での学びを発表する	発表
13～ 14	XI. 小児期の栄養の特徴と重要性	1. 小児期の栄養の特徴 2. 小児の食事摂取基準の特徴 3. 新生児、乳児期の栄養 4. 母乳栄養 5. 人工栄養	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 次の1)、2)、3)を合算し、100点満点の評価とします。 1) 中間試験(40%)、2) 終了試験(50%)、3) 出席状況(10%)			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学〔1〕 医学書院			
留意事項： 小児看護学Ⅰは講義だけではなく、グループ学習も行います。グループ学習ではメンバー各自の学習姿勢が、グループ全体での学習の深まりや、全体発表会での発表内容の充実度を左右します。グループ学習には積極的姿勢で臨んで下さい。 また、小児看護学Ⅰで取り扱い内容は、小児看護学を実践する上で基礎的知識となり、さらには看護師国家試験においても多く出題されています。ここで学ぶ知識をしっかりと確立してほしいので、評価には中間試験と終了試験を取り入れています。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねて下さい。			

科目名：小児看護学Ⅱ 小児保健論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 様々な状況にある小児の成長発達や健康がどのように守られているのかを理解するとともに、 小児を取り巻く家庭や社会のあり方について考える。			
学習目標： 1．小児を取り巻く環境と、小児の成長発達・健康問題との関連性について理解する。 2．小児の疾病予防・健康増進のための、関係法規・保健行政および社会福祉について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	I．家族の特徴とアセスメント	1．社会・地域・家庭と小児 1) 現代社会の特徴 2) 現代家庭の特徴 3) 小児の健全育成上の諸問題	講義
2～4	II．小児保健に関する法的根拠と、 保健・福祉	1．児童憲章 2．児童の権利に関する条約 3．小児看護領域で留意すべき子どもの 権利と必要な看護行為 (グループ学習・発表)	講義 GW 発表
5		4．児童福祉法 5．児童虐待防止法 6．障害児	講義
6		7．母子保健法 8．学校保健 9．予防接種法	講義
7	III．小児の事故と安全教育	1．事故の定義 2．事故発生のメカニズム 3．小児各期の安全能力と安全教育 4．小児の事故と救急処置	講義
	終了試験		試験
評価方法：終了試験 100 点満点			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 小児看護学概論 小児看護学 [1] 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

科目名：小児看護学Ⅲ 小児の基本的看護援助		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有） 非常勤講師（小児科医師）			
学習目的： 健康障害をきたした小児の診断・治療法や基本的な看護技術を学ぶ。			
学習目標： 1. 小児の健康が小児とその家族に及ぼす影響を理解する。 2. 小児に出現しやすい疾患とその診断・治療法を理解する。 3. 小児看護に必要な基本的看護技術を理解する。 4. 小児の日常生活支援と診療の補助技術が実施できる。 5. 小児看護に興味を持て、自分なりの小児看護観が形成できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	新生児期の疾患	・低出生体重児の生理、治療 ・呼吸窮迫症候群	講義 小児科 医師
2	染色体異常症 代謝性疾患	・ダウン症候群、18 トリソミー、 13 トリソミー、クラインフェルター症候群、 ターナー症候群、胎芽病、胎児病 ・新生児マススクリーニング、糖尿病、尿崩症、 低身長、甲状腺機能低下症、クッシング症候群	講義 小児科 医師
3	小児の手術の特徴 消化器系疾患（外科系）	・呼吸・消化器系手術の特徴 ・小児の輸液、脱水 ・CV 挿入術・胃瘻造設術 ・食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、 ヒルシュスプルング病、先天性胆道閉鎖症、鎖肛	講義 小児 外科 医師
4	筋骨格系疾患 外表奇形 呼吸器系疾患（外科系） その他	・先天性股関節脱臼、内反足、筋性斜頸、骨折 ・口唇裂・口蓋裂 ・気管軟化症、漏斗胸 ・熱傷・滲出性中耳炎	講義 小児 外科 医師
5	アレルギー疾患 呼吸器系疾患（内科系） 感染症・伝染性疾患の検査・ 治療	・アトピー性皮膚炎 ・気管支喘息、クループ症候群、 マイコプラズマ肺炎、細気管支炎 ・髄膜炎、伝染性疾患（麻疹・風疹・水痘・ 帯状疱疹・伝染性紅斑・百日咳）・予防接種	講義 小児科 医師
6	悪性腫瘍 血液造血器系疾患	・急性白血病・悪性リンパ腫・固形腫瘍（ウィ ルムス腫瘍・神経芽腫）・脳腫瘍 ・鉄欠乏性貧血・ITP・血友病・DIC	講義 小児科 医師

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
7	先天性心疾患 腎泌尿器系疾患 その他	・ ASD・VSD・PDA・TOF ・ ネフローゼ症候群・急性糸球体腎炎・ IgA 腎症・水腎症 ・ 川崎病	講義 小児科 医師
8	神経系疾患 発達障害	・ 二分脊椎・水頭症・もやもや病・熱性けい れん・てんかん・脳性麻痺・重症心身障害児 筋ジストロフィー ・ 自閉症スペクトラム、ADHD	講義 小児科 医師
9	小児臨床看護総論	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 2. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	講義
10	小児看護技術総論	小児に必要な看護技術の特徴と基本的考え方	講義
11	小児のプレパレーションの 目的・方法	プレパレーションの意義	講義
12	小児看護演習（1） 検査や処置を受ける子どもと 家族へのプレパレーション	検査・処置・援助をする小児の プレパレーションの実施（発表）	演習
13 ・ 14	小児看護演習（2） 日常生活支援技術 診療の補助技術	1. バイタルサイン測定 2. 身体計測と CV 挿入児の入浴 3. 口・鼻腔内吸引（固定方法） 4. 点滴留置中の看護（滴下計算・固定介助）	演習
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 筆記試験・手順書・出欠席状況・講義演習への参加姿勢などから評価を行う。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学〔1〕 医学書院 系統看護学講座 小児看護学各論 小児看護学〔2〕 医学書院 根拠と事故防止からみた「小児看護技術」 医学書院			
留意事項： 1 回目～8 回目の講義は、大学病院の第一線で活躍されている小児科医師および小児外科医師 による講義です。小児看護を実践していく上で、診断・治療法の理解は欠かせないので、小 児看護学Ⅳ（臨床看護）の学習をすすめる前に、ここでの講義内容をしっかり理解しておい て下さい。 「小児看護に必要な基本的看護援助」では、成人との違いについて理解が深まるように、基 礎看護学で学習した看護技術を復習してから講義に臨んで下さい。			
学習サポートの方法：学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

科 目 名：小児看護学Ⅳ 発達段階に応じた看護援助		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有） 認定看護師			
学習目的： 健康障害をきたした小児および家族への看護を理解する。			
学習目標： 1. 小児の病気が小児とその家族に及ぼす影響を理解する。 2. 小児各期の成長発達段階をふまえた看護を理解する。 3. 疾患経過や症状に応じた看護を理解する。 4. 様々な状況に置かれた小児の健康問題をアセスメントする能力を養う。 5. 小児看護に興味が持て、自分なりの小児看護観が形成できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	I. 新生児期にある小児の看護	1. 低出生体重児の看護	講義
2	II. 乳児期のある小児の看護（1）	1. 先天性疾患を持つ小児の看護 1) 染色体異常 2) 外表奇形 3) 消化器系の先天性疾患 4) 先天性心疾患 2. 手術療法を受ける小児の看護	講義
3	II. 乳児期のある小児の看護（2）	1. 乳児下痢症の看護 2. 熱傷の看護 3. 乳児期の成長発達面への援助	講義
4	III. 幼児期にある小児の看護（1）	1. 感染症の看護 2. 川崎病の看護 3. 小児気管支喘息の看護 4. 幼児期の成長発達面への援助	講義
5	III. 幼児期にある小児の看護（2）	1. 白血病の看護 2. ターミナル期にある小児の看護	講義
6	IV. 学童期にある小児の看護	1. 慢性疾患を持つ小児の看護 2. ネフローゼ症候群の看護 3. 糖尿病の看護 4. 学童期の成長発達への援助	講義
7	V. 思春期にある小児への看護 VI. 小児の在宅ケア VII. 児童虐待の看護	1. 摂食障害児の看護 2. 小児の在宅ケアを支える社会的資源 3. 小児の在宅ケア 4. 被虐待児への看護	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
8～11	VIII. 小児各期にある小児の事例展開	1. 疾患の病態生理・看護の学習 2. 小児各期の発達段階・発達課題の学習 3. 乳児・幼児・学童児からグループ毎に1事例を選択し、看護過程を展開	GW
12～13	事例発表	1. グループごとに選択した事例で展開した看護過程を発表 2. 立案した看護計画の一場面を取り上げ、ロールプレイングを行う	発表
14	事例展開まとめ	発表の講評	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 次の2つを合算し、100点満点の評価とする 1) 1回目～8回目までの講義内容を対象とした終了試験…85点 2) 9回目以降の事例展開での課題…15点			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学〔1〕 医学書院 系統看護学講座 小児看護学各論 小児看護学〔2〕 医学書院 看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術 メヂカルフレンド社			
留意事項： 小児の臨床看護の視点を軸に、様々な状況にある小児へのアセスメント能力を養い、小児を対象とした看護過程の展開ができるようになることを目指しています。 事例展開は、小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの統括学習となります。事例展開のグループ学習には、各自が今まで学習してきた小児看護学を復習した上で参加して下さい。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねて下さい。			

母 性 看 護 学

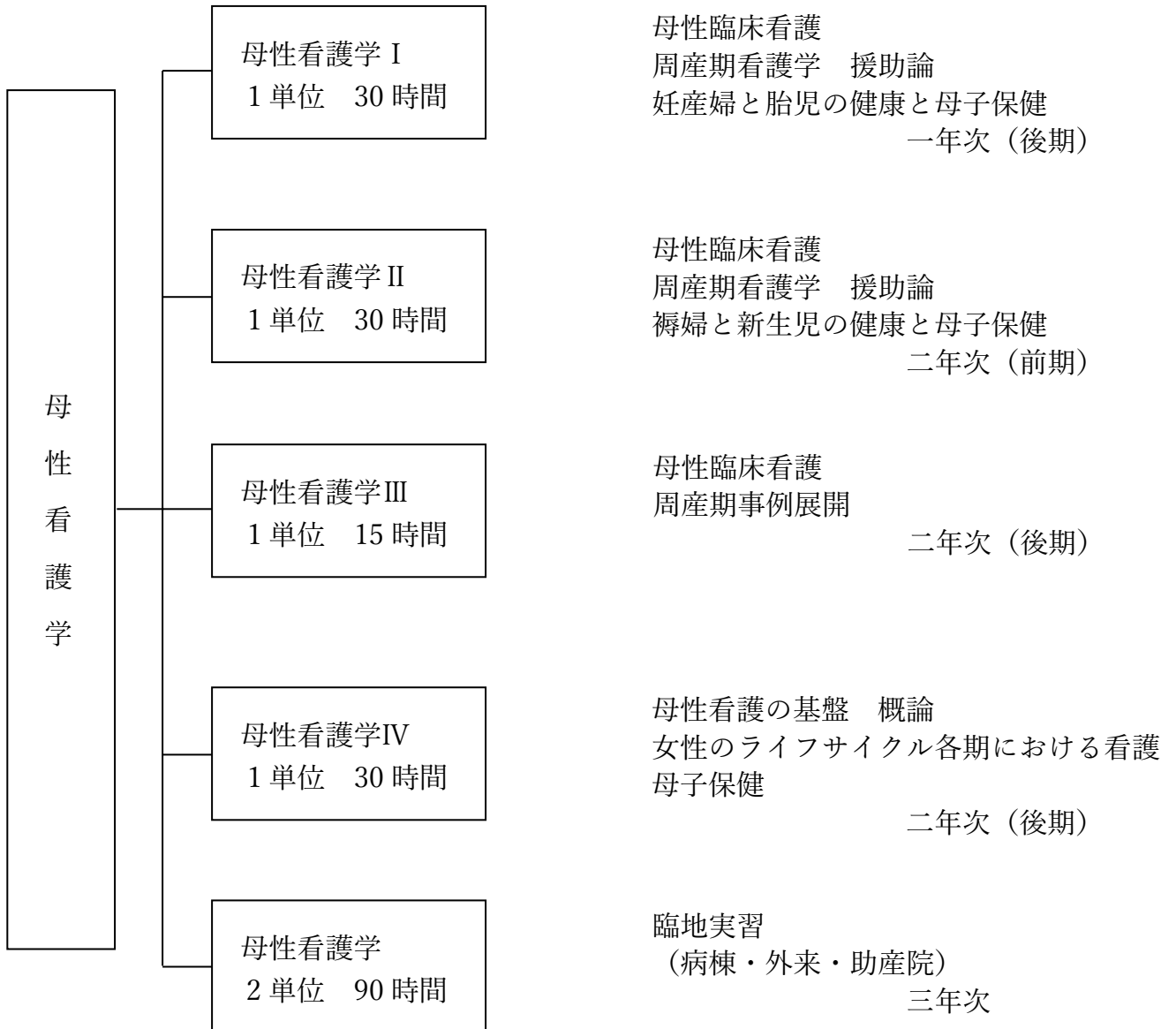
単 位 6 単位（210 時間）

学習目的 母性看護の対象と特徴を理解し、生涯を通じた性と生殖に関する健康の保持・増進および健康課題解決への看護を学び、次世代の健全育成への支援ができる能力を養う。

学習目標

1. 母性看護の対象および身体的・精神的・社会的特徴を理解する。
2. 人間の性と生殖の概念と意義について理解する。
3. 生命の誕生に関心を持ち、現代の問題から生命倫理について考える。
4. 女性の健康とライフサイクル各期における健康課題を理解し、健康教育（指導）方法を身につける。
5. 母性を取り巻く環境が、日本社会に与える影響について考察できる。
6. マタニティサイクルにある女性と、その子供・家族の健康を支援するための基礎的技術と援助方法を身につける。
7. 学習者自身が自己の中の母性・父性を意識し、健全な母性・父性の形成をはかる。

母性看護学の構造



科 目 名：母性看護学Ⅰ 周産期看護学 －妊産婦と胎児の健康と母子保健－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）		外部講師（看護実務経験有）	
学習目的： マタニティサイクル（妊娠期・分娩期）にある母子と家族に対する基本的看護を学ぶ。また、対象に生じる変化が生理的な変化であることに着目し、対象自らがその変化に対応していく力が必要であることを学ぶ。対象の持つ力を信じ役割を獲得していく母親をイメージし、母性看護における援助とは何かを考える。			
学習目標： 1．妊娠・分娩の生理的経過と逸脱状況について理解し、必要な保健指導を考えることができる。 2．妊娠分娩に必要な母子保健施策と関係法規について理解し、対象に必要な施策と法規を活用した看護援助を考えることができる。 3．周産期にある対象の持つ力を信じ、看護に与えられていることは何かを見出す。 4．妊娠分娩に必要な看護技術を身につける。 5．母子に関わる関係法規を理解できる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	妊娠の生理	妊娠の経過と検査	講義
2	分娩の生理	分娩の経過と検査	講義
3	妊婦と胎児の健康 －保健指導①－	妊娠を維持し胎児を发育させる援助と 役割獲得への支援 1 栄養の必要性 2 衣服の選択	講義
4	妊婦と胎児の健康 －妊婦健康診査－	妊婦と胎児の生理的変化に伴う健診と 保健指導の視点	演習
5	妊婦と胎児の健康 －保健指導②－	身体的変化と心理的変化に伴う役割 獲得への支援 1 母親役割の獲得と援助 2 家族の役割	講義
6	妊婦と胎児の健康 －保健指導③－	妊娠に伴う不快症状とその援助	講義 チーム学習
7	妊婦と胎児の健康 －逸脱時の援助①－	切迫流早産と胎児附属物の異常の ある対象者への援助	講義
8	妊婦と胎児の健康 －逸脱時の援助②－	妊娠糖尿病と妊娠高血圧症候群の 状態にある対象者への援助	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
9	主体的な分娩	産婦を支える援助とは 自らの出産を考える産婦への援助	講義
10	分娩の3要素と援助	分娩の3要素と分娩進行	講義
11	妊娠期・分娩期にある対象に必要な看護技術	妊婦健康診査時に行う技術 腹囲測定 子宮底長測定 レオポルド触診法 骨盤外計測 胎児心拍聴取 CTG 装着分娩に向けて必要な産痛緩和への技術呼吸法 リラックス法	演習
12	産婦への援助	分娩進行と心理的变化とその適応 分娩による役割獲得と母性性の発達	講義
13	分娩期の逸脱と援助	吸引分娩と帝王切開術 分娩の経過が逸脱する産婦の心理と 役割獲得に向けた援助	講義
14	母子に関わる関係法規と 社会資源	1 母子に関わる関係法規 2 社会環境と妊娠 3 経済支援	講義
15	終了試験		試験
評価方法： 以下の4項目を総合して100点満点にて評価する 1. 終了試験 2. レポート 3. チーム学習によるメンバーシップ 4. 提出物			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 1) 母性看護学概論 母性看護学1:『医学書院』系統看護学講座 専門分野Ⅱ 2) 母性看護学各論 母性看護学2:『医学書院』系統看護学講座 専門分野Ⅱ 3) 母性看護技術:『医学書院』根拠と事故防止からみた母性看護学技術			
留意事項： 周産期にある対象に実践する基本的なケアを学習します。対象の特徴を捉え、対象の持つ力を引き出す援助とは何か学ぶ学生自らが考えて学習に取り組む姿勢が必要です。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。			

科 目 名：母性看護学Ⅱ 周産期看護学 －褥婦と新生児の健康と母子保健－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 年次		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有） 外部講師（看護実務経験有）			
学習目的： マタニティサイクル（産褥期・新生児期）にある母子と家族に対する基本的看護を学ぶ。 妊娠・分娩を経験した母子とその家族が日常生活を過ごし社会生活への適応していく過程とその看護について学ぶ。			
学習目標： 1．産褥の生理的経過と母親役割獲得過程について理解し、対象の持てる力を考察する。 2．新生児の生理的特徴を理解し、必要な看護を学ぶ。 3．産褥期と新生児期にある対象との関係を理解し、母子とその家族に必要な看護を考えることができる。 4．産褥期と新生児期にある対象の健康・逸脱予防指導について説明できる。 5．産褥期と新生児期にある対象に必要な技術を習得することができる。 6．産褥期と子育て期に必要な母子保健施策と関係法規について理解し、対象に必要な施策と法規を活用した看護援助を考えることができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	退行性変化と援助	子宮・生殖器の回復過程と援助	講義
2	全身の回復と援助	母体の回復過程と援助	講義
3	進行性変化と援助	乳房の変化 乳汁分泌機序 母乳育児に関するアセスメントと援助	講義
4	母乳育児支援	母乳育児の意義・動向 トラブルの予防と対策 母乳育児を促進させるための援助	講義
5	心理・社会的変化と援助	身体の変化が及ぼす心理的变化 母親役割獲得への援助 育児技術獲得への援助	講義
6	母体の回復へ向けた技術援助	バックケア	演習
7	新生児の特徴と援助	胎児循環から新生児循環へ 新生児の特徴と生理的变化	講義
8	産褥期逸脱時の援助	産褥逸脱時の母子への援助	講義
9	褥婦への基本看護技術 新生児への基本看護技術	褥婦への援助 退行性変化の観察 母乳育児支援技術 全身の回復への援助 早期新生児への援助技術 沐浴と衣服・おむつの着脱 早期新生児の観察とアセスメント	演習
10			
11	母子保健統計	人口動態統計と母子保健統計 周産期医療体制	講義
12	母子保健施策 社会資源の活用	母子保健施策 母子にかかわる社会資源	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
13	退院後の生活調整への支援	子どものいる日常と生活 母体の回復と家族形成 家族計画	講義 グループ学習
14	母性看護と看護過程 情報収集と分析	ヘルスプロモーション 母性看護の援助思考 対象を捉える：情報収集と分析解釈	講義
15	まとめ・終了試験		
評価方法： 以下の 4 項目を総合して 100 点満点の評価とする。 1. 終了試験 2. レポート 3. チーム学習によるメンバーシップ 4. 提出物			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 1) 母性看護学概論 母性看護学 1：『医学書院』系統看護学講座 専門分野Ⅱ 2) 母性看護学各論 母性看護学 2：『医学書院』系統看護学講座 専門分野Ⅱ 3) 母性看護技術：『医学書院』根拠と事故防止からみた母性看護学技術 4) 国民衛生の動向			
留意事項： 周産期にある対象に実践する基本的なケアを学習します。対象の特徴を捉え、ヘルスプロモーションを意識したかわりを通した援助実践ができることを期待したい。 1 年次の学習を基盤に予習を行い、日々の復習を大切にして学習に臨んでほしい。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

科 目 名：母性看護学Ⅲ 周産期事例展開		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 年次		開講時期：後期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： マタニティサイクルにある対象に必要な健康教育・指導内容を生理的・心理的・社会的要因を用いて導き出し、看護援助の実践を学習する。			
学習目標： 1. マタニティサイクルにある対象に応じた看護の特徴を考察できる。 2. マタニティサイクルにある対象の健康状態について分析・解釈できる。 3. 事例展開を通して母性看護学における看護過程について理解できる。 4. 看護援助の実践内容を導き出すことができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	分析解釈と全体像	情報収集 分析解釈と全体像	講義 個人学習
2	分析解釈と全体像	分析解釈と全体像	チーム学習
3	目標設定・援助計画立案 （産褥 1 日目）	目標設定・援助計画の立案	チーム学習
4	援助の実際	援助計画実施・情報収集 実施後の評価と課題	演習
5	目標設定・援助計画立案 （産褥 3 日目）	目標設定・援助計画の立案	チーム学習
6	援助の実際	援助計画実施・情報収集 実施後の評価と課題	演習
7	目標設定・援助計画立案 （産褥 5 日目） 看護の必要性	援助計画実施・情報収集 退院後に向けた保健指導 母性看護とは何か 対象の捉え方と援助とは何かを考える	講義
	終了試験		試験
評価方法： 以下の 4 項目を総合して 100 点満点にて評価する 1. 終了試験 2. レポート 3. チーム学習によるメンバーシップ 4. 提出物			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 1) 母性看護学概論 母性看護学 1：『医学書院』系統看護学講座 専門分野Ⅱ 2) 母性看護学各論 母性看護学 2：『医学書院』系統看護学講座 専門分野Ⅱ 3) 母性看護技術：『医学書院』根拠と事故防止からみた母性看護学技術 4) 国民衛生の動向			

留意事項：

母性看護学実習での受け持ち援助を想定し、看護展開・看護援助の実施・評価まで実習と同様に一連を学習します。母性看護学Ⅰ、Ⅱで学習した基本的知識を活用し、事例を通して個別性を捉えた看護実践へと発展させることを学びます。チーム学習でのロールプレイ演習を講義方法に随時取り入れているので、効果的な共同学習を進められるようにメンバーシップ能力も評価対象としています。

学習サポートの方法：

学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねてください。

科 目 名：母性看護学Ⅳ 母性看護学の基盤 女性のライフサイクル各期における看護 母子保健		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：後期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 母性看護の基盤となる概念を学ぶことで、母性看護の対象および特徴を理解し、次世代の健全育成を目指し、性と生殖の健康をまもるという母性看護の意義・役割について考えられる。			
学習目標： 1. 母性看護の基盤、母性及び母性看護の概念を学び、母性看護の特徴について理解できる。 2. 女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する特徴や健康課題について理解できる。 3. 母性看護を必要とする対象を理解し、母性看護の意義・役割・専門性について理解できる。 4. 次世代の健全育成についての命の教育について、考えを深めることができる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	母性の対象と看護の基盤	母性看護の基盤 周産期看護の基盤 ライフサイクルと看護の対象	講義
2	地域母子保健	助産所で行う地域母子保健活動	講義
3	性分化とアイデンティティの形成と確立	胎児期の性の特徴 性分化疾患 性自認 アイデンティティの形成と確立 セクシュアルリプロダクティブライツ 性自認 同一性 性指向 自己の性とは何かについて考える	講義
4	思春期の性と健康課題	性周期の理解 思春期の身体・心理・社会的特徴 健康問題と看護	講義
5	成熟期の女性	身体・心理・社会的特徴 生き方の選択 家族形成と役割	講義
6	成熟期の女性の健康課題と看護	月経困難症と月経異常 女性特有のがん 不妊症 社会制度と活用 家族計画 受胎調整	講義
7	更年期 老年期の性と健康	身体・心理・社会的特徴 健康課題と看護	講義
8	生殖医療と看護	生殖医療センターの目的と意義 生殖医療の看護の実際	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
9	出生前診断と倫理 子どもを亡くした人への看護 世界における女性の問題	妊娠の受け止め 出生前診断が人の生死に影響することを考える グリーフケア セクシャルリプロダクティブヘルスライツ DV	講義
10	日本の母子保健活動	母子保健の歩みと健やか親子 21 子育て包括支援センター	講義
11	地域母子保健	市町村で行う母子保健活動 社会資源の活用	講義
12	健康と命の教育①	テーマ学習	チーム学習
13	健康と命の教育②	テーマ学習	チーム学習
14	健康と命の教育③	テーマ学習	チーム学習
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 以下の4項目を総合して100点満点にて評価する 1. 終了試験 2. チーム学習によるメンバーシップ 3. 提出物			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 1) 母性看護学概論 母性看護学1：『医学書院』系統看護学講座 専門分野Ⅱ 2) 母性看護学各論 母性看護学2：『医学書院』系統看護学講座 専門分野Ⅱ 3) 母性看護技術：『医学書院』根拠と事故防止からみた母性看護学技術 4) 国民衛生の動向			
留意事項： 母性看護学Ⅳでは、対象を理解するための大切な概念を学習します。人の一生を「性」という側面からとらえ、性と生殖に関する健康の保持・促進への援助とは何かを考えます。現在の社会の中で問題となっている性に関することは何か、看護として必要となることは何かを考えていきます。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねて下さい。			

精 神 看 護 学

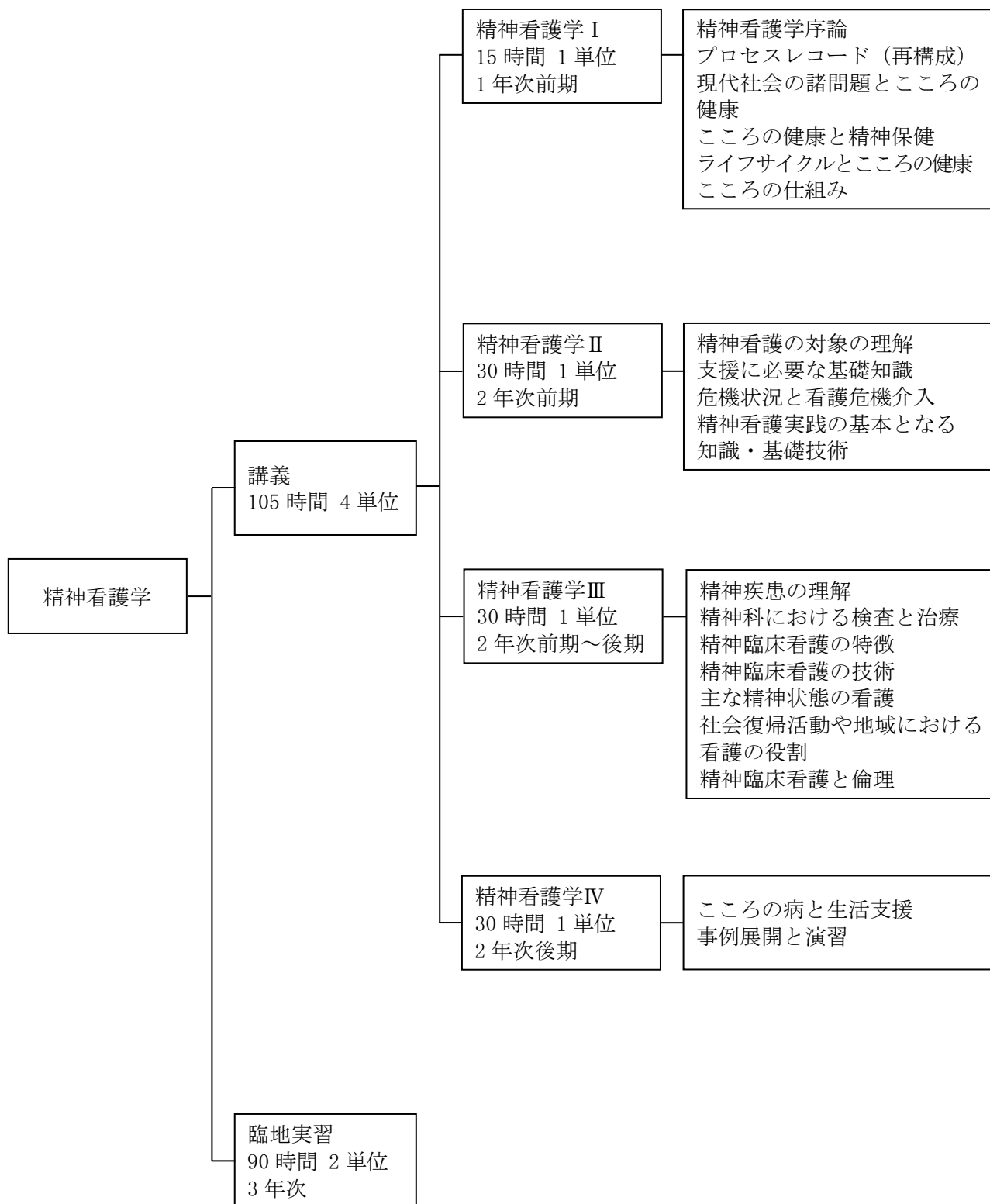
単 位 6 単位（210 時間）

学習目的 心の健康に関する問題をライフサイクルの視点でとらえ、心の健康を保持するための援助、及び心のバランスをくずしている人々や精神障がい者と家族に対する看護を学ぶ。

学習目標

1. 人間の心の発達と心の健康に関連する要因、心の健康の維持・増進の為に必要な知識を学ぶ。
2. 心のバランスをくずしたり、心を病む人への理解と看護は看護の基盤として看護全般に必要であることを理解し、援助のための知識と技術を学ぶ。
3. 精神障がい者の置かれてきた歴史的、社会的背景を理解する。そして、精神障がい者と家族の理解、援助方法を学ぶことにより精神障がい者に対する偏見の誤りを認識し、患者を一人の人間として尊重することの重要性を理解する。
4. 精神障がい者の社会復帰活動の促進が強調される一方、社会復帰を困難にする要因も存在する実状を知り、精神医療と地域社会との結びつきの重要性を保健・医療・福祉関連において理解する。

精神看護学の構造



科 目 名：精神看護学Ⅰ (生活とこころの変化)		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 年次		開講時期：1 年次 前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 人間の精神的成長や人格発達、あるいは疾患と関連する発達課題や精神的諸問題・精神現象について、乳幼児期から老年期に至るライフサイクルと生活の変化を通して学ぶ。			
学習目標： 1．こころの健康の概念を理解し、精神保健の重要性を理解する。 2．人間のこころの発達を理解する。 3．現代社会に生きる人々が直面する健康上の問題を精神保健上の視点から捉え、こころの健康を保つための適応のあり方を理解する。 4．看護に活かすカウンセリングの基礎について理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	精神看護学を学ぶ意味	1．現代社会と「こころのケア」 2．精神の健康 3．人と人とのふれあい 4．マッピングシート作成	講義
2	こころの健康と人間関係（1）	1．再構成（プロセスレコード）	講義
3	こころと健康と人間関係（2）	プロセスレコード演習	演習
4	ライフサイクルとこころの健康	1．ライフサイクルとこころ 1）乳幼児期～学童期のこころの健康	講義
5	ライフサイクルとこころの健康	思春期～青年期のこころの健康 中年期～老年期のこころの健康 過労と自殺 喪失体験	講義
6	こころのしくみ・はたらき（1）	1．こころをつくる物質（神経伝達物質）とそのはたらき 2．精神分析理論によるこころのしくみ イド・自我・超自我 3．防衛機制	講義
7	こころのしくみ・はたらき（2）	1．対処機制 2．リラクゼーション 3．マッピングシート作成	講義
	終了試験		試験
評価方法：平常考察・終了試験 100 点満点の評価とする			
評価基準：60 点以上で単位修得			

テキスト・参考文献：

系統看護学講座 精神看護学① 精神看護学の基礎 医学書院
系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院

留意事項：

ひとのところがどのように発達していくのかを知ること、またこころのしくみを知っていくことは、私達が自分を知ることにも繋がります。この授業を通して、看護実践の基盤となる、自分を知ること・他者を知ること・人間を知ることについて考えていきましょう。

学習サポートの方法：

学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に学内講師を訪ねてください。

科 目 名：精神看護学Ⅱ (こころの健康維持増進の援助)		履修単位 1 単位	講義時間 (回数) 30 時間 (15 回)
履修学年：2 年次		開講時期：前期	
担当講師：専任教員 (看護実務経験有)			
学習目的： 精神看護は看護全般に必要なであることを理解し、こころの健康維持・増進のための基礎的知識と技術を学ぶ。			
学習目標： 1. 精神看護では自らの精神的な健康を保つことが重要であることを理解する。 2. 精神看護の対象を知り、精神看護は看護全般に必要なことを理解する。 3. 精神看護を必要とする援助のための基礎的な知識と技術を理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. 精神 (こころ) の機能について	講義
2	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. 人間の心理社会的ニーズ 1) 自己概念 2) 役割機能 3) 相互依存	講義
3	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. こころのバランスを崩した状態 1) 自尊心の低下 2) 無力	講義
4	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. こころのバランスを崩した状態 1) 不安・恐怖 2) 喪失・悲嘆	講義
5	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. 危機的状況と看護の危機介入 1) ストレス反応と行動 2) 危機の概念 3) 危機モデルに基づいた看護援助 *セリエ理論・ラザルス理論・ フィンクの理論・アギュレラとメズニックの理論	講義
6	患者－看護者関係の発展過程	1. 患者－看護者の特徴 2. 援助者としての役割 3. 関係の展望過程 4. 関係を成立させる要素	講義
7	患者－看護者関係の発展過程	治療的対人関係を促進するコミュニケーション技術、自分を知る・相手を知る	講義
8	こころの回復の促進	リカバリー、ストレングス、 レジリエンス	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
9	こころの回復の促進	ストレスー脆弱性ー対処モデル、 生物・心理・社会モデル	講義
10	こころを病む人の支援	認知行動療法、SST 精神科におけるリハビリテーション	講義
11	こころを病む人の支援	ピアサポート、多職種との連携	講義
12	精神科以外での精神看護	1．身体疾患とこころの看護 2．看護に活かすカウンセリングの基礎	講義
13	精神科以外での精神看護	1．リエゾン精神看護 2．感情労働と看護師のメンタルヘルス	講義
14	災害被災者・災害救援者の こころの健康	1．災害によるこころの反応 2．災害がもたらすこころの問題 3．被災者に対するメンタルヘルス 4．救援者に対するメンタルヘルス	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 平常考察・終了試験 100 点満点の評価とする			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 精神看護学① 精神看護学の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院			
留意事項： 開講前の春休暇中に学習課題がある。精神看護学Ⅰで学習したこころのしくみや働きから、こころのバランスが崩れた状態、こころの健康を維持するための働きについて学ぶ。また、患者ー看護者関係が相互作用の中でどのように構築されていくかを学び、その後の患者との関わりに活かしてほしい。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

科 目 名： 精神看護学Ⅲ (精神に障害のある人の治療と援助)		履修単位 1 単位	講義時間 (回数) 30 時間 (15 回)
履修学年：2 年次		開講時期：2 年次 前期・後期	
担当講師：専 任 教 員 (看護実務経験有) 非常勤講師			
学習目的： こころ病む人とその家族を理解し、支援のための知識と技術を学び、その人を尊重することの重要性を理解する。			
学習目標： 1. 精神障がい者が呈する症状や行動、主な精神疾患に関する知識を理解する。 2. 治療・検査を受ける人への支援を理解する。 3. 精神障がい者がたどる治療過程を理解する。 4. 精神臨床看護の特徴と技術を理解する。 5. 精神障がい者が呈する症状や行動に応じた看護を理解する。 6. こころ病む人がたどる回復過程とその時々々の看護を理解する。 7. 精神看護における倫理的問題と対象の権利擁護の重要性を理解する。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	精神の健康	1. 精神の健康－不健康 1) 精神医学からの説明 2) 精神分析理論からの説明 3) 脳科学からの説明	講義
2	精神障害とは	1. 主な精神症状と問題行動 1) 不安 2) 幻覚・妄想 3) 攻撃、自傷・自殺	講義
3	精神障害とは	1. 主な精神症状と問題行動 1) 自閉、ひきこもり、無気力 2) 強迫、依存、操作 2. 発達障害	講義
4	精神科治療	1. 精神医療システムの現状と課題 1) 外来医療と入院医療 2) 入院形態 3) 精神保健指定医 2. 薬物療法 3. 精神療法の基礎 4. 特殊精神療法の主な治療様式 5. 電気痙攣療法 6. 隔離・拘束	講義
5	主な疾患の理解	1. 統合失調症の知識、治療 2. 気分障害の知識、治療	

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
6	主な疾患の理解	1. 神経症性障害ストレス関連障害の知識、治療 2. 境界性人格障害の知識、治療 3. 摂食障害の知識、治療	講義
7	主な疾患の理解	1. てんかんの知識、治療 2. アルコール・薬物依存の知識、治療 3. 老年期精神障害の知識、治療	講義
8	精神科看護と倫理	1. 精神医療看護の歴史的変遷と法律 2. 精神保健福祉法と看護 3. こころを病む人への看護援助の基本	講義
9	気分障害にある人の看護	1. 鬱状態の人の看護 2. 躁状態の人の看護 3. 自殺防止	講義
10	幻覚・妄想状態にある人の看護	1. 幻覚・妄想のある人が体験している世界とその生活への理解 2. 幻覚・妄想状態にある人の看護 3. 統合失調症にある人の看護（経過別）	講義
11			講義
12	神経性障害・ストレス関連障害のある人の看護	1. 不安障害のある人の看護 2. 強迫症状のある人の看護	講義
13	人格障害にある人の看護	1. 衝動行為のときの看護 2. 攻撃・操作する人の看護 3. 摂食障害のある人の看護	講義
14	依存する人の看護	1. アルコール依存のある人の看護	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法：平常考察・終了試験 100 点満点の評価とする。 (1～7 回目 医師 50 点、8～14 回目 看護教員 50 点)			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 精神看護学① 精神看護学の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 精神看護学第 2 版 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版株式会社			
留意事項： 夏期休暇中に宿題を課す。精神看護学Ⅰ・Ⅱの学習を基盤に、精神機能の障害のある人への理解をすすめていく。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

科 目 名：精神看護学Ⅳ (こころの病と生活支援)		履修単位 1 単位	講義時間 (回数) 30 時間 (15 回)
履修学年：2 年次		開講時期：2 年次 後期	
担当講師：専 任 教 員 (看護実務経験有) 非常勤講師 (看護実務経験有)			
学習目的： こころ病む人とその家族を理解し、生活支援のための知識と技術を学び、その人を尊重することの重要性を理解する。			
学習目標： こころ病む人への生活支援が演習の中でできる。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	社会復帰活動・地域における看護の役割	1. 精神障害のある人が活用できる社会資源の理解	講義 グループワーク
2	社会復帰活動・地域における看護の役割	1. 精神障害のある人が活用できる社会資源の理解 1) 地域における精神保健対策と看護 2) 家族支援 3) 社会復帰対策と看護 4) 退院に向けた生活支援	講義
3	事例展開	1. 導入 1) 事例展開のすすめかた 2) 事前学習	講義
4	事例展開	気分障害のある人の生活支援の事例	講義 グループワーク
5	事例展開	気分障害のある人の生活支援の事例	講義 グループワーク
6	事例展開	気分障害のある人の生活支援の事例	講義 グループワーク
7	事例展開	統合失調症のある人の生活支援の事例	講義 グループワーク
8	事例展開	統合失調症のある人の生活支援の事例	講義 グループワーク
9	事例展開	統合失調症のある人の生活支援の事例 ストレングスマッピングシート作成	講義 グループワーク
10	臨床看護の実際	気分障害・統合失調症のある人の支援	講義
11	事例展開グループ発表準備	気分障害のある人の生活支援の事例 統合失調症のある人の生活支援の事例	グループワーク

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
12	事例展開グループ発表準備	気分障害のある人の生活支援の事例 統合失調症のある人の生活支援の事例	グループワーク
13	事例展開グループ発表	気分障害のある人の生活支援の事例 統合失調症のある人の生活支援の事例	発表
14	事例展開グループ発表	気分障害のある人の生活支援の事例 統合失調症のある人の生活支援の事例	発表
15	事例展開まとめ	2 事例の発表の振り返り	講義
評価方法： 事例課題と参加状況（気分障害のある人の看護 50 点、統合失調症のある人の看護 50 点） 事例展開の内容は、精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習したことも含まれる。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 精神看護学① 精神看護学の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 精神看護学第 2 版 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版株式会社			
留意事項： 具体的な内容・日程は、開講時に別途資料配布と説明をする。 精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習したこともふまえて対象のこころを理解しようとする姿勢を大切にし、対象の見えないところがどのような形で表現されているかを考えてほしい。 また、患者の健康的な部分にも着目し、強みを見出しながら看護を考えてほしい。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。			

看護の統合と実践 4 単位

看護の統合と実践Ⅰ 1 単位 30 時間（2 年次）

- | | |
|-------------|-------|
| 1）上級市民救命士研修 | 8 時間 |
| 2）災害看護 | 12 時間 |
| 3）国際保健活動論 | 8 時間 |

看護の統合と実践Ⅱ 1 単位 30 時間（3 年次）

- | | |
|---------------|-------|
| 1）医療者の倫理 | 4 時間 |
| 2）看護マネジメント | 8 時間 |
| 3）チーム医療と多職種連携 | 16 時間 |

看護の統合と実践Ⅲ 1 単位 30 時間（3 年次）

- | | |
|--------------|-------|
| 1）医療安全 | 6 時間 |
| 2）医療と法 | 10 時間 |
| 3）医療安全と倫理的判断 | 12 時間 |

看護の統合と実践Ⅳ 1 単位 30 時間（3 年次）

- | | |
|------------|-------|
| 1）看護の技術の統合 | 10 時間 |
| 2）看護の知識の統合 | 20 時間 |

科 目 名：看護の統合と実践Ⅰ		履修単位	講義時間（回数）
1. 上級市民救命士研修 8時間		1 単位	30 時間（15 回）
2. 災害看護 12 時間			
3. 国際保健活動論 8 時間			
履修学年：2 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的：			
1. 医療を学ぶ一市民として、地域に貢献できる能力を身につける。			
2. 災害および災害看護に関する基本的知識を身につけ、災害時に求められる看護の役割と方法について学ぶ。			
3. 国際保健の動向および現状を学び、国際的視野で健康問題を捉え、国際保健医療協力のあり方を学ぶ。			
学習目標：			
1. 救急蘇生法の基本的知識を学び、基本的技術を習得する。			
2. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。			
3. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。			
4. 災害サイクルや活動の場に応じた看護の役割を理解する。			
5. 災害場面で行われるトリアージの基本的知識を理解する。			
6. 国際保健医療協力の概要、国際看護の概念を知り、国際看護に必要な視点を理解する。			
7. 発展途上国の保健医療の現状を知り、健康に関わる要因について考える。			
8. プライマリーヘルスケアの理念を学び、国際保健医療協力における看護職の役割について考える。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	上級市民救命士講習（1）	一時救急蘇生法＋AED 実地訓練	講義・演習
2	上級市民救命士講習（2）		講義・演習
3	上級市民救命士講習（3）		講義・演習
4	上級市民救命士講習（4）		講義・演習
5	災害と医療	1. 災害とは	講義
6		2. 災害と災害医療 3. わが国の防災医療体制 4. 特殊な災害（放射線災害等）	講義
7	災害看護概論	1. 災害医療と災害看護 2. 災害看護の変遷	講義
8		3. 災害サイクルと災害看護 4. 被災者特性に応じた災害看護 5. 災害看護と倫理	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
9	災害看護の実際	1. 災害フェイズと心のケア 2. 急性期から亜急性期のケア 3. 医療者自身のメンタルケア 4. トリアージ概要 5. 災害時トリアージの実際	講義・演習
10			講義・演習
11	国際保健・看護とは	1. 国際保健医療協力の概要 2. 国際看護の概念 3. 国際看護に必要な視点	講義
12			講義
13	国際保健医療の現状と課題	1. 発展途上国の保健医療の現状 2. 健康にかかわる要因	講義
14	プライマリーヘルスケア	1. プライマリーヘルスケアの理念 2. 国際保健医療協力における看護職の役割 3. 活動事例紹介	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 終了試験・レポート・出席状況・授業態度を総合的に評価する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 「災害看護学・国際看護学」 医学書院			
留意事項： 1. 上級市民救命士講習：ここでは、地域における貢献能力を高めるため、上級市民救命士講習に参加し、救急蘇生法を習得します。学習内容は、川崎市消防局員・救急蘇生法のインストラクターによる実地訓練を行います。また、上級市民救命士講習の終了後は、『川崎市上級市民救命士修了証』を習得することができます。 2. 災害看護：ここでは、大学病院クリティカルケア部門で活躍し、現地での災害活動も経験している救命医や看護師が講師を務めます。実際現場を踏まえた災害看護の基礎知識やトリアージ演習は、より実践に即した内容となっています。大規模地震発生の確率が高まる現在、医療者を目指す看護学生として興味を持って積極的に講義および演習へ参加することを期待します。 3. 国際保健活動論：現状の国際看護の課題や国際看護の実際を学ぶことで、本校の教育目標の1つにある『国内外の情勢に関心を向け、社会における看護の役割を認識できる。』の達成に向かうよう、高い意識を持って授業に臨んでほしいと思います。			
学習サポートの方法：			

科 目 名：看護の統合と実践Ⅱ		履修単位	講義時間（回数）
1. 医療者の倫理 4 時間		1 単位	30 時間（15 回）
2. 看護マネジメント 8 時間			
3. チーム医療と多職種連携 16 時間			
履修学年：3 学年		開講時期：4 月	
担当講師：非常勤講師（実務経験あり） 専任教員（看護実務経験あり）			
学習目的： 1. 社会における医療の現状及び課題を理解するとともに、課題達成するために専門職の果たす役割について理解できる。 2. 看護に関わる自分自身、専門職者としてのキャリア、組織・チームにおけるマネジメントについて理解する。 3. 医療に携わる看護師として多職種の専門性(役割・責任)を理解し、チームで連携することの意味とその中での看護が果たす役割を理解する。			
学習目標： 1. 社会における医療とそれを取り巻く状況を理解する。 2. 医療者に求められる社会的役割を理解する。 3. 看護におけるマネジメントを理解する。 4. 看護ケアのマネジメントを理解する。 5. 看護師のセルフケアマネジメント、キャリアマネジメントについて理解する。 6. 看護マネジメントを理解し、その実際を知る。 7. 医療を担う多職種の専門性(役割・責任)を理解する。 8. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の在り方を考える。			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	1. 医療者の倫理 1. 医療とは何か 2. 医療と社会	1. 医学・医療の歴史 2. 生きることと死ぬこと 3. 医療と経済、医療のグローバル化	講義
2	1. 医療者の倫理 1. 医療者に求められる社会的役割	1. 医療者とプロフェッショナルリズム 2. 医療の実際と倫理的課題	講義
3	2. 看護マネジメント 1. 看護マネジメントとは	1. 看護マネジメントの考え方 2. 病院組織の基本構造 3. チーム医療と看護 4. 看護職の法的責任と基本的責任	講義
4	2. 看護マネジメント 1. 看護マネジメントとは	1. 目標管理 2. 業務追行のマネジメント 3. 医療安全の基本的な考え方 4. 感染管理の基本的な考え方 5. 災害対策の基本的な考え方	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
5	2. 看護マネジメント 1. 看護師のキャリア開発 2. 看護師のセルフマネジメント	1. キャリアの概念と専門職 2. キャリアとキャリア形成 3. 看護専門職における キャリアマネジメントの特徴と意義 4. セルフマネジメントの意義と方法	講義 演習
6	2. 看護マネジメント 1. 看護サービスのマネジメント	1. 看護組織のマネジメント 2. 人材マネジメント 3. 施設、物品、情報のマネジメント 4. 組織におけるリスクマネジメント 5. 看護サービス評価	講義
7	3. チーム医療と多職種連携 1. 医療に関わる多職種の理解 1) 多職種の役割と責任 ① 医事課	医事課 1. 医事課の役割と機能 1) 役割と機能の実際 2) DPC 制度 診療報酬と患者の負担 2. 医事課の役割と看護管理 1) 患者中心とした協働と連携	講義
8	3. チーム医療と多職種連携 1. 医療に関わる多職種の理解 1) 多職種の役割と責任 理学療法士	専門 理学療法士 1. 理学療法士の専門性・役割と責任 1) リハビリテーションの特徴 2) 理学療法士の役割責任 2. 理学療法士の役割と看護管理 1) 患者中心とした協働と連携	講義
9	3. チーム医療と多職種連携 1. 医療に関わる多職種の理解 1) 多職種の役割と責任 医療ソーシャルワーカー	専門 医療ソーシャルワーカー・ 地域看護専門師 1. 医療ソーシャルワーカー・地域看護 専門師の専門性・役割と責任 1) メディカルサポートセンター としての特徴 2) 医療ソーシャルワーカー・ 地域看護専門としての役割責任 2. メディカルサポートセンターの役割 と看護管理 1) 患者中心とした協働と連携	講義
10	3. チーム医療と多職種連携 1. 医療に関わる多職種の理解 1) 多職種の役割と責任 薬剤師	専門 薬剤師 1. 薬剤師の専門性・役割と責任 1) 薬剤部としての特徴 2) 薬剤師としての役割責任 2. 薬剤師の役割と看護管理 1) 患者中心とした協働と連携	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
11	3. チーム医療と多職種連携 1. 医療に関わる多職種の理解 1) 多職種の役割と責任 管理栄養士	専門 栄養士 1. 栄養士の専門性・役割と責任 1) 栄養部としての特徴 2) 管理栄養士としての役割責任 2. 管理栄養士の役割と看護管理 1) 患者中心とした協働と連携	講義
12	3. チーム医療と多職種連携 2. 医療に関わる多職種の理解	1. 地域包括ケアシステムの考え方とそこに関わる多職種 2. 地域の多職種連携 3. 医療機関の連携	チーム学習
13・14	3. チーム医療と多職種連携 3. 看護師に求められる多職種連携能力	1. 多職種連携コンピテンシー 2. 連携に関わる看護師の能力 1) 事例による多職種問題解決	チーム学習 発表
15	まとめ 試験		
評価方法： 終了試験：1 医療者の倫理 2 看護マネジメント：40 点 授業内レポート及びチーム学習(課題学習を含む)：60 点			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 医療概論 医学書院 系統看護学講座 看護管理 医学書院			
留意事項： 本科目は大きく 3 つの要素で構成されており、それぞれの要素を学ぶことにより、統合的に医療に携わる人としての専門性を高めることを期待している。この効果をもって臨床の現場での実践につなげ、また、実践者としての力を発揮できるように努力してほしい。 1. 医療者の倫理：現在の社会における医療状況と、医療者として社会が求める現状を現場に立つ一人の医療者として考えてほしい。 2. 看護マネジメント：セルフマネジメントから組織としてのマネジメントまで幅広く学ぶことで看護に必要なマネジメントの要素を知り、マネジメントの視点を統合実習や卒後の専門職としての実践の場で活用してほしい。 3. TEAM 医療と多職種連携：医療・看護の対象者である生活者に対して様々な専門家がかかわる保健・医療・福祉の場に関わる中で具体的な活動からそれぞれの職種の役割と責任を理解し、各職種が生活者に関わること、また、多職種が看護師に望むものを理解し実習の場や卒後の看護師としての活動で実践できることを目指します。			

学習サポートの方法:

1. 講義：9：00－17：30 科目担当専任教員を訪ねること
2. 必要時：非常勤講師と相談して classroom 等を通じて対応する場合もある
事前確認が必要

科 目 名：看護の統合と実践Ⅲ		履修単位	講義時間（回数）
1. 医療安全 2. 医療と法 3. 医療安全と倫理的判断		1 単位	30 時間（15 回）
履修学年：3 学年		開講時期：前期	
担当講師： 1. 医療安全：非常勤講師 2. 医療と法：非常勤講師 3. 医療安全と倫理的判断：専任教員（実務経験有り）			
学習目的： 1. 医療安全の基礎知識：医療安全に必要な基礎知識を学ぶ 2. 医療と法：医療看護の法的側面を理解した上で医療の専門職者としての倫理的感性和責任について学ぶ 3. 臨床における医療安全と倫理的判断：臨床における医療安全上の課題と倫理上の課題についての確に判断するプロセスについて学ぶ			
学習目標： 1. 医療安全に必要な基礎を理解する 2. 医療・看護の法的側面を理解する 3. 医療安全のための感性を高める 4. 医療訴訟と医療者の法的責任について知る 5. 医療者の法的責任と職業倫理について検討し、求められる看護について考えられる 6. 医療者の法的責任と医療安全について検討し、求められる看護について考えられる 7. 看護者の意思決定のプロセスを踏み、対象にとって最適な看護について考えられる			
回数	講 義 題 目	内 容	方 法
1	1. 医療安全 1. 医療安全の基礎知識(1)	1. 医療と医療安全 2. 医療安全と看護の基礎知識 1) 医療安全とは 2) 医療安全と看護 3) 人間の 3 つの行動モデル	講義
2	1. 医療安全 2. 医療安全の基礎知識(2)	1. 医療安全にかかわる法律・制度 1) 国の医療安全施策 2) 医療法施行規則の一部改正 3) 医療法改正 4) 医療事故に係る調査の仕組み 5) リスクマネジメント	講義
3	1. 医療安全 3. 医療安全管理について	1. 事故防止の考え方を学ぶ 1) 医療事故と看護業務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故の防止の考え方	講義

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
3	1. 医療安全 3. 医療安全管理について	4) 診療補助の事故防止 5) 療養上の世話の事故防止 6) 組織的医療安全体制への取り組み	講義
4	2. 医療と法 1. 医療訴訟と医療者の法律上の責任概要	1. 医療訴訟 2. 医療者の法的責任	講義
5 6	2. 医療と法 2. 専門職としての法的責任 1) 職業倫理	1. 判例事例の紹介 2. TEAM 学習を通して、判例事例における法的責任について	チーム学習
7	2. 医療と法 3. 医療訴訟と医療者の法律上の責任概要	1. 医療裁判を経験した看護職の話を聞き、専門職としての法的責任・職業倫理について考える	講義
8	2. 医療と法 4. 医療訴訟と医療者の法律上の責任概要	1. チーム発表を通し、私の考える専門職としての法的責任について明確にする 2. まとめ	チーム学習
9	3. 医療安全と倫理的判断 1. 専門職としての法的責任 職業倫理 2	1. 専門職者としてケアの対象を捉える目 2. 専門職者の倫理的配慮の必要性和思考 1) 対象個人に与える影響 2) 対象の家族に与える影響 3) 社会が対象に与える影響 3. ヘルスプロモーションとして人々を支える役割と多職種が連携する意味	講義
10	3. 医療安全と倫理的判断 2. 事故防止の考え方	1. 医療事故と看護業務 2. 看護事故の構造 3. 事故防止の3ステップ	個人ワーク
11	3. 医療安全と倫理的判断 3. 看護実践における看護実践判断:その根拠	1. 看護判断 臨床判断 1) 気づき: 背景 2) 解釈 ① 推論パターン (分析的・直観的・説話的) ② 反応 (行為の選択決定)	チームワーク

回数	講 義 題 目	内 容	方 法
12	3. 医療安全と倫理的判断 4. 看護実践における看護実践判断:自己のケースにおける再構成	2. 看護判断 臨床判断 自己のケースでの再構成 1) 気づき 2) 解釈 ① 推論パターン (分析的・直観的・説話的) ② 反応(行為の選択決定)	チームワーク
13	3. 医療安全と倫理的判断 5. 看護実践における看護実践判断:その意味	3. 看護判断 臨床判断 1) リフレクション ① 行為中の省察 ② 行為の後の省察 2) 臨床判断能力の分析 ① 自己分析	チームワーク
14	3. 医療安全と倫理的判断 6. 看護実践におけるセーフティ	1. 対象の看護を考える 1) PmSHELL モデルを活用した事象の分析 2) 発表	チームワーク
15	まとめ 終了試験		
評価方法：終了試験：1 医療安全 20 点 授業内レポート及びチーム学習(課題学習を含む)： 2 医療と法 40 点 3 医療安全と倫理的判断 40 点			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 医療安全 医学書院 系統看護学講座 看護倫理 医学書院			
留意事項： 専門分野の最終段階、集大成として位置付ける。特に法・看護倫理・医療安全に関する事例を検討していくプロセスにおいて、自己の臨床判断能力の実際を知る一助とし、自己の課題を知る。			
学習サポート方法 1. 講義：9:00-17:30 科目担当の専任教員を訪ねること 2. Classroom の活用：教員の指示による(必要時)			

科 目 名：看護の統合と実践Ⅳ 看護の技術の統合 10 時間 看護の知識の統合 20 時間		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）	
履修学年：3 年次		開講時期：後期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）・非常勤講師				
学習目的： 1. 臨地実習の学習成果の定着を図り、個別性を尊重した適切な技術を実践できる。 2. 3 年間の総括として、主体的に学習する能力を養う。				
学習目標： 1. 精神・運動・情意領域において総合的に看護計画を立案することができる。 2. 的確な看護判断と適切な看護技術に基づき生活援助ができる。 3. 学習過程を具体的にリフレクションすることができる。 4. 専門基礎分野・各専門領域の知識の統合を図ることができる。 5. 最新の医療界・看護界の知見を学習できる。 6. 自己の知識について理解できる。				
回数	時間	講 義 題 目	内 容	方 法
1	2 時間	個人学習	1. シナリオの知識確認試験 2. OSCE / まとめについてのオリエンテーション	知識確認試験 個人ワーク
2 3	4 時間	OSCE (objective structured Clinical examination ：客観的臨床能力試験)	1. タイムスケジュール、試験問題 試験会場などは掲示で確認 2. OSCE 終了後 リフレクションシートの記入	技術試験
4 5	4 時間	まとめ	1. グループでのワーク、発表 2. リフレクションシートの提出	GW 発表
6 7	準備試験 7 時間	看護の知識の統合 準備試験 1	1. 形態機能学Ⅰ 2. 形態機能学Ⅱ 3. 社会福祉と医療関係法規 4. 予防医学	準備試験
			1. 病気の発生とメカニズム 2. 薬理作用と健康Ⅰ・Ⅱ 3. 臨床検査・手術・麻酔・放射線 4. 呼吸器・循環器 5. 血液・免疫・内分泌	準備試験
			1. 運動器・リハビリテーション 2. 男性生殖器・女性生殖器 3. 排泄機能（腎・泌尿器） 4. 消化器・脳神経	準備試験

回数	時間	講義題目	内 容	方 法
8		看護の知識の統合 準備試験 2	1. 基礎看護学 2. 地域・在宅看護論 3. 成人看護学 4. 老年看護学 5. 小児看護学 6. 母性看護学 7. 精神看護学 8. 看護の統合と実践	準備試験
9	知識の統合試験 13 時間	形態機能学 I 形態機能学 II 薬理作用と健康 病気の発生とメカニズム	1. 人体の正常な構造と加齢に伴う変化について 2. 人体の各臓器の機能を理解し、それらが統合されて体内の環境の恒常性が保たれる仕組みについて 1. 薬物動態について 2. 臨床で必要とされ、医療安全につながる薬物の知識・副作用について 1. 細胞の障害・生体の障害 感染について	試験
10		社会福祉論と医療関係法規 生活者の健康（予防医学）	1. 社会保障制度 2. 保険サービスの実際 3. 保険医療福祉分野での連携について 1. 健康と公衆衛生 2. 公衆衛生における感染症対策 3. 保健活動の基盤となる法と施策 4. 生活習慣病の予防と施策	試験
11		疾病の成り立ちと回復の促進 1 疾病の成り立ちと回復の促進 2 疾病の成り立ちと回復の促進 3	手術麻酔（手術療法と生体侵襲）・ 放射線・臨床検査・リハビリテーション・ 救命救急処置・人間の死・主な症状と徴候 呼吸器・栄養と消化・内分泌・血液・免疫 循環器・脳神経・運動器・ 排泄機能（腎泌尿器）・男性生殖器・ 女性性生殖器・乳腺	試験

回数	時間	講義題目	内 容	方 法
12		基礎看護学 1	看護学概論Ⅰ・Ⅱ	試験
		基礎看護学 2	看護方法論Ⅰ 看護方法論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	試験
		基礎看護学 3	看護方法論Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ	
		看護の統合と実践	看護管理・看護研究・医療安全と 基礎知識・災害看護	
13		地域・在宅看護論 1	地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	試験
		地域・在宅看護論 2	地域・在宅看護論Ⅳ・Ⅴ	
		成人看護学 1	成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	試験
		成人看護学 2	成人看護学Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	
14		老年看護学Ⅰ	老年看護学Ⅰ・Ⅱ	試験
		老年看護学 2	老年看護学Ⅲ・Ⅳ	
		小児看護学 1	小児看護学Ⅰ・Ⅱ	試験
		小児看護学 2	小児看護学Ⅲ・Ⅳ	
15		母性看護学 1	母性看護学Ⅰ・Ⅱ	試験
		母性看護学 2	母性看護学Ⅲ・Ⅳ	
		精神看護学 1	精神看護学Ⅰ・Ⅱ	試験
		精神看護学 2	精神看護学Ⅲ・Ⅳ	

評価方法：

1. 看護の技術の統合：シナリオの知識確認試験、OSCE（客観的臨床能力試験）
リフレクションシートを総合し 100 点とする。
2. 看護の知識の統合：25 科目（1 科目 100 点満点）とする客観試験を実施し、
その結果から総合評価する。

評価基準：60 点以上で単位修得

テキスト・参考文献：

留意事項：

1. 看護の技術の統合：卒業時の看護実践能力を一定以上に確保するため、OSCE を取り
入れた。看護実践能力育成において、学生の到達レベルの確保が必要であり、それまで
行ってきた実習の集大成と考えていただきたい。従って責任感、専門的知識、情報収集力、
コミュニケーション能力、実行力、論理的思考力、状況把握力、判断力必要とすることを
理解し積極的に個人学習と OSCE の望んでほしい。
2. 看護の知識の統合：3 年間で学んだ知識と臨地実習で培った能力を活用し、知識の集大成
として自己の能力を自覚できることと課題を明確にしてほしい。

2024年度 看護技術マトリクス

	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	母性看護学	小児看護学	精神看護学	地域・在宅看護論
呼 吸	成人の呼吸の観察（演） 吸引（演）	酸素療法・吸入療法 胸腔ドレナージ、 体位ドレナージ、 呼吸機能訓練・ 呼吸音の聴取（演）	体位ドレナージ 口腔内・鼻腔内吸引	妊娠中・分娩中の呼吸法 新生児の気道の確保 新生児の呼吸測定と観察 （シルバーマンリトラクションスコア） （アプガースコア）	乳幼児の呼吸測定法（演）	リラクゼーションと呼吸法	在宅人工呼吸器、 在宅酸素療法（演）
循 環	成人の脈拍の観察（演） 成人の血圧の観察（演）	心電図モニター装置（演） 血行動態モニタリング		臍帯結紮と切断 アプガー指数の採点 新生児の環境への援助	乳幼児の心拍測定法（演） 乳幼児の血圧測定法（演）		
体 温	成人の体温の観察（演）			基礎体温法 新生児の体温調節の援助	乳幼児の体温測定法（演） 電法		
栄 養	経管栄養（演） I V H 食事介助（演） 胃管留置の位置確認（演）		高齢者の食事と栄養 高齢者への食事の介助 （片麻痺、嚥下障害のある人、 認知症高齢者） 増粘剤体験 嚥下機能訓練	母乳栄養確立のための援助、 分娩時の食事、水分補給 妊婦・授乳婦の栄養所要量 乳房の手入れ法（演） 新生児の栄養（母乳）（演）	小児の栄養（母乳・人工 乳、離乳食、間食） 調乳法・授乳法 経管栄養		胃ろう、気切部のスキンケア 日常生活用具及び工夫 胃ろうの接続・注入（演） 前・中・後の観察（演）
排 泄	排便・排尿の介助（演） 洗腸・導尿（演） 摘便	胃チューブの管理 胸腔ドレナージの管理 術後のドレーン管理 人工肛門の管理 腸蠕動音聴取	高齢者の排泄 おむつ交換（演） 膀胱留置カテーテル管理	おむつ交換	乳幼児の排泄 おむつ・おむつかぶれ トイレトレーニング 小児の口鼻腔吸引（演）		気管切開部の吸引（演）、 移動能力別の排泄介助法（演） ポータブルトイレ、尿器、 おむつ、交換、摘便、 生活用品、 膀胱留置カテーテルの管理
環 境	ベッドメイキング（演） 病床整備（演） 臥床患者のリネン交換（演） 日常の環境整備・調整（演） 危険防止、衛生管理	終末期における環境	転倒を予防するための 環境調整 認知症高齢者の環境	分娩期の環境調整 新生児の環境調整 産褥期の環境調整	小児の居室・環境 寝具・ベッド 保育器の整備・取扱い隔離 （清潔隔離・感染症による 隔離）	環境への再適応とその援助 （セルフケアとその援助、 自助グループの機能） 閉鎖病棟 隔離室 鍵管理	在宅における療養環境 リスクマネジメント
休 息 睡 眠	睡眠を促す援助、 安静を促す援助、 良肢位の保持（演）		高齢者への睡眠の援助 高齢者の休息の取り方	褥婦への休息援助 新生児の抱っこ、あやし方（演）	小児の睡眠 （睡眠時間、昼寝）、 寝かせ方	睡眠を促す援助	
活 動 姿 勢	ボディメカニクス（演） 体位交換（演） 車椅子（演） ストレッチャー（演）	筋力テスト、 関節可動域測定 失明した人の歩行介助 運動機能訓練	良肢位・ポジショニング 褥瘡予防のケア	妊婦の姿勢 妊産婦体操 呼吸法と補助動作 産褥体操 新生児の抱き方（演）	乳幼児の抱き方 移送（おんぶ） 遊び、おもちゃ	レクリエーション活動	移動リフト（演）、社会資源 リクライニング車いす（演）
清 潔 衣生活	全身清拭（演） 寝衣交換（演） 洗髪（演） 口腔ケア（演） 手浴・足浴（演） 陰部洗浄（演）	ボディイメージの障害の ある人の衣服の工夫	高齢者の清潔と入浴 部分浴（手浴、足浴） 陰部洗浄 （おむつ交換に含めて） 爪の処置（演） 口腔ケアと義歯の手入れ	妊娠中の衣生活 腹帯 新生児の衣服の選択と着脱 外陰部消毒、陰部の保清、 悪露交換（演） 沐浴（演）、臍処置	点滴中の乳幼児の入浴（演） 坐浴 歯磨き 衣服、着脱 乳児の清拭		社会資源 おむつ交換（演） 整容動作
与 薬	皮下注射（演）、筋肉内注射、 皮内注射、経口与薬、 坐薬 点滴静脈内注射の管理（演） 輸液の管理（演）	インシュリンの自己注射 I V H・D I Vの管理	高齢者の経口与薬 高齢者の経皮・外用薬 高齢者の静脈内点滴注射 高齢者の座薬 服薬アドヒアランス向上の援助	新生児の点眼	小児の経口与薬（デモ）、 小児の点滴 （固定法、管理） 小児の点滴滴下の管理（演）		
診 察 検 査	採血（演） 尿比重・尿試験紙法（演） 喀痰採取 尿検査、便検査 放射線検査 MR I 穿刺	腹腔穿刺、内視鏡検査 自己血糖検査（演） 心臓カテーテル検査	検査を受ける高齢者に 対する援助 （項目は成人に準ずる）	妊婦健康診査（演） ノンストレステスト（演） 腹囲・子宮底測定（演） レオボルド触診法（演） 児心音の測定 骨盤外計測（演） 新生児の諸計測（演）	腰椎穿刺・骨髄穿刺 （固定法、観察） 乳幼児の身体計測法（演） （体重・身長・胸囲・頭囲）	心理テスト 脳波検査	
治 療	酸素療法（演） 創傷処置（演） 包帯法（演） 救命救急処置	硬化療法 インターフェロン療法 化学療法、放射線療法 手術療法 脳室ドレナージ 透析療法、C A P D 心臓ペースング、 電気除細動	手術療法を受ける高齢者に 対する援助 （項目は成人に準ずる）	切迫早産 妊娠高血圧症候群 妊娠糖尿病	手術療法を受ける小児の看護 化学療法を受ける小児の看護	電気けいれん療法 薬物療法、精神療法 音楽療法 作業療法 絵画療法 認知行動療法 SST （ストレングスマッピングシート活用）	在宅酸素療法 （HOT、CPAP、酸素濃縮器）
指 導 技 術		慢性疾患を持っている 成人への指導 （慢性腎不全・呼吸不全・ 肝炎・糖尿病・膠原病・ H I V） 術前・術後指導		個人指導、集団指導、家庭 母親学級（演） 褥婦・新生児への指導	小児の理解力に合わせた 指導（プレレレーション）（演） 家族に対する指導（演）	生活指導 社会生活技能訓練 障害者自立支援	在宅における指導技術 （個別指導から集団指導、 指導時期の特徴と要点） 社会資源活用技術（福祉 機器、値段と経済的支援）
看 護 過 程	看護過程の基本のプロセス 事例展開	事例展開：慢性期にある人 手術を受ける人	事例展開： 高齢者の特徴を捉えた看護	事例展開（周産期）	事例展開：小児各期 （乳児・幼児期・学童期）	対人関係論（患者－看護者 関係）を活用した看護過程 事例展開（統合失調症、 うつ病患者）	事例展開：在宅で暮す 小児・成人期・精神
観 察 記 録 報 告	観察・記録・報告 ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント （演）	術後観察（演）	Barthel Index IADL、N式ADL、NPUAP DESIGN-R、HDS-R、MMSE	ハルトグラム、プレクシグラム 母子健康手帳 エジンバラ	発達段階に応じた観察	参加観察	記録形式 （KOM I チャート） I C F ストレングスマodel
安 全 安 楽	感染予防の3原則、隔離、 院内感染、手洗い（演）、 無菌操作・包帯交換（演） ガウンテクニック、 事故防止（6 R等） 電法（演）	疼痛コントロール 感染予防対策	転倒の予防 身体拘束（演） 安楽な体位	固定法・分娩期のリラク ゼーション、バックケア 新生児の感染予防 妊・産褥期の安楽な姿勢（演）	抑制（種類、観察）：（デモ） 環境整備、事故防止	自殺予防 脆弱な自我を支えるアプ ローチ 転倒予防 危険物管理 隔離拘束 リラクゼーション	在宅構造とリスクマネジメント 災害時の対応
コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン	コミュニケーションの基本 技術（演）	障害のある人の看護	コミュニケーション障害 のある人への看護 （老人性難聴） （白内障・視野狭窄） 認知症高齢者との コミュニケーション	役割獲得過程にむけた コミュニケーション ヘルスプロモーションを活用した コミュニケーション	発達段階に応じた コミュニケーション技術	治療的コミュニケーション （カウンセリングの基礎、 受容、傾聴、共感） 自己洞察、自己活用 面接の技法 プロセスレコードの記載	在宅看護の主体 看護者の態度、行動療養者、 家族との関係の取り方、 家庭訪問時のマナー（演） 相談対応技術（演） （ラポール形成） （社会的スキル）
その他	看護の研究の基本	死後の処置	高齢者の模擬体験 ライフストーリービュ	妊婦体操		ピアサポート	在宅での死